

樹々のみどり

— 学生生活あんない —

'61



【 目 次 】

あ い さ つ	学 生 部 長 芦 田 譲 治	1
	同 学 会 委 員 長 渥 美 文 夫	2
	教 養 部 委 員 長 丸 一 忠 雄	3
同 学 会 の 歩 み — 戦 後 学 生 運 動 史 抄		4
同 学 会 の 年 中 行 事		21
同 学 会 は 現 在 ど の よ う な 活 動 を し て い る か		23
同 学 会 、 教 養 部 自 治 会 の 機 構		27
学 部 紹 介	教 養 部	31
	文 学 部	34
	教 育 学 部	36
	法 学 部	37
	経 済 学 部	38
	工 学 部	40
	医 学 部	41
	薬 学 部	43
	理 学 部	44
	農 学 部	46
サークル紹介		48
京都大学同学会規約		82
同学会教養部自治会規約		88
同学会役員名簿		92
学 内 地 図		93

あいさし

学生部長・理学部教授

芦田、譲治

同学会は、京都大学の公認している全学的な学生の自治会である。それは、学生諸君が学園生活を過ごすうちにあって、諸君に共通したいろいろの問題について自由に意見をだしあい、学園生活をより豊かな、より有意義なものとするため、自主的に解決の道を見つけようとするものと、わたしは理解している。自治会は民主的運営を前提としているが、このためには、会員のすべてが、会費をはらうことはもちろん、会の運営について、たえず関心をもち積極的に関与することが大切であろう。同学会が、諸君みずからの努力によって、真に諸君のものとして発展することを希望する。

あ い わ じ

同学会中央執行委員長 渥・美・文・夫

土の中がまるで血でも通っているように温くなり、再び春がやってきました。灰色の受験生活から解放された諸君はこの春を満喫しておられることでしょう。同学会を代表して諸君に心から入学おめでとう、のあいさつを送ります。受験生活の中でも諸君はゼンガクレンの安保斗争を覚えておられることでしょう。そして新聞や雑誌によって学生運動についても一定の知識をもっておられることと思います。

平和憲法をふみにじり、しかも暴力団や警官を院内に導入して社会党議員をこぼすぬきして、新安保―日本軍事同盟の成立を計った政府自民党、そしてその背後で糸をあやつっている独占資本に対して、我々は激しい怒りと憎しみをもって斗ってきました。

「学生は勉強だけしていればいいんだ」 「親のスネカジリのくせに」とかいうことをよく耳にしました。

しかしながら我々の学生の生活も社会とは決してきり離せないものであり、「平和と民主主義、よりよき学生々活」が保障されてこそ真理の探求が可能だと思えます。

学生も社会人である以上当然、社会問題について関心をもつべきであり、しかも安保のごとき日本国民を再び暗い谷間にひきずりこもうとするものに対しては、未来に生きる青年インテリゲンチャーとして真先に立上り警鐘を乱打する義務があると思えます。

又、我々は全国の学友と手を握り全学連の旗のもとに闘いを進める中で、新聞やラジオが一見中立のようにみせながらも、いかに我々の思想や行動を故意に歪曲して報道しているか、を身をもって経験しました。諸君に要望したいことは先ず、マスコミによってうえつけられた学生運動に対する先入感を捨てられることです。

「平和と民主主義、よりよき学生々活」のためにしっかりと手を握り合おう。

あ い さ じ

教養部自治会委員長

丸

一

忠

雄

閉ざされた世界から開かれた世界への脱却は諸君たちの努力と偶然とによってなされた。灰色の生活と俗称される閉ざされた世界において諸君は、激しい日々の苦闘と虚無感によっておわれたことであろう。

だがその閉ざされた世界における様々な問題を自分の心に定着させることから、開かれた世界の第一歩を始めなければならぬ。

僕たちが入学してまもないころから、安保問題がくすぶり始めた。そして、あの六月十五日に至る過程において、僕たちは、二つの対立を、そしてあれか、これか二者択一をせざるを得なかった。

諸君も、僕たちと同じように、学生生活の間に、その選択をせまられるであろう。そのために諸君は自ずからの問題意識を自己の内に定着させなければならぬと思う。

自治会活動とは、安保反対運動のような政治的課題、あるいは文化問題、厚生問題、どれか一つだけをとり上げてやられるものであってはならない。津波のように突然おしよせてくる政治の反動化に対し、僕たちはケツ然と立ち上がらなくてはならないであろう。政治において、文化において、自治会活動はただ、それだけの問題ではない。それらの活動を通して、「自己の変革」を最大限に追求しなければならぬ。

それなくしては、大学における日々は、無意味なものとなってしまふであろう。ともかく僕たちは諸君の入学を心から歓迎し、日々の活動と生活をともに送っていききたいと思ひます。

「ひとりではみんなのために」

みんなはひとりのために

同学会の歩み

戦後学生運動史

新入生のみなさんに、われわれの同学会の歴史を知っていただくために、学生運動の歴史にもふれながら、簡単にのべてみましょう。

△京大の創立と当時の状況▽

日清戦争の勝利は、綿紡、軍需工業を中心とした産業資本の急速な発展を促したが、それは、当時すでに帝国主義段階に移行しようとしていた先進資本主義者に伍して競争しようとする日本の資本主義が、一挙に近代的な帝国主義として成長していく過程の一つの側面でした。しかし、おかれて出発した日本の資本主義は他方では、高い小作料で土地にしばりつけられる多数の農民と、「寄生地主」を先進資本主義国のように完全に分解させずに温存したままでいた。

国家の機構が日本の資本主義の発展にはひじょうに大きな役割をしめる。近代的な産業の移植は、はじめから「官営」によっておこなわれたし、それに要する莫大な資金は、直接に国家の機構や、多かれ少なかれ国家との関係をもっている政商とよばれる独占資本からまかなわ

れた。

このようにして、官僚機構は、わずかな期間のあいだに実に龐大なものとなり、官僚機構と結託する財閥コンツエルの機構も龐大なものとなっていった。

このようにして、国家機構や資本家たちの機構の拡大につれて、従来まで、それらの機構に人間をおくりだしていた東京帝国大学だけでは足りなくなってきた。

京都帝国大学は、そうした要請にこたえて明治三〇年（一八七九年）に、まず理工科大学として出発した。そののち、法科大学、医科大学等々とつづくわえられ、今日のような総合大学の姿をとるにいたったが、東京大学について、官僚や財閥の大会社に人間をおくりだすことになった。しかし、京都帝国大学の場合、東京帝国大学が露骨に「官吏養成所」の性格をもっていたのに対して、たとえば創立を宣言した西園寺公望のもっていたような自由主義的性格を多少は反映していた。

△沢柳事件と「大学の自治」▽

西ヨーロッパの大学のように、何百年という歴史をも

たず、その成立事情からして、日本の独占資本の人的保障をつくるための性格をもっていた日本の帝国大学はいわゆる「大学の自治」たるものを完全にもちあわせていなかった。

大正二年の京大「沢柳事件」は一つの典型的なものである。新しく任官された沢柳総長が、ある教授を無能なりとして罷免しようとしたのに対し、教授会が、沢柳総長の教授罷免に反対し、教授会の自治を叫び、教授の任命、罷免は教授会のみから決するものとして一歩もゆすらず、ついに沢柳総長は退官せざるをえなかったのである。

この事件は、われわれに、大学が「国家権力」から相対的に独立しようとする権能をもちはじめたことを教える。これは当時の大学にあっては画期的なことであって、その後、「教授会の自治」が慣例として多くの大学で確立されるようになった。

しかし、「沢柳事件」は大学が「国家権力」から独立しようとするのと同時にいわゆる「俗論」からも独立して、単に特権的な学問の自由を享受しようとする「象牙の塔」への方向もさしめしていることをわれわれに教えている。のちの河上肇の辞職問題にはこうした方向が露呈されてくる。

△「京都学連事件」と当時の学生運動▽

日本資本主義は、その後、日露戦争から第一次大戦を経る中で、比較的順調な発展をとげ、それにとまなつて、労働者の数も増加し、労働組合の結成もすすむ。そして、大正時代のデモクラシー運動と政党政治は、来るべき世界的な恐慌と労働者階級の力の増大にそなえて、一定の譲歩として普通選挙の制度をうみだした。

しかし、その妥協とひきかえに、治安維持法が成立した。そして、この悪法の適用を最初にうけたのが、京大や同志社大や三高などの学生たちであり、「京都学連事件」(大正一四年、一九二五年)とよばれるものである。

第一次大戦、ロシア革命、それに米騒動などが労働者に大きな影響を与えるとともに、先進的な学生にも労働者階級に対する眼をひらかせ、東大に「新人会」、そして京大には「労学会」(大正七年、一九一七年)を生みだし、社研を中心にして、個人的で、手工業的なたちで労働者への働きかけを行っていたのである。京大の労学会は、河上肇を指導教官にして、ガリ版の「共産党宣言」を読んだりして、当時合法的には読むことのできなかった文献を学習したりしていた。

京都学連事件は同志社の「軍事教練反対」のピラをき

っかけに京大・同大生を中心に多数の学生を逮捕し、京大寄宿舎にも官憲の手はのびた。この時、一千名の学生が学生大会をひらき、他方佐々木、末川、滝川、河上、本庄氏ら法経教授団は意見を發表して、その不法さと学問の自由の侵害に強く抗議した。

当時、京大には、全学的な組織として、学友会なるものがあつたがそれは必ずしも、全学生のものとしての役割を果していなかつた。そこで大正一五年（一九二六年）学友会改善運動がおこり、のち昭和五年（一九三〇年）、文部省が学友会を御用化しようとする、この運動は、学友会の民主的運営、運動部偏重反対、学生の共済事業の拡充等を要求して、ついに会費の不払い運動にまで発展し、七割の学生が不払いに参加した。

しかし、当時の状況では、現在のように全学生をつつんだ組織が民主的に運営され、政治的な問題を全学生の討論により明確にし、行動する形態をとることを許さなかつた。つまり日本の資本主義が、一方で労働者、人民を搾取しつつ、海外市場の争奪にのりだし、中国への侵略戦争から太平洋戦争へとなだれを打って進んでいくのを学生という階層を組織して阻止しようとすることは全く不可能なことであつた。

したがって、新人会や労学会のように、あるいは社研

のように、個人的な加盟により、個人的に活動をつづけなければならなかつた。これらの状況は、たとえ、中野重治の「歌のわかれ」や「むらぎも」に生き生きと表現されている。

▲滝川事件と学生たちの抵抗▼

滝川事件に触れる前に、昭和三年（一九二八年）の河上肇の辞職問題にふれておく必要がある。河上肇については「貧乏物語」や「自叙伝」などで新入生の諸君も御存知の方が多いと思う。最初ヒューマニストとして出発した河上肇は、日本においてマルクス経済学を確立した学者のうちの有力なひとりであつた。河上肇の学問的業績の評価については、ここではふれない。しかし、京大にあって、河上肇の講義には哲学の西田幾多郎とならんで全国からの聴講者がおしよせたというエピソードがのこっているほどに有名であつた。

昭和三年にいたつて、文部省は、河上肇を退官させるように圧力をかけ、経済学部教授会はみずから彼の辞職を決議するにいたつたのであつた。

滝川事件は、昭和八年（一九三三年）におこつた。日本資本主義が、ぬきさしならぬ中国への全面的侵略戦争を準備していた時代である。

この事件は当時の文部大臣鳩山一郎が、滝川幸辰の著書「刑法読本」をとりあげ、マルクス主義的であるとして発禁処分を付し、さらに教授の休職を命じたのに対して、学問の自由、大学の自治を守るために佐々木惣、宮本英雄、恒藤恭、末川博たち法学部の教官が全員辞表を出してたたかった事件である。

日本の資本主義の国家独占資本主義への推移の過程は、国家権力の全面的な動員と、軍部を中心にしたフッシュの部分を前面におこなわれた。そこでは、労働運動やあらゆる社会運動が圧殺され、自由主義的な思想までも抑圧された。「滝川事件」はそのひとつの例証であり、その後の東大における河合栄治郎、美濃部達吉、矢内原忠雄らの教職追放事件も、「滝川事件」の延長とみることができよう。

この時の学生運動はどうであったか。

「滝川事件」に際して、法学部教授会のとった行動は、学生たちにも大きな影響を与え学生大会がひらかれ、時計台下の大ホールを講たして、文部省への抗議がおこなわれた。東京の学生も呼応してたちあがった。

しかし、これらの運動は、資本主義社会の基本的動因たる労働運動と全く無関係に、むしろ学生のエリート意識にのっかっておこなわれたものであり、鳩山文相の

「京大の閉鎖も辞さず」との弾圧の前に教授会の内部で意見対立がおこり、前記の教授たちが京大を去ると、学生運動もやんでしまった。

この「滝川事件」は、すくなくとも学生を大衆的に集めた点で、大きな意義をもつ。そして、その後、このような形で学生が「国家権力」に抗議するような事態は、太平洋戦争が終るまでみられなくなってしまう。

△「暗い絵」と「雲の墓標」▽

滝川事件に象徴される日本の資本主義の動向は、あらゆる民主的な自由主義的な運動をも抑圧しつくさずにはおかなかった。

京大生協の前身ともいえるべき、京大学生消費組合は、大学や警察のたび重なる弾圧にもかかわらず、学生の利益を守るため、社会運動の全滅的な状態のなかで、おそらく最後のとりでの一つとして活動をつづけたが、昭和十一年（一九三六年）にいたってついに解散させられてしまう。

このほか、文化活動の面でも、「世界文化」や「学生評論」などの雑誌が刊行されたが、いずれも二年たらずで発行停止のうき目を見た。そして、弾圧は京大俳句の会にまでおよんだ。

暗い谷間の時代がはじまり、そして、ついに昭和十六年（一九四一年）、日本は太平洋戦争に突入することになる。

先述した京大の学友会は、近衛内閣によってとなえられた「新体制運動」に合致するように改組された。多くの大学では「報国団」という形で具体化されたものの、京大では、当時の羽田総長らの「学風に合わない」という理由で、報国団の形ではなく、「同学会」として発足したのであった。現在の同学会はその名をこの組織より継続しているのである。

太平洋戦争の経過する中で、日本帝国軍隊の敗色が濃くなってくると、学生も、あるものは学徒出陣で戦場に、あるものは、学徒動員で軍需工場に勤労奉仕に出かけた。そこでは学問もなにもありはしなかった。

同学会は、その当時、出陣する学生に、ただ石清水八幡宮のお守りをおくることができただけで、先輩たちが「わたつみ」の叫びをのこして死んでいくことに對して、なんらの抵抗をなすこともできなかったのだ。

野間宏の「暗い絵」は、この時期の進歩的な学生の姿を、阿川弘之の「雲の墓標」は、戦争の終りに近い時期の学生たちの姿をいずれもとらえて描きだしている。

△敗戦と学園民主化の動き▽

戦後の学生運動は、まず、戦争の残遺物の掃除からはじまる。戦犯教授、無能教授を排斥する運動が、四五年度の後半に、東京上野高女を皮切りに、水戸高校、静岡高校等々で自然発生的におこる。

東大では、大内兵衛・矢内原忠雄教授、九大では向坂逸郎教授、京大では滝川幸辰教授ら追放されていた教授たちが学園に復帰した。

学長公選の制度もこの際に確立された。京大では学長選挙権は現在教授にしかないが、東大などでは専任講師にまで、名大などには助手にまで、さらに一橋大では、間接的にはあるが学生をもふくめての学長選挙権が確保されている。

民主化のたたかいは寮でもおこなわれた。舎監の半封建的な監視や一部のボスたちの手から学生の自治に寮の管理と運営の権利がとりもどされた。

京大では、こうした学園民主化の運動を全体として統括するため、「同学会」の民主化がさげばれるようになった。

このための具体的な動きは、一九四六年十月に、非民主的教授を追放する全学学生大会の中で具体化され、一

二月には、同学会の民主的な組織がえがなされた。

この措置によって、ひとまず戦時中の「報国団」の性格がはっきりとぬぐいさられ、同学会は、京大の学生自治会としての性格をととのえることになる。しかし、この第一次の民主化というべき措置では、未経験からくる多くの不十分さがのこされていたこともたしかである。

この時期に、全国の主要な大学では、ほとんど同様にして、学生自治会の組織がつけられていった。これは戦前の学生運動が、いわば、個人加盟ともいべき学生組織であったのと比べて、自動的に学生全員が自治会員となる全員加盟制の学生組織であって、この全員加盟制の学生自治会が戦後の学生運動の特徴をかたちづくる大きな要素となるのである。

△大学理事会法案反対運動と全学連の結成▽

しかし、これまでの学生の運動は、非政治的であることと特徴としている。たとえば、一九四七・二・一に労働者階級が立ち上りの方向をめざしたのに対して、その前日宮城前広場でひらかれた関東地方の学生の集会では「学園の復興」「民主化」の線はかかげられたが、吉田内閣打倒の決議はおこなわれず、その上に二・一ストとの無関係、政治性の排除をとくに宣言するという状態であつた。

しかし、この時期にすでに、占領軍CIE顧問は、学生運動に対する覚書を發表し、学生が「自治の実験室」のわくをこえて学校行政にくちばしを入れることはまかりならぬと言明し、さきに四六年九月には田中耕太郎文相は、教職員学生の政治運動介入を禁ずるとの言明がすでになされていたのであつた。

新憲法の施行と、総選挙のあと、社会党内閣が成立すると、これと照応するがように、学生運動は四八年まで沈滞をむかえる。

四八年の三月に、大学管理理事会法案なるものが發表された。これは地方大学を都道府県に委譲し、地方財界人を含む理事会に大学を管理させようとするものであつて、多くの大学教授たちがこの法案に反対した。

さらに、この時期に国立大学の授業料値上げが文部省によって發表され、四八年の六月には、日本の学生運動史上、かつてなかった全国的なストライキが組織的に計画的におこなわれ、大学管理理事会法案を廃案にさせ、授業料値上げの阻止にこそ失敗したが、分割払い、納期延長をかちとり、同時に、学割の無制限発行、育英資金の増額をたたかいとつたのである。

これまでの学生運動の発展の過程で、地方的に学生自

治会の連絡がとられ、さらに国立大学、全国高等学校の連絡協議体が組織され、とくに授業料値上げ反対闘争の中で、国立大学学生連合（国学連）の果たした役割はひじょうに大きなものがあったが、四八年の九月にこれらの組織をまとめ、さらに私立大学をもくわえた全日本学生自治会総連合（全学連）結成大会がもたれるにいたったのである。

全学連は、結成直後、葬りさられたはずの大学管理理事會法案の再理ともいうべき「大学法案」を文部省が用意しているのに対して、四八年暮から、四九年五月にいたるまで、ふたたびストライキを中核とした反対の闘いを展開して、第二次吉田内閣を屈伏せしめるのである。大学法案は国会への上程を見合わされたのである。

京大では、四九年四月に、京大看護学校卒業生の不採用事件を契機にして、同学会の組織の民主的改革がおこなわれ、さきの四六年の改革とあわせて、ほぼ現在と同様の学生の自治組織として、確立されたのであった。

△レッドバージ反対運動▽

第二次世界大戦が、明確に帝国主義戦争としてたたかわれたがら、反ファシズム統一戦線の名をもって、日独伊枢軸国に対して連合していたアメリカを代表とする

自由主義諸国とソ連との密月は、終戦後、数年たたぬうちにやぶれ、冷たい戦争が拡大されていった。この冷戦をいっそうはげしくした契機は、中国における革命であって、四九年十月中華人民共和国の成立をみると、従来までの日本の地位とは違って、非常に重要な役割をしめるものとなってくる。四七年の二・一スト弾圧にみられたアメリカ占領軍の民主的運動や労働運動に対する直接的・間接的な弾圧ははげしいものとなった。下山・三鷹・松川などの怪事件がおこり、公安条例が各地で公布され、国鉄をはじめ労働者への大量くび切りの嵐がおそいかかった。

大学においては、進歩的教授追放と学生への処分という方向でそれがあらわれ、C I E 大学教育顧問 W・C・イールズ博士の反共演説全国行脚がそれを示唆していた。

しかし、日本の学生はイールズ博士の講演を放置しはしなかった。五十年五月、東北大学、北海道大学でイールズ講演が拒否され、これを契機として、「全面講和と全占領軍の撤退」「イールズ声明反対、レッド・バージ反対、軍事費に使われる授業料不払い」等々を目標にかかげた闘争が全国的に展開されていくのである。

しかし、六月二五日に朝鮮戦争が勃発すると、準備さ

れていた全産業、いやあらゆる分野にわたるレッド・パージの嵐がおしよせた。労働組合の闘争に対する弾圧、現在の自衛隊の前身である警察予備隊もこの時創設されたのである。

イールズ博士の講演を中止させその結果、一時的に止んでいた学園への攻撃が、九月に入って天野文部大臣の言明で明白となった。

夏季休暇で、ストックホルム・アピールを郷里にもちかえり、原爆禁止と五大国平和会議を要求する署名をあつめていた学生たちは、二学期に入り、やがてむかえる試験期に学園でのレッド・パージが強行される危険が濃厚になったとき、東京の学生を中心に、「試験ボイコット」というかつてなかった戦術で、レッド・パージの嵐をはねのけようとして闘ったのである。

このようにして七月の報道関係のパージを皮切りに、全産業、官公庁、芸能界にまでわたってふきあれた嵐は、学園の中にはしのびいることができなかつた。学園の中からはひとりのパージもだすことはなかつたのである。

東京からはじまった闘いは、学生たちで組織された遊説隊の派遣などもあって、全国的に波及した。

京大では、この闘いにたち上るのがおくれたが十月に

いたって、経済学部を中心に参加して、全国闘争の一翼をになつた。

ここで触れておかなければならないのは、同学会の作製した「原爆展」のことである。ストックホルム・アピールにこたえ、全学生の創意を結集して、当時占領下で被害を充分にしらされていなかったヒロシマ・ナガサキの実態を明らかにした。この展示は、京都丸物百貨店を皮切りに、全国各地を巡回して、おおきな反響をよんだ。(そして、十年後の六十年に世界平和評議会と日本平和委員会から、表彰をうけた。)

△一九五一年の斗い京大天皇事件▽

朝鮮戦争が、中国義勇軍の参加と、国際的な平和擁護闘争の力によって膠着状態におちいついていた。アメリカは日本との単独講和条約の締結を急ぐ必要があり、五年の日米講和条約と日米安保条約の締結となつてあらわれた。

学生は、前年にひきつづいて、「平和擁護・単独講和反対・全面講和締結」の方向を堅持した。

五一年の夏から、秋にかけて、「全面講和締結・単独講和反対」の集會が、ひらかれた。しかし、五一年の暮から、東京・北海道・関西等の学連組織で、執行部の辞

任、交替がおこり、全学連はその闘争力を低下せしめていくのである。

京大では、五一年一月に、いわゆる「天皇事件」がおこった。

天皇の京大訪問に際して、京大同学会は「天皇への公開質問状」を発し、プラカードと「平和の歌」で天皇を迎えたのである。この事件は、警官の侵入と、同学会の解散と役員の処分となって発展していったのである。

ここで、われわれは、レッド・ページ反対闘争を頂点とする学生運動の高揚はなによってもたらされたが、そして、その高揚が後に述べる低滞へと導かれていったのはなぜか、その歴史の中で、京大の同学会はどのような役割を果たしたのかを簡単に検討してみなければならぬ。

戦後の学生組織が、全員加盟制の学生自治会であることは先述したが、そのことは、日本の学生が層として、社会運動の中に参加できるし、明確な政治的目標をかかげて、それを自治会の民主的討論・運営のもとに全学生の行動としておこなわれることを可能にしたのであった。大学管理法案・大学法案反対闘争、レッド・ページ反対闘争の高揚はこの例証である。事実、この時期、武井昭夫委員長の下に、全学連はよく学生の潜在している

エネルギーをひきだして、朝鮮戦争を前後にする反動攻勢とたたかいたのであった。

これに対して、五一年の後半に入ってもっぱら学生運動の外から、理論的対立と大衆団体の民主的運営の原則を無視したセクショナリズムがもちこまれ、全学連の闘争力組織力はいちじるしく低下させられていく。(理論的にも、組織的にも、現在それらの問題は結着がつけられているが、詳細にのべるだけの時間と余白がない)

京大の同学会は、残念なことに、この五一年後半からの全学連の「悪しき」方向転換の主導的役割を果たしたのであった。

京大天皇事件の評価についてもわだつみの悲劇がわれ去られようとするとき、しかも、朝鮮戦争のさなか、日本の再軍備がすすみ、日本の資本主義が不死鳥のように復活しようとしているとき、「天皇制」に主要な目標をさだめ、当時の、講和条約・安保条約の本質のバクロとこれに対する闘争を客観的にネグレクトすることになったという点で、正しくないし、戦術的にも当時の地域人民闘争の流れをひきつぎ、京大だけの闘いで、しかも同学会解散という高価な代償を支払わねばならなかったことを考えると、誤りであった。

〈学生運動の低滞の時期〉

一九五二年、全学連第五回大会が京都において開かれ、武井昭夫らの執行部にかえて、新しい執行部が選出される。

その後の日本学生運動は、五五年末、全学連の組織が崩壊に近い状態にいたるまで低滞をつづけることになる。

この時期の学生運動の主要な特徴は、学内においては、学生の日常要求にもとづいた闘争ということで、学生層としての結集をさまたげ、学生に政治的問題を提示しないことで、闘争の目標を科学的にさだめ、有効な打撃を相手に与えることができず、逆に、先進的な部分だけを極左的な行動におもむかせることとなり、自治会組織の弱体化を招くのである。

この時期に、いくつかの警官との乱闘がおこっている。五二年二月の東大ボボロ座事件三月の北大事件、四月の全学連事務所閉鎖事件、五月に入って「血のメーデー事件」さらに、早大事件、愛知大事件等々がある。

あいつづく暴力事件の間に、講和条約の発効と「独立」して、占領法規にかわる反政府運動弾圧のための「破壊活動防止法案」が発表された。

破防法反対のために、総評もゼネストをきめ、学生運動も同様に闘争体制に入るが、ここでも、吹田事件、大須事件とよばれる火焰ビン等による武装行動があり、学生運動もまた多かれ少なかれこの戦術に影響されていたのである。破防法闘争は、このようにあやまった方針の下にたたかわれたとはいえ、教次にわたる労働者のストライキ行動が中核となり、破防法そのものは阻止することができなかったが現在にいたるまでその濫用を許さぬ大きな力となっている。

五二年後半から、五三年にかけて、いちじるしい高揚をせしめたものに、基地反対闘争がある。日米行政協定にもとづく米軍の基地は全国で七百カ所をこえ、土地収用に對する農民の反対闘争は、内灘、妙義山、浅間山、富士山の演習地化反対闘争が全国的にたたかわれた。この闘争に對して、学生運動の先進的活動家は、学生戦線の強化という第一の任を放棄したかたちでかりだされたのであった。

〈同学会の再建と荒神橋記念祭事件〉

天皇事件によって解散を命ぜられた同学会は、その後、自治会代表者会議によって、その仕事を代行していた。五二年夏の破防法闘争のあと、同学会再建準備会が

組織され、五三年六月に、再建投票がおこなわれ、四五〇〇の学生の賛成投票を得て、同学会は再建された。そしてその夏、すぐに帰郷活動が展開され当時打ちだされた一学生選挙権の郷里移管の自治庁通達に反対する闘いがくまれた。

五三年秋に、全学連の主催になる「学園復興会議」が京都で開催された。会場に予定されていた京大では教室使用が許可れさず、抗議する学生に警官の出動を要請し、さらに、わだつみ像の歓迎デモに加わろうとした京大生の隊列が荒神橋上で待機していた警官隊によって突きおとされるといふ荒神橋事件がおこった。これに対する大学側の処分は、全京大の無期限ストに発展していった。

五五年に入って、五月から六月にかけて、創立記念祭の行事のうち、全国学生ゼミナールに他大学の学生の参加を認めるかどうかの問題がひとつの争点となり、滝川総長に対して会見を求める際に、総長に暴行を加えたとする記念祭事件がおこった。「暴行」の事実そのものについては目下大阪高裁で係争中であるが、この事件を契機として、同学会は、ふたたび解散させられる。

△全学連第七回中央委員会から八回中

△中央委員会第九回大会へ▽

一九五三年に朝鮮戦線の休戦協定が結ばれ、五四年四月にジュネーブ会議、そしてインドシナ休戦と「緊張緩和」と「雪どけ」、さらに、日本資本主義の比較的順調な発展は、学生運動にも反映して、「うたごえ運動」・ゼミナール運動、スポーツなど、また、ワルシャワ・フェスティバルへの代表派遣等々、広汎な学生の統一した行動をすすめるため、学生の求めていることに具体的に応えていく実際の活動がおこなわれなければならぬ。いとして、学生自治会はゴミ箱の設置や時間割変更の交渉をひきうけ、ある自治会では、針と糸を用意するまでになった。

こうした活動において、全学連の組織、さらには学生自治会の組織の無用論がさげられるのも不思議ではない。事実、関西学連、東京都学連は解散決議寸前にまでおちこんでいくのであった。

このドン底の低迷の時期、五五年九月に全学連七中委がひらかれるが、ここでは、各自治会の経験が、仲よしクラブのように語りあわれるだけで、国際情勢・国内情勢の分析はなにもありはしなかった。

しかし、伝統は消え去りはしなかった。日本共産党の六全協とともに、国民戦線から追放されていた人々が、復帰しはじめ、全学連のたてなおしに努力する。そし

て、それは、五五年の暮、国立大学の授業料値上げを機に東大教養学部を中心にしなしてなげられるのである。

この東大教養学部の闘争の成功は低滞をきわめていた学生運動に大きな影響を与えた。自治会の確固とした、しかも科学的うらづけをもった方針の提起、クラス・サークルでの徹底的な討論、休むことのない情宣活動がこの運動の立ちなおりの実体であった。授業料の値上げはその結果、半額におしとどめることができたのである。

五六年四月に全学連の八中委がひらかれ、東大教養学部の報告を中核に、七中委の路線が克服され、新しい方向がめざされた。

そしてこの八中委の方針は、五六年の五月小選挙区制法、教育三法案に反対する運動の中で、おどろくべき速さで学生たちをとらえはじめ、小選挙区法案と教育三法案のうち二つを廢案にせしめる大きな成果をかちとるこになる。

日本学生運動は、その低迷の時期からぬけて、新しい高揚へとむかうのである。そして、この学生運動の再建の方向は全学連第九回大会によって明確となり、いわゆる八中委・九大回路線として定着される。

△砂川斗争から十一・一斗争まで▽

五六年夏、長崎における第二回原水爆禁止世界大会に参加した学生たちは、この教訓を秋の砂川基地拡張反対闘争に、再建になった学生運動の力量を投入した。

五五年の砂川闘争においては一人の学生もこれに参加しなかったことを考えあわせて、なんとという相違である。

この砂川闘争での勝利は、国家権力との流血の闘いによってかちとられたものであったが、それは五三年にたかわれた基地闘争で、先進的部分のみをクラス・サークルと無関係にひっこぬいた闘いとちがって、徹底的なクラス討論にもとづいた多数の学生の現地におもむいてたたかう方式であった。

その後、五六年末から五七年にかけ、国鉄運賃値上げ反対闘争、沖繩の原水爆基地化反対闘争がたたかわれるが、五七年五月、イギリスのクリスマス島での水爆実験に反対する闘いで、核実験反対闘争の本格的な口火がきられることになる。

五七年夏の第三回原水爆禁止世界大会は、東京宣言を生みだし、そして、五七年十一月一日に、核実験禁止のための国際統一行動となって高揚する。

五〇年のストックホルム・アピールから、五四年のビキニ被災をへて高揚にいたる核実験反対闘争は、この十

一・一闘争で頂点をむかえる。しかし、学生運動はこの核実験反対闘争をいわば試行錯誤的におこなうなかで、平和擁護闘争とはなにか、真に平和を擁護するためには学生運動は社会運動の中でどの部分と結合し、どの部分に主要な打撃を与えねばならないかという根本的な問題の究明にむかっていくのである。

鳩山内閣から、石橋・岸へと内閣が交代し、朝鮮戦争を踏台にして、神武景気を経た日本の独占資本主義が、生産力を戦前の数倍に増強し、資本の対米従属から「日米新時代」という言葉に象徴される新しい段階への準備を開始し、海外、とくに東南アジアへの進出と国内における労使協調と資本の安定した支配体制をうちたて、帝國主義国としての復活をめざしていた。

核実験反対闘争は、実際に「平和の敵」に有効な打撃を与えているのであるのだろうか——、このような疑問から、出発して五八年に入って世界の耳目を集めたフランスにおけるド・ゴールの登場、そして国内においては日教組に対して勤務評定の攻撃が加えられている状況の下で、日本の学生運動は全学連第十一回大会をもつにいたるのである。

同学会の解散後、京大では、いちじるしい低滞がおとずれた。五六年の学生運動の再建の過程でも、京都にお

いて立命館大学より遅れたが、五六年の宇治分校、五七年の吉田分校の活動から回復の地歩をきすきはじめ、十一月一日の行動には、大学当局のはげしい弾圧の下で吉田、宇治両分校の実質的ストライキをかちとった。自治会代表者会議は円滑に活動を開始した。また、五六年の河上祭にスローガンとしてかけられた同学会再建は、五七年五月に再建準備会が発足し、新しい規約の検討にとりかかり、十一・一の高揚のあと、十二月に大学からは許可されぬまま、再建の是非を学生諸君に投票で問う、過半数の賛成を得たのであった。

△ 勤評斗争 警職法斗争 —— 学生運動の転換 ▽

五八年五月末の全学連第十一回大会は、先きのべた情勢に対応して、「平和擁護闘争の第一義性」からぬけきり、真の平和とは資本主義そのものを止揚することであり、帝國主義の打倒によってかちとられるとする基本的な見解をふまえつつ、当面する勤評闘争をどのように位置づけるか、単なる核実験反対か核武装反対かといったテーマの出しかたで具体的闘争の中で対決点をさがしもとめていった。

この解答は、和歌山における勤評闘争が与えてくれる。

五八年九月、全学連十二回大会は、十一回大会においては、「前進した部分」と、「そうでない部分」との混在であった点を、一歩すすめて、いわゆる学生運動の転換の理論を形成する。

学生運動の転換については、もちろんそれが学生運動だけ独自にすすめられたものではない。すべての社会運動、とくに労働運動の指導部の動向に大きく関係をもち、また単に机上の空論ではなく、つねに現実の運動の教訓の中から胚胎されてきたものである。

その内容をあげると、(1)国際情勢・国内情勢の分析の視点を、恣意的に闘争目標の「窓」からだけみることなく、また、情勢を「両体制の競争と結果」という客観主義的・現象的にとらえるのではなく、情勢のもっとも基本的な動因である労働者階級と資本家階級の闘いの延長として把える。(2)その上で、労働者階級の利益と学生の利益の基本的同質性をみとめつつ、学生運動の立場から媒介的に労働者階級の任務と方針をとらえなおす。——ことを基本点とし、いわゆる労学提携の思想を生みだしていったのであった。

もちろん、この転換の理論の基礎は、いままでなかったわけではない。レッド・パーシ反闘争の際、武井委員長らに指導される全学連と全労連との共闘は具体的プ

ログラムに上っていたし、学生が層として労働者階級の同盟軍たりうることは語られていた。しかし、この思想は五二年の執行部交代とその後空白の期間に充分生かされることなかったのである。

五八年の秋の勤評闘争と警職法闘争は、この理論の基本的正しさを証明するとともに、数多くの経験が、戦後の学生運動史の中にかきのこされることになった。

京大では、勤評和歌山闘争の一つの拠点となるとともに、奈良闘争、警職法闘争の中で、大衆的闘争に成功した。

五八年の六月には非合法下の同学会代議員選挙がおこなわれ、処分者を出したが、ただちに反闘争を組織して処分を一週間で解除させることに成功し、その後、学生部課長の更迭をかちとり、五九年の同学会再建の礎をつくったのであった。

△同学会再建▽

京大では、五九年五月から六月に、同学会再建の運動をおしすすめて、四三〇〇余の賛成投票をえた。ひきつづいて代議員選挙もおこなわれ、ついに同学会再建はなった。

新しい同学会の下に、学生部教授制度撤回の問題・国

鉄運賃学割改悪反対等の闘争をおこないつつ、安保闘争にとりくみ、京都における闘争の柱となってきた。

他方で、十一月祭にみられるように、創造的な新しい文化活動にもとりくみ、大きな成果をあげることができたのである。

〈安保反対運動——全学連の歴史的運動〉

I 一九五九年——激動の前夜

① 日米新安保条約とは何か

一九五九年の後りから、一九六〇年にかけてすべてのマス・コミにさわがれた「新安保条約」は、一九五一年に結ばれた「安保条約」を日本の支配者の手によって改めようとするものであった。一九六〇年にいたって何故改定しなければならなかったのだろう。この点をはっきりせず、全学連を中心とした、あの激しい運動を理解することは出来ないのではないだろうか。

第二次世界大戦による敗戦によって、日本の資本主義は懐減状態に至した。そして、日本は資本主義国として発展していくためには、軍事的・経済的に米国のそれに頼らざるを得なかった。新入生諸君も知っているとおぼり、その期間において、日本の民族問題が日本の津々浦々に起った。そして、その「法律的規定」が、米国の一

方的な利益だけを保証した、一九五一年の「日米安保条約」であった。その後における、日本経済力の発展による相対的な日本の地位の高上により、一九五一年の「片務的」な「安保条約」を「双務的」なものにする必要性を日本の支配者が考え、米国の支配者につきつけ改定させたのが、今度の「安保条約」だ。即ち、日本の国際的地位の一九五一年から見た高上の「法律的措置」であった。

内容的には、明らかに「日本と米国の軍事同盟」であった。しかも「双務的」であるが故に、米国が介入する「すべての戦争」には「日本軍」が介入するという意志を表明したものであった。

② 激動の前夜はいかに準備されたか。

一つのが最高点に達するためには、それに数倍する準備の時間があった。

安保反対運動は一九五九年一月二十八日の第一波統一行動から始まった。

六月二十五日、全国的に初めての大衆的統一行動に成功した。

夏休みもすみ、前期試験も済んだ、十月二十日・三十日に全国をゆさぶる統一行動が行なわれた。そして十一月二十七日、——日本歴史上、三度目の「国会を泥蹴で

ふみあらしした運動」が展開された。前夜、とほうもない天文学的数字のロッキードの購入を自民党の独裁によって決められた、その国会に、学生、労働者の怒りは爆発した。「神聖な」とキャンペーンされた国会は、十一月二十七日によってそれが完全に「ウソ」であることがバクロされた。この運動によって、「安保を反対して闘う」内部に、動揺があった。しかし、この動揺によっても全学連は揺ぐどころか、ますます、一九六〇年のより以上に激しくなる時にむけて進んでいった。

II 一九六〇年——激動の年

一九六〇年は一月十六日の羽田デモによって明けた。その朝の羽田はミゾレまじりの雨がふっていた。その雨の朝、羽田空港という、日本と米國との結節点に千数百名の学生と若干の労働者とが、その米國への路を立ち切るために坐りこんだ。そして岸首相は国民の目をかすめて、米國へと飛びたった。まさに、この羽田デモこそ、日本の硬化した思想界にカツを与え、思想界に再編成の基盤を与えた。

この羽田デモこそ、まさに日本の学生運動・労働運動に、「本当に安保を阻止するためにはどうすればよいのか」ということを改めて考えさせる機会を与えた。

III 一九六〇年——激動の日々

この羽田デモの与えた影響は、春休み、新学期の空白期をとびこえて、四月末、五月の反対運動へとひきつがれていった。

五月十九日、この日は、日頃支配者たちが、「神聖で犯すことの出来ないもの」として、キャンペーンしていた国会を、支配者自ずからの足と手によって、犯したものの以外のなにもでもなかった。

いいかえるならば、「国会が神聖だ」というのは、支配者の単なる宣伝にすぎないこと、もし、それが必要となるならば、宣伝している当の本人が、それをも破るのだという、証明にしかすぎないということであった。

この「議会が、国民の意志とは反対に、いや無関係にはこばれている」ということの怒りは、六月四日の国鉄労働者の抗議ストとなってあらわれたのであった。

六月十日、ハガチーアイゼンハウアー米國大統領秘書が来日し、岸内閣に対する米國のテコいれに反対し、ハガチーをとりかこみ抗議した。

そして、六月十五日が、安保反対運動のスケジュールとしてではなく、まさしく最大限の国民の怒りの表現として斗われたのであった。悲しい犠牲——僕たちは、自ずからの生活と権利を脅やかさそうとするものに対し最大限の抵抗をしようとするとき、多かれ少なかれ犠牲とい

う尊い代償を払わなければならないとしても、余りにも悲しい犠牲——をまで払って僕たちは斗わなければならなかった。日本の軍事同盟——戦前の、そして戦中の中国、東南アジアの国民たちの、そしてそれがしいては日本国民の悲劇ともなったのであった。——を粉砕し、本當に日本のいや世界中の平和な国民を守ることが絶対に必要だったのだ。

だが、安保反対運動は、岸首相の退陣を勝ちとったものの、安保を阻止出来なかった。

安保反対運動に関心のあったものも、なかったものも、このことを大学生活の問題意識の第一歩としなければならぬであろう。

六月十五日をピークとして安保反対運動の熱は、スコールが砂漠の砂の中にすいこまれていくように、日本の夏の青空の彼方にちぎってしまったように見える。だが、安保反対運動にどういう形にしろ参加した学生、労働者、一般市民の心のどこかに、一生忘れることの出来ないものとして、しまわれているであろう。そしてそれと同様に、僕たちは、先頭になって参加し官憲の手によって僕たちの手からうばわれた樺さんのことを決して忘れてはならないであろう。

IV 学生運動の歴史から何かを学ぼう

若き日の日々は、再び帰り来ぬ時だ。僕たちがそこに、その時になにを求めたのか、それは各個人の自由というものだ。

だが、はたして、僕たち二〇世紀後半に生きる若者にとって、はたして社会から孤立して存在することが出来るであろうか。僕たちが生きる一日一日が、反動的に日本がなりつつある一刻一刻でもあるのだ。そのことをぬきにしては僕たちの存在は無意味なものになってしまうであろう。

全学連——自治会活動の歴史はジグザグの道であった。そこには誤った活動も、馬鹿げた喜劇もあった。だが、僕たちは、そこに日本の学生運動の類いまれな活動をも見出すことが出来る。

それは何か。それはあらゆる僕たちの生活と権利を脅やかすものに対し、最大限の、徹底的なる追求の手をゆるめることのない活動、すべての反動的なものに対し敏感に、全国的統一闘争でもって立ち上がるという伝統的活動のスタイルである。

このスタイルこそ、全学連の十三年にわたる歴史の中から得られた結論であり、それこそが学生に課せられた現代日本における任務なのだ。これを課しうるかどうかは、僕たち自治会構成員一人一人の自治会活動に対する参加によって決定されるであろう。

同学会の年中行事

新入生歓迎

新入生の諸君が大学生にまだなりきれぬ四月の中旬、恒例の新入生歓迎会を開く。内容は立命館大学総長の末川博先生の講演会、現在問題となっている教育問題、大学の自治とは何かについての講演会、あの生々しい安保反対運動を再現するニュース映画、京大のサークル紹介等、その盛りだくさんな内容は、京大生となって間のない諸君を圧倒するであろう。日は、四月一三・一四・一五日を予定している。

河上祭

河上祭は、例年河上肇先生の命日一月三十日を中心としておこなわれて来た。京大の生んだ偉大な経済学者河上先生が歿してからすでに十四年の月日がたった。その間河上祭は単に京大経済学部学生のものとしてのみならず、反帝自由を願う全ての人口の共有財産として戦後の風波の中を守りだてられてきた。昨年より一月末は学年末試験のため、大きな盛り上がりが見られなかったため、今年も四月二十一・二十三日として、新入生諸君も積極的に参加し

てもらうことに決めた。

創立記念祭

五月になり、木々の緑も一段と色づく頃となると、京都大学創立記念祭がもたれる。

同学会代議員選挙

後掲の規約により、同学会では毎年六月と十二月に代議員選挙が行なわれる。京大生である全ての諸君は代議員となる資格があるし、又選挙する権利がある。学生運動は僕たちの手でできあげられる。現在の学生運動を批判される諸君も、ただ横を向いてしまうのではなく、自ら正しいと思うことを主張し抜こう。真の意味での、主体性を各自がもつのだ。

教養部正副委員長選挙

宇治分校が吉田分校に併合されて、自治会も一つとなった。今までの二つの自治会のときとちがって、委員長、副委員長が全教養部学生の直接選挙制となった。時期は大体六月・十二月の二回である。

教養部自治会を本当に全教養部の学生のものとするため

に、積極的に参加しよう。

対東大戦

「濃青」というパンフレットをすて手にされたことであろう。英国の例にならって、東大がライト・ブルー、京大はダーク・ブルーの旗をふりかざして、例年六月末から七月にかけて、東大―京大定期戦が、あらゆる部門にわたってくりひろげられる。アマチュアスポーツとしてのオーソドックスな道を歩む東大と、西の京大との対戦は強弱をぬきにしてもまた大きな意義を持っている。

夏休み帰郷活動

あつという間に夏休みが来る。諸君もそれぞれ故郷へ散っていく。それまでの期間に、諸君は大学生活から何ものかを学びとってゆく。その成果を突らせるひとつのカギが、夏休みに各自が故郷でくりひろげる帰郷活動である。

11月祭

年間を通じて同学生会文化部が行なう最大の行事が、京大の文化祭―十一月祭である。

毎年全学生の文化的創造の場として提供され、毎年その共通テーマは、全国の文化界・思想界に激しい論争のテーマを提供する。五九年は「戦後意識の解明」六十年が「国家独占資本主義下のサディズムとマゾリズム」であった。

また各サークルも一年間の成果を発表する場として京大文化の花を咲かせる。

新入生諸君も、日頃集っている問題意識をじょじょに鮮明にし、積極的に解明していこう。

やがて冬休みがくると、間もなく、最もアタマのいた試験期に入る。しかし、この間十二月には全国教育系学生ゼミナール、一月には哲学ゼミが京都で行なわれる。全教ゼミが京都でおこなわれる。全教ゼミは今日、今日、教育の反動化、思想統制の動きがロコツとなつて来ている中で、きわめて大きな課題を負っている。また哲学ゼミも自称「左翼」の歪められた思想が横行し、思想の混乱がさげはれるこのときに当って非常に意義深いものがある。

同学会の活動

同学会は現在どのような活動をしているか

「平年と民主主義、よりよき学生生活」のために同学会が現在どのような活動を展開しているかを紹介しよう。

一 学生部次長設置反対

一九六一年二月十三日、文部省が国立二十六大学に四月から学生の輔導を強化するという名目で、学生部次長をつくることを計画している、ということが発表された。

学生部は現在、学内教授中より選出される学生部長を中心に、その下に学生課長、厚生課長という文部官僚がいるわけだが、新たに学生課、厚生課を統轄し、学生部長を補佐するという官僚が置かれるわけだ。学生と最も密接に結びつくべき学生部に文部官僚が進出し、学生運動に対する弾圧干渉を更に進めようとしている。

教育に対する政府の支配が最近とみに激しくなってきたが、ここで戦後、いかに民主教育がおしつぶされてきつつあるかを見よう。

異国の丘に雲流るるはてにわたつみの声をのこして散っていった学友。太平洋の暗く冷い海底に恨みをのんで眠っていった学友。——二度と戦争をくり返すまいと仲間が誓い怒りをこめて学園に戻ってきた我々の先輩は「忠君愛国」の教育に強く反対し、反動教授の追放等学内民主化を徹底的におしすすめた。四十七年には、「教育基本法」「学校教育法」が制定され、更に「平和と自由を愛する民主国家建設のため」に日教組が結成された。

しかしながら、四十九年中国大陸において蒋介石が敗北し、中華人民民主主義共和国が成立し米軍の対日政策が大きく変更された。

朝鮮戦争に対する準備もふくめつつ、労働組合・大学・学校に対して、赤追放（レッドパージ）という名のもとに、左翼の追放がなされていき、大学においても進歩的教授の追放がなされようとしたが、我々全学連の激しい闘争によって大学からは一人の追放も許さなかった。しかしながら民主教育に対する圧力は真綿で首をしめるようにジワジワとおしすすめられた。地方公務員法による日教組の任意団体化、教育給与体系の三本立による日教組内部の分裂化などが計られていった。

五四年、あの悪名高い教育二法が提案され乱斗の混乱

の中で可決された。これは義務教育教員の政治活動を禁止したものである。

五十六年には、教育関係三法が提出され、これは全学連、総評、社会党等々の強い反対に会ったが教育委員の任命を規定した「地方教育行政法案」は通されてしまった。

次に出て来たのが勤務評定だ、教師を校長が評定し、校長を市町村の教育委員が評定するわけで、五十六年の教育委員の任命、更には道德教育を含めて義務教育の権力支配の体系が整った。

大学においても、五十九年、学生を補導するという役目をもった学生部教授を養成するという計画が出されたが、これは明らかに学生運動を弾圧するためのものであり、我々の強力的な圧力によって粉碎できた。しかしながら、安保闘争の中で民主勢力の先頭に立ち、大きな力を発揮した学生運動に対して、闘争が終息するや、我々に対する弾圧が開始された。九月には大学管理運営協議会が文部省内に作られた。今度は、国立各大学に学生部長という肩書をもった官僚を設置し、学生運動に対する根底からの攻撃がなされようとしている。

学生部は、学生の様々な生活を補導するということで作られ、部長に教授が就任しているが、我々はもともと

大学という場においては教授と学生がお互に大学の自治について話合うのであり、学生にアレダ、コレダと補導するというものではないと考える。にもかかわらず、この学生部において強い実権をもつ文部官僚が新しく設置される。これは文部省による学生部の支配への起点であり、又、戦前各大学に軍部から配属将校が配置され、大学のファッショ化を推進したが、これは正に文部省から配置される思想的配属将校だ。我々は現在、学生部長その会を始め学内の諸組織に働きかけると共に全国の学友と手を握って闘っている。

四月から学生部次長が登校するというが、我々はピケをはってでも、京大内に一歩たりとも踏みこませない覚悟である。

二 総長選挙権拡大運動

創立以来、京都大学は学問の自由、大学の自治権擁護のため絶えず、政治権力と闘ってきた誇るべき歴史をもつといわれるが、総長選挙権にあっては、全く非民主的で、何と教授だけにしか選挙権はなく、こんな大学は京大の外、全国にも四つしかない。

以前から選挙権拡大の運動が続けられてきたが、教授等々の反対によって挫折させられてきた。一昨年四月、助教授を中心に教官有志によって「総長選挙権拡大発起

人会」が結成された。

今年十二月に総長の選挙が実施されるわけだが、我々同学会は全学の意志を代表すべき総長は大学構成員の出来るだけ多数の意志により、民主的に選ばれるべきであるという考えに立ち、「総長選挙権拡大実行委員会」を結成し、選挙権を助教授、専任講師、助手学生代表にも与えよという要求をもって運動を開始しました。四月以降全学的な署名を開始する予定である。

三 工業教員養成所設置反対

京大に変な学校が出来ようとしている。宇治分校跡に工業教員養成所という学校が出来るといっているのである。

現在、産業界は「手にはオートメ、頭は労使協調」という技術者を大量に必要としている。養成所の在学年数は三年で一般教養科目がない。こういった一般教養科目も履修しないような偏向教育をうけたものが工業高校教員になれるとは、明らかに学校教育法の精神に反する。更に修業年限を三年にするということは明らかに教育の複線化であり、教育の機会均等の精神に大きく反するといふことがいえる。京大をはじめ九大学にもうけられるこゝろといった工業教員養成所については我々は絶対反対であり学内諸組織に反対運動に立上ることをよびかけている。

四 新島ミサイル基地反対

五十九、六十年、全学連（全日本学生自治会総連合）の旗のもとに全日本の学友が結集し、労働者・文化人等と共に激しく展開した新安保反対闘争が過ぎて早や十ヵ月。新安保の実質化が始まっている。それが、伊豆新島におけるミサイル基地の設置である。

苦い戦争経験をなめ、基地化絶対反対を唱える反対派と基地設置による村の繁栄を唱える賛成派が鋭く対立し、抜刀隊とか愛国党といった右翼も乗りこんでおり、我々民主勢力の側からも、ミサイル基地設置を阻止するために代表を送っている。同学会からも春休みを利用して15名の学友を派遣した。

× × ×
五十二年警察予備隊という名のもとに平和憲法を破って再軍備が開始され、現在では既に隊員十七万人、ミサイルやロケット砲もそなえるに至っている。今国会においては、自衛隊の十個師団から十三個師団への改編、天皇の自衛隊顧問等を内容とする防組二法の提出がなされるようとしている。

僕達は断乎として平和憲法を擁護する。一切の軍備を認めない。同学会は「新島ミサイル基地反対」「安保破壊」「憲法ヨーゴ」の闘いを、全民主勢力の先頭に立つて今後とも闘っていくであろう。

五 法学部工学部自治会結成

安保反対闘争の中で、自治会の果す役割とその必要性が痛感され従来、自治会のなかつた法学部、工学部、薬学部に自治会結成の機運が生まれ、学内反動と闘う中で、先ず薬学部自治会が結成され、法学部、工学部においても四月から規約投票に入る段階までこぎつけている。

六 厚生施設拡充

日本の大学は一般的に、学生に対する厚生施設が不充分であり、特に京大は他の大学と比較しても非常に貧弱なものしかないのが現状で、大学当局も、学生の厚生施設に対する関心がうすい。吉田にこの事は今年より宇治分校が廃止されて統合されるが、校舎をたてるだけで何ら充分な厚生施設が用意されていないことを見ても明らかだ。我々は大学当局に働きかけると共に、独占資本のための軍事費や財政投融资はふやすが、教育予算はふやそうとしない文部省、大蔵省に対しても積極的に働きかける必要がある、生協とも連絡をとって活動している。現在、厚生問題協議会を作り、次の様な要求を具体化する為に闘っている。

◆厚生施設充実のための我々の要求◆

①新設食堂のホール拡張、②寮の建設、③学生会館の建設（設計図は未完成だが、建築学科の学友にも加わってもらい、六月末までに作りあげる予定。大体の内容は、

学生集会場、サークルBOX、同学生会BOX、読書閲覧室、幻燈室兼レコードコンサート室、喫煙室、畳室、食堂、喫茶部、書籍、購読部、化粧室、医務室、宿泊室、卓球場をもつた学生会館の建設を要求）④体育施設の拡充、⑤自転車置場

我々がこういった要求をかちとっていくには全学友の積極的な支援が必要だ。新入生諸君の力強い支持を期待します。

七 文化サークル連盟の結成

単に既成の文化を摂取するだけでなくどのような文化をどのようにして創るのかを主体的に追求していく母胎としてのサークル活動、特に京大における文化活動の現状をみた場合、全く低調であり、創造サークルは皆無といっても過言ではない。低迷を打破ろう、新しい文化理論、サークル理論を追求しよう、という声が、昨年の十一月祭の中ではげしく巻き上り、低迷を破る一つの方向として同学生会文化部を中心に「文連」結成の活動が展開された。

今年五月に結成する方針であり、サークル活動家の創造的な討論の場としていきたい。

八 河 上 祭

経済学部同好会（自治会）を中心に偉大なる社会主義者河上肇博士をしるんで毎年催されるが、この詳しいことについては同学生会の年中行事の項を読んで下さい。

同学会の機構について

同学会

とは京都大学全学生を会員とする全学自治組織名称で、「会員の自治により学問の自由、学園の自治、民主主義をまもりつつ会員の文化体育活動の育成と社会的経済的諸条件の改善などを通じて、学生々活全般の発展向上をはかり、あわせて恒久平和と人類の福利に寄与することを目的とする」(第二条)ものです。

全学々生大会及び全学々生投票

が全学の学生の意志を決定する最高機関ですが、これは非常に重大な場合のみ実施される。

代議員会

は常設の最高決議機関であり、代議員は全学から会員三百名につき一名の割合で、各自治会の自治委員中より学生百名につき、一名の割合で選出され任期は六ヵ月です。

執行委員会

代議員の互選により二十名の執行委員が選出され、各執行委員は専門部(情宣部、組織部、文化部、厚生部、運動部、会計部)の仕事を担当して職務を行い、各専門部より一名、中央執行委員が選出され、組織部長は副委員長を兼任、情宣部長が書記長を兼任する。

中央執行委員会

は執行委員会を統轄し、会務執行の円滑化を計るもので、代議員会で直接選ばれる委員長と、副委員長(組織部中執)、書記長(情宣部中執)中執四名より構成されている。

同学会と各自治会との関係

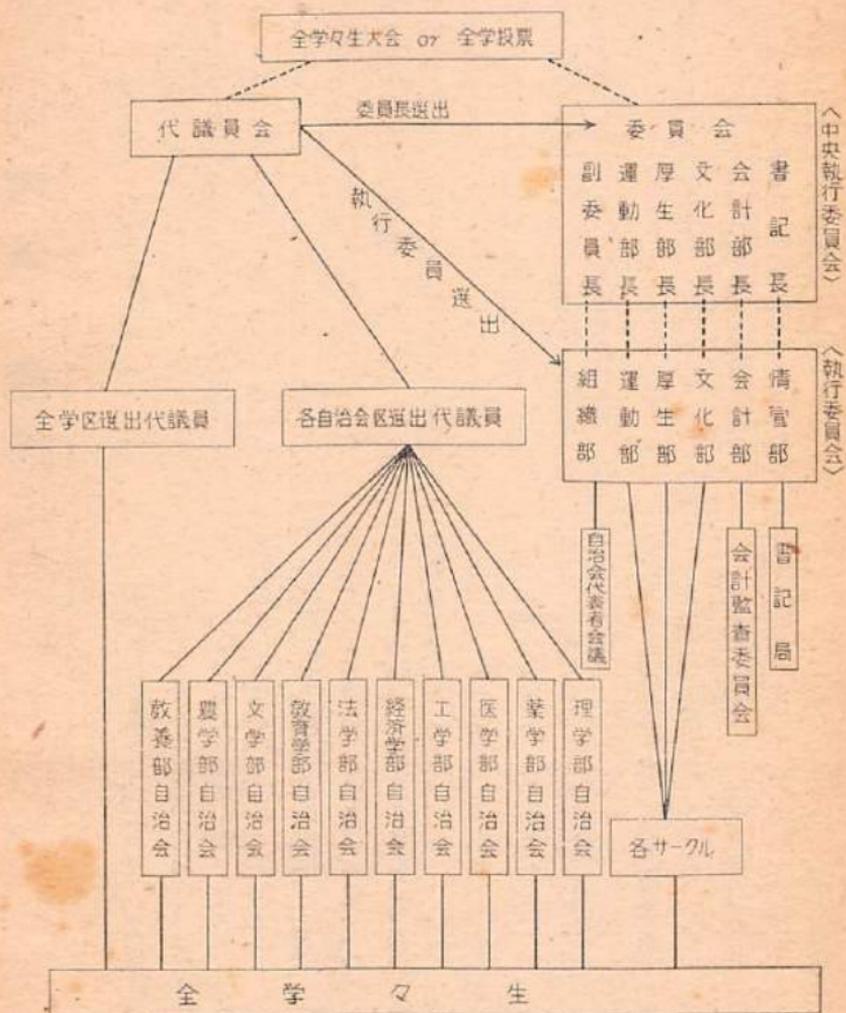
同学会は全学的な視野に立って各自治会の独自性を尊重しつつ、指導していくが、代議員会の決議と各自治会の決議とが異なる場合は各自治会を拘束しない。

サークルとの関係

本会が認めた学内団体は全て本会の部としてとりあつかわれるわけで文化部、運動部、厚生部のいづれかの専門部に属する。しかし各サークルの組織運営は全く各サークルにまかされている。経費の補助を本会におおぐものは前年度十一月十五日までに所属専門部に提出することになっている。

会費について

会費は四年間千円(入会金二百円一年二百円×四)で入学時に一括払いすることになっている。但し、どうしても一括払いの出来ない理由がある場合には会計部中執に分納を申込むことになっています。



教養部自治会はどのようなメカニズムになつていくか

教養部自治会会員である新入生

諸君がやらなければならないこと――

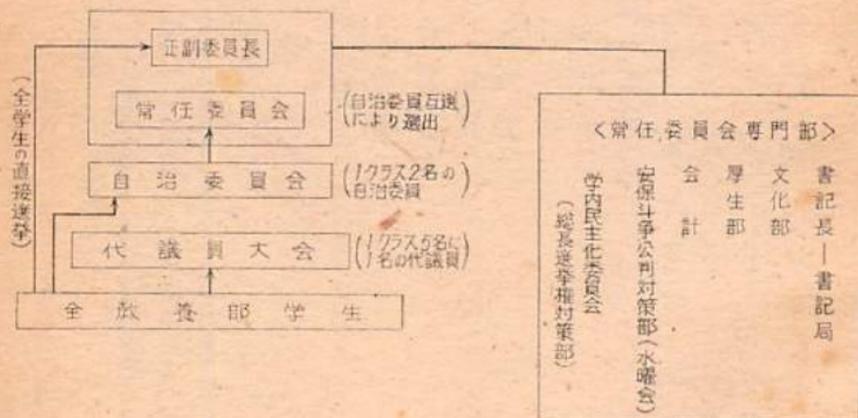
教養部自治会は、同学会と同じように、京都大学教養部学生全員によって成立し立っている。(教養部自治会規約第三条) 教養部自治会は宇治・吉田両分校の併合によって一九六〇年十二月三日、全教養学生の投票により、その過半数の賛成を得たので発足した。

一月十六日から二十四日まで初代教養部正副委員長選挙を行なった。

次に教養部自治会の機構を図表にしよう。諸君が入学して(したがって自治会員になって)やらなければならないことはいくつかある。

① クラス討議に参加し、常任委員会の方針を討論すること。

一つの方針が常任委員会から提示されると、自治委員会で討論され、同時に平行して、各クラスに常任委員が



出かけ、何故そのような方針が出たかをそこで討議される。各クラスにおいて、激烈に討議する。が結論は各個人の自由である。常任委員会の方針に賛成であろうと、反対であろうと、それは勿論諸君の判断と意志による。又、逆に各クラスから提出される問題も自治委員会・常任委員会で積極的に討論される。

② 各クラス二名の自治委員と

五名に一名の代議員を選出すること。

自治会の議決機関として、自治委員会と代議員大会がある。自治委員は各クラス二名であり、必ず各クラスから選出しなければならぬ。代議員は各クラス五名に一名である。が自治委員は代議員を兼任するから、クラス構成員を五で割り、それから二名引いた数だけの代議員を各クラスは必ず選出しなければならない。(例えば、

五十二名のクラスであれば二名の自治委員を選び、十一名の代議員、したがって九名の代議員を自治委員と別個に選出しなければならない。)

③ 自治会費二カ年分二百円を収めること。これは、このパンフに同封してある徴集証と一緒に、また同学会費四カ年分千円、合計千二百円を入学と同時に収めなければならぬ。

◆教養部自治会常任委員◆

委員長	丸一忠雄(文二)
副委員長	山下明宏(経二)
書記長	岩橋秀高(農二)
文化部	星野紘(文二)
厚生部	秋本英男(法二)
会計	山下明宏(経二)
安保闘争救援対策部	樋口祖照(経二)
学内民主化委員長(総長選挙権対策部)	清田祐一郎(法二)
	高瀬(理二)
	堀口(文二)
	桑山(法二)
	上原(工二)
	松元(理二)
	松島(文二)
	武井(法二)
	上山(農二)
	楠原(文二)
	白石(教二)
	山口(理二)

(欠員四名)

学 部 紹 介

教 養 部

〈若き日の数ページ〉

四月ノこれは一年のうちでも一番すてきな月だ。それはやがて燃える月々を準備する、輝しい出発の月だ。それに君は十八才、最後のハイティーンをあこがれの京大で迎えようとしている。大学とはどんなところだろう？ 大学で何をしよう？ 燃える様な期待と希望は君の身体を焼き行動にかりたてる。

だが張りつめた希望は、一步大学の構内に足を踏み入れたと同時に、もう我々大学生だけにしか許されていない途方もない無限な広さの自由の中に霧散させられてしまう。

そこには強制もなければ信条・教条(ドグマ)もなく、オヤジもいなければ、牧師も先生もない。君は全てから——ただ一つのものを除いて——それは君がやがて自分でたしかめる——解放されるのだノ勉強してもよし、

遊んでもよし、恋愛しても、喧嘩しても、強盗してもよいのだ。だれも文句をいわない。文句をいう奴がいならはり倒してしまえ。君の一挙手一投足が君の思いのままになるのだノ

習い憶えたドイツ語の切れっぱしを口の端に、合同ハイキング、スポーツ、クラス雑誌、サークル、メーデーと君の行動は波紋の様に多種多様、無限に広がってゆく。それは、丁度冬ごもりの後、ウサギがピクピクと穴から首を出し、やがて体をのそかせ、ついに全身で春の日を浴びてはねまわる姿をみるみたいである。

そして、それは夏の日に最高点に達する。ぎらぎらする太陽、青い海、濃緑の山、赤い大地、これが全てだ。まっ黒な体に白い歯が元氣一杯ひかる。それは若い青春の一ページでもある。

だが若い身に夏の日は余りに短かい。ある晩、君ははだをピクッと震わして、知らぬ間に秋が訪れたのに気付く。あたりは澄みきった青空がいっぱい広がり、黄色の落葉が舞う。秋は懷疑の季節、やがて鋭い懷疑と、また

それさえも飲み込むほどの虚脱感、虚無感が君の全身を浸す。何かまだなし足らぬ事があったのか？それとも夏の小事件の悔恨か。そうではない、忙漢な学問、把み所のない社会が君を圧倒するのだ。懷疑を知らぬ者は幸いである。全社会がバラ色に色どられていたからだ。だが君は古びた寺に、湖畔に、深い木立の中にたたくむことが多くなる。暗い部屋の机に頬杖をつく。窓の外の木々は、その葉に多事多彩な思い出をのせて、一葉一葉落ちていく様だ。秋の日ざしは緑を燃えあがらせるには余りに弱い。

やがて冬が訪れる。身を刺す様な冷たい空気とどんより曇った空、そして街頭にころがる色あせた黄色い落葉のかさかさという音、これがこの季節を支配する。それは君を心底まで痛めつけ、叩きのめさないではおかない。ともすれば、身も心も支配されそうな季節、これが冬だ。

冬の訪れは「社会」の訪れでもある。その手に数多くの若き私達の友の血をこびりつかせ、その口には、まだ昨日の君の先輩の血をひたたらして「社会」が君に襲いかかる。その身体を甘美なオブラートで包んで肩をたたこうと、むきだしの爪と歯で君に襲いかかろうと、それは君の全身から若い生気を奪い取らずにはおかない。そ

の肥満に肥満した巨人の体は、私達の若き友、そして君のオヤジや姉の血でいっぱいなのだ。恐怖にいっぱい広がった目に、君は別の異様な姿をみる。君のオヤジや姉、そして僕達の先輩の骨の様な姿だ。しほりにしほりとられたその体には何の生気もみられない。やせ細った手足、落ちくぼんだ頬や目、ひからびた唇はずたずたにさけ、食いちぎられた肉の間から肋骨がみえる。黒ずんだ皮膚からうみがジクジクと湧き出している。そしてこの様な物から、まだしほりとろうとする者がいるのだ。うじ虫どもが、

こうして君は全く新しい「社会」と邂逅することになる。君が社会に如何なる態度でのぞもうといずれ解答を迫られる。それは、君自身社会の一員となるべく生みだされたのであり、大学それ自身が社会の一部分として存在しているからだ。また君自身の内在的疑問も社会自身の問題としてしか解決されぬからだ。とにかく、君と社会との邂逅はこうして始まった。君の解答が何か、社会が君にとって、又、君が社会にとって何を意味するのか、それは、私にはわからない。君にとって、朝が昨日の様に苦々しいものか、それとも、新しい今日を意味するのか、私にはわからない。それは、既に私個人の考えの範囲の外にある。君は、もう私自身の手からも離れて

しまったのだ！

△附記▽

このような文は、結局自分自身の問題意識でしか書けぬものである。文中の「君」は「私」として読んで貰ってよいのだ。だが私のとった道は、多かれ少かれ、全部の人が、選まわり、近まわり、そして複数の道であろうと、通った道だからだ。あえて教養生活の紹介として、極めて異様な方法で書いたわけである。

終りも未来形のままにおいた。社会とどう対決し、どう生きるかは、各個人の生存条件と、それを否定しようとする各個人の意志との二つの函数により独自に決定される。

青春の数秒間から何を得るか、君自身で決定せよ！

教養部のはじめの一年間は、このようにしてまたたく間にすぎる。この中で諸君の最大関心のひとつは、学校の講義のこと、単位のことであろう。そのことにすこしふれておく必要がある。

入学と同時に、教養部からパンフレットが手渡されるであろう。そこには単位のことや、講義の内容が紹介されているから、それをまず熟読することが第一の仕事

だ。次に問題になるのは、第二外国語の選択である。教官の数をみてもわかるように、ドイツ語をとるものが圧倒的に多い。学部と志望学科によってどの外国語をとるか決定されるのでここで詳しくふれることは避ける。ただ、外国語にはヨワイの……と逃げ腰になることは絶対ナンセンスで、わざと強がりを見せるくらいにやる必要がある。大学入試の語学ができるくらいなら、他の語学も出来る。同じ論理で外国語の二つや三つは出来るものである、少くとも単位をとるくらいは。そしてこの単位は、うける限りは落さぬつもりでやる必要がある。他の科目もそうなのだが、とくに語学は、初級の単位をおとすと、二年間は相当精神的にも、時間的にも負担になるから、そしてまたふつうにやれば必ずとれるのだから、授業を無視しないことだ。先生によっては、丁寧に出席をとる人もあるし、更には *at random* に指名して訳させる人もある。これは、そう神経質になる必要もないが、無視してはいけない。どうも危い、となって単位のおねがいに行くときなどには、これがモノをいうからだ。

語学のことを多く書きすぎたが、もうひとつの関門として、体育実技と体育理論がある。実技は、時間制で単位がとれる。バカらしくとも規定の時間だけは出なければ

ばならぬ。その抜け道の第一は臨時コースだ。規定時間のうち、一部の時間は臨時コースで埋めるとよいことになってから、それを活用することだ。第二の抜け道は、例の代返という手である。これについてはわざわざいうまでもない。老婆心までにいうと、体育の時間は四月から翌年の一月ごろまでには規定の分だけとっておくこと。というのは、期末試験に追われてくると、ほんとうに体育の時間に出るのがツラくなってくる。おまけに寒くなってくる。それまでに規定分だけとっておくと、あとは休んでもよいのだから。

第三は一般教養だ。これは何もとりたてていうまでもない。いわゆる、ノート棒読みの講義はほとんどない。しかし、あまり大きな声でいうとわるいが、面白くてタメになるようなものは少い。試験は、授業の中から出す先生と、レポートで代用する先生、問題をあらかじめ知らせておく先生、などがいて、何とか単位はとれるようだ。ノートも友人のを借りるまでもなく、講義プリントという便利なヤツが年末に発行される。ただ教官によって特徴があり、いい点をくれる人、カライ点をつける人、受験者の八割は必ずオトスという人、単位は必ずくれるという人、さまざまで、その一覧表をつくってのせたいが、支障があるので、それは先輩などから聞くのとよ

いだらう。そんな訳で、成績の点数はあまり気にせぬ方がよい。

第四には基礎教育科目だ。文学部などでは語学が、理学部では数Ⅰが、それだ。このこともあまり云うべきことはなく、ふつうにやっつて、ふつうに点をとるとよい。そういうことよりも、第五にいいことは、教養部での全般的な勉強のことだ。これまでにあげたことが、教養での勉強のすべてになるのではなくて、そのごく一部だ。自分の生涯を決定するなど大げさなことは考えなくともよいが、客観的にはそうなってしまふのが、この時代だ。常に自分の問題意識を追求し、それに応じて自分の手で選択した本をよみ、自分の方向を決定して、こうと努力すること。それが学生運動となってあらわれることもあるし、サークル活動となってあらわれることもある。色々な形であらわれる。とにかく、そういう努力を主体的におこなう人にとってのみ、未来に重大な影響を与える教養部生活が、充実した時間の連続としてあらわれてくるにちがいない。

文学部

新入生を迎えると教授諸先生はきまってしまう、「諸君

は日本一立派な大学に來た。勉学に励んでほしい」と。学園案内には西田哲学が必ず出てくるし、世界の東洋学とうぬぼれているものもある。こんな話や記事に接するうちに、いつの間にか自分の足が地面から浮いてしまうものだ。みんなこんな学生を足のない幽霊とよぶのだが、自分の足もとをまずたしかめる方が大切だろう。せちがらいこの世にあつては、大学生といえどもものんびりとは出来ない。四年先の就職のために八十点以上をそろえようと頑張るのが当世学生氣質というもの。春三月ともなれば、それこそわが世の春と胸をはる法經工の諸君とはことちがひ、就職もきまらず右往左往するのが文学部。「世界なんか何ものぞ」と元氣よく入学したものの、いざ就職となると「われ誤までり」としみじみと語る学生が多いのに、定員を増加するのはどこかの國の所得倍増にならつたのかどうか、少々、理解に苦しむ。

人間臭い話は文学部らしくない。起然として生きるのが真の人間学を探究する学徒の道だそうさ。けれども、そんな「幻想」は一ヵ月間でふきとんでしまうほど、せちがらいのが世の常だそうさ。雑草のように、ふまれてもふまれても生きていく力は誰も教えてくれはしないというのが先輩の言。先生との交りも、人間的な暖かさがあるのはごく稀れで、お互いに信頼し合う雰囲気にはほ

ど遠い。毎年二十人前後が、教養部にもう一年間いると駄々をこねるが、この人々は学部の空気を敏感に感じとっているらしい。だからといって文学部の学生が遊び人かというそうではなさそうさ。女子大生との合同ハイクはやらないし、ダンスにふける人も少い。とすると何をしているのだろうか？喫茶店で音楽に耳を傾けて、ひとり考えこんでいる人。旅行や山登りに出かける人。数人で文章を書いて雑誌を出す人、*etc.*。不健康な空気が感じられない。各人が各様に自分の世界にとちこもるきらいはあるが、それぞれ、自分の進む道を模索している。世界をバラ色にえがくには余りにも条件は悪い。又世界を厭うには余りに人間がよすぎる。そんな中でジレンマに悩む人もいるが、新しい人間像をもとめて頑張っている人もいる。

学問をほんとうにする人の集りでもある。単純に学問を軽べつしないでこつこつ勉強する条件はそろっている。人間関係に毒されずに、自分のからにとじこもらないよう頑張っている人もいる。

学部案内にならないが、何か昔の生えたような世界に新しい息吹を吹きこんでくれるよう諸君に期待する余りに（又、学科や専攻、教授内容ははずれ、諸君の手元にどくはずだから、二重手間を避けたことにもより）こ

んな案内になった。お許しをねがう次第。

教育学部

入学おめでとう。京大では「タテ割り」制になっている、と言つても最初の間は一般教養が主だから教育学部学生と言ふ気分はしないでしょうが、それは後述の理由のためにかえつてよいことだと申し上げておきたい。ところで諸君の関心事は、教育学部とはどんなことを研究するところなのかと言ふことと、一体就職にありつけるのかと言ふとまどいとこの二つであると思うが、後者つまり就職に關しては次のことだけ言つておこう。就職は、「ヒモツキ」になる程うれつ子ではないことは確かだが、その事実をおささり認めて、それでは勉強だけでもしっかりしておこうと腰をおちつけると、四回生の十月には就職希望者は全部決定してしまうのが従来例であつて、それには例外がなかったと。ここで顕著なことは就職につく人が極めて少数であることである。これは何かを考えさせないだろうか？さてもう一つの関心事、教育学部とは何を研究するところなのかと言ふことであるが、例えば、現在の人間社会から教育に關する一切の現象を抽象したらどんなことになるかを想像して見たまえ。さらに

歴史的に人間社会を見た場合、教育現象が存在しなかったならば、文化や文明がかくも進展し得たのだろうかについても考察して見たまえ。つまり教育とは社会からの要求であり、歴史からの要求であると言えよう。さらに、人間は現実をこえた理想と理想から見た現実との間で、相關しあつて高まるものとも言えるが、ここにも教育をぬきにしては達成が考えられないのである。以上のように人間社会と教育とは不即不離な相關關係にある訳であるが、教育学部とはこの教育現象全般にわたつて研究するところだ、と言つてよからう。しかし、教育現象は人間社会のいたるところに存在する訳であるから、その研究は多方面から考求されなければ目的は達成されないであろう。曰く哲学、歴史、心理学、社会学的等々。それらの綜合をもつて始めて「教育」を研究することが出来るであらう。けれど諸君には先ず広い一般教養が必要とされるゆえんであり、教養部学生の気持をもつていてほしいと先きに述べた理由もここにあるのである。三回生になると諸君は能野校舎で講義を聞くことになるが、そこではA教育学教授法、教育学哲学、教育史比較教育、B教育課程、教育指導、C教育心理学、臨床心理学、D教育社会学、社会教育学、図書館学、E教育行政学の五コースのうちから一つを専門に選ぶが、コースや講座のカベはあつくな

く、他コースのものも学べるようになっていた。総合的に研究することをモットーとしていた点で専攻制とは少しちがうのである。さて最後に、キリスト教者とパイプルの関係のとき、教育学部学生の必読書なるものをかかげてみたいと思ったのであるが、敢えてそれをしないことにする。教育学部は極めて少人数なために学部全体に家族のような雰囲気がい、先生方とも近密である。その気風に早くなじみ、諸君自らの問題を学部にもちぎたり、サークルをおこし読書会を行ったりして意義ある生活をおくられるためにも、学部の方にあしげく顔を見せられるのがよいし、必読書なるものもその度に聞かれたらよいことである。学部学生は勿論大学院学生や先生方もよるこんで諸君と共に語ってくれると思う。

法 学 部

私に与えられた題目は「法学部学生が教養部時代どんな生活をおくったらよいか」ということであるが、私の乏しい経験からいって次のことしかいえないようだ。

だいたい教養部の存在意義自体が、学生が所属学部にとらわれることなく、社会人として必要な幅広い教養をえるところにあるのだから、特に法学部学生としての教

養部生活を考える必要はない。しかし、法学部学生になつた以上、誰しも、法律の基本的問題位はマスターしておきたいという希望はもっているだろう。その意味で「法学入門」といった本も読まれだす。こういった本を読んでも、法学部の学生が入学早々から、法律専門書にかじりつくことがその人にとって非常な無駄であることがよくわかる。立派な先生の書いた法学入門書のひとつ位は読んでおくことが以後の勉強に役立つだろう。

諸君は、今苦しかった受験生活から解放されて、大きな期待をもって教養部生活に入ることだろう。教養部制度については、単位制や講義内容、専門課程との連繋等といった点で常に論議の的になってきた。今ここでいえることは教養部ほど学生にとって恵まれた時期はなく、一方では無意味になりかねない時期はないだろう。他の文科系学生と同様に、法学部学生の教養部時代というのは、自由な時間が非常に多い。語学を除く一般教養の単位は、正直なところ試験前数日参考書を読めば十分とれる程度のものである。諸君が大学の講義に期待をもっているとするれば、又それに頼りきってしまおうとしているならば、諸君の入学後の失望は大きいだろう。高校までは教官から与えられたものをうけとっていればそれでこたりたかもしれないが、大学ではそういう態度では学

問をなす意味にはならないだろう。教養部の講義というものは、自分の勉強する学問の一つの足がかりだと考えるのが一番だろう。興味もった学問があれば、それを自分一人でどしどし勉強を進めれば、例えばそれが法律等の分野でなくとも、後悔することはない。教養部のある教授の「なぜ学生はもつと質問したり、講義後相談に來ないのだろう。」といった言葉が印象に残る。こんな態度の先生もいることを忘れてはならない。

それからもうひとつ、安保闘争の中でたたかっていた人々を中心として法学部自治会が結成される。今までどうしても結成の実現しなかった法学部自治会がつくられることを契機に、新しい法学部学生々活が展開されるだろう。保守退廃的な雰囲気を受けとばして、新しい雰囲気全体をつくり上げよう。

以上断片的に思いつくままをのべてみたが、要するに教養部時代は、諸君の小学校からの学生々活を通じて最も「美しい時代」であるに違いない。諸君はこの時代を貪欲に享受し、新しいものを創造する土台を培ってほしい。

経済学部

私が経済学部を受験するというと叔父が、「将来金がもうかってよいだろう。」と云った。又京大経済学部を受ける云うと「あんなアカの多い所へ行くとコワイ。」と答えた。

どちらも、嘘である。京大経済学部はそんなコワイ所ではないし、金もうけの術を教える所でもない。さて、新入生諸君への手引きを書けと云うことなのだが、私自身手引きを必要とし、経済学の入口にも達していない状態であるから、それを読めば直ちに経済学部の内容が明らかになるようなものを書けるはずがない。一人の先輩の云い草として聞いて貰えば結構です。

(一) 経済学に二つの異ったそれがあることは御存知でしょう。マルクス経済学と近代経済学。(マルクス経済学にも、近代経済学にも、種々の体系があるが、大雑把にはこの二つ)。「巨視的には、マル経がいいが、微視的には、近経がよい。」とか、「就職するなら近経だ。」とか聞かされる。そして「ゼミナール、就職が我々の上ののしかかって来る。」

(二) 大学は就職の予備校だと云われる。そして偉い先生方は、大学の予備校化をしたり顔に嘆かれる。「この頃の

学生は何かと云うと就職のことばかり気にしている。「最近の学生は小つぶになった。要領はよいが、大きい所がない。」これはいつも云われることだ。そして、大学は就職の予備校だと云うことを否定し、「学問の府」だと力説される。大学のあるべき姿としては、「学問の府」であろうし、就職予備校であってはならない。だが、その理想的な状態を年寄りの繰り言のように繰り返すことは、賢く見えるだろうが、何の解決も与えない。国立大学に、あるいは名の通った私学に、あるいは、伝統のある学部で、受験生が殺到する。これは何を物語るか？皆、よい所に就職したいのだ。自分の労働力を高く売りつけたいのだ。本来、商品でない労働力が商品として売買される社会——資本主義社会——においては、全てが商品とされ、売買の対象となり、大学は、労働力を高く売りつけるために必要不可欠な過程となる。大学の就職予備校化は、資本主義社会のもとでは、必然的である。このことは、資本主義社会を改革し、止揚した社会主義社会において廃絶される。

(三)

さて、本題にもどって、経済学についてごく初歩的なガイダンスを行なおう。社会科学は、もともと経済学、政治学、法律学と仕切られて、別々に発展して来たもので

はなかった。それは、封建制を打倒し近代的秩序を作り出そうとする実践総体を導びくべき、合理的な思惟、一つの科学として生れた。その後、一つには対象たる社会全体が複雑な機構を備えて来たこと、二つには、市民社会を作り出した人々の間に、階級的利害が対抗しあうようになり、市民社会を維持する実践及び理論と、市民社会を克服しようとする実践および理論とに分裂したことから、社会科学は分裂し、この分裂に階級的利害がからまることになった。しかし、私達は統一的人格として実践に参加しようとする限り、私達は統一的世界像、統一的な社会科学を必要とする。無批判的に就職勉強することは、この分裂を克服する道ではない。なお、私の考えでは、認識の全体性への指向、その中での経済学の位置づけに関し、もっとも具体的な指示を与えているのはマルクス主義である。

(四)

最後に教養部時代に、読んでおく本をあげて終ろう。

一、資本論。教養部時代に、全巻を読み終える目標で。特に資本論の論理展開を注意して。

二、日本における資本主義の発達（但し、これは、労働派の分析であり、それなりに限界を持ってい

る。

三、「帝国主義論」レーニン。我々の生きてゐる現代社会の正しい分析のために。

工 学 部

まずまず、入学おめでとう。ところで諸君があこがれていた京都大学はどうかといへば、残念ながら君たちの夢を完全に満してくれるものとはいえない。こんなことをいって君たちの期待をはじめからたたきこわすつもりはないのだが、実際にはどうか、はじめから話をはじめよう。

どの学部もそうだろうが、とくに工学部は学部についてからというものは、朝早くから晩おそくまでがっちりとしぼられるので、遊べるのは教養時代だけということになる。そういうわけでもないのだが、サークルなども運動部ががっちりとかためている人にはTの学生が多いといわれる。また、五、六人がかたまつて目立った遊び方をするのも、Tの学生の特徴だ。これはTの学生は授業をほとんど同じクラスでうけ、集団的な生活が身についてくるためである。しかし、そのことは決してよい面ばかりがあるわけではない。話の内容も、勉強の話か、

試験のことか、Y談か、といったふうに限られてくるし、自然と規格化されてくる。教養時代は、まさにこうした枠を破って、自己の幅広い人格を形成せねばならない時代なのだ。この意味で、どしどし、他の学部の人と交際する機会をもつことをおすすめる。たとえばサークルだ。Tの学生で文化サークルに参加する学生は運動サークルに参加する学生にくらべて非常に少ないのはどうしたわけか。しかしこうした傾向も、学生内部からだんだんと打破される傾向にある。安保闘争の中では、Tの学生が多数参加し、それを契機として自治会結成が実現しようとしている。

やがて学部になると、先にのべたように朝早くから晩おそくまで、講義・実験とカンヅメにされる。しかし、それでも教養時代の伝統は根強く残り、遊ぶ方も盛んである。といへば、一体どこにそんなヒマがあるのかと首をかじげる諸君もあるかもしれないが、そのカラクリは要するにTの学生はよく遊び、よく遊ぶといふことにあるようだ。ダラダラとやらないという点がりやらポイントらしい。

△工学部には天皇が幾人かいる♫といへば、はじめて聞く人は何のことかと思うだろう。この説明のために、工学部と産業会社の結びつき、学部内における教授

を頂点とするヒエラルヒーなどから解説をはじめめる必要があるのだが、簡単にいえば、会社との結びつきによって、物質的にも力をもったワンマン教授が研究室を根城にニラミをきかせているということである。こういう天皇を中心とする天皇制の中では、たとえば学生運動アカカ危険就職の世話はしないぞ、といった等式が成立し、学生運動をやるものには製図もなかなかOKせず、書きなおさせる教授もいるという。だが、諸君、おそれることは無用である。安保闘争を背景に立ち上った学生先輩の努力が実り、こうした風潮をけとばして、Tに自治会が生れようとしていることは、われわれとして最大の誇りをもって諸君に語りうることだろう。

実際の工学部の授業内容にふれる余裕はなかったが、教養時代は、やはりあらゆる分野について、文科系の学生にも劣らないほどの読書もし、視野を拡げることだろう。具体的な本の名はここであげることがさしひかえるが、あらゆる機会をとらえて勉強し、よく学び、よく遊ぶTの伝統の前の部分をしっかりとまもってほしいものです。

医 学 部

○入学おめでとう。

憧れの医学部進学課程に入学できて、心は早や二年間の教養課程を通りこして専門課程へ飛んでいる人もあるだろう。二年生の話であるが、一先輩として学部との紹介と教養の間の心構えなどを述べてみよう。何らかの参考になれば幸せである。

まず授業から。専門課程に進むと他からの編入生が加わって、一クラスが約二倍の百人にふくれ上る。この百人が四年間、一緒に同じ授業を受けるのである。

最初の年は解剖学、生理学、医化学などのいわゆる基礎医学の講義と実習とが行われる。内科、外科などの直接に患者に接してその治療を行ういわゆる臨床医学を学ぶには、まずその土台となる人体の構造と機能はどうなっているか（解剖学、生理学、医化学）、病気になるのか（薬理学）、病原菌の性質はどんなものか（微生物学）などの基礎医学を学ばねばならない。それで始めの二年間は基礎医学に重点がおかれ、後半は臨床専門となるのである。だから一回生の間は医学といっても動物学のような感じである。主力は解剖学で、特に秋から始まる解剖実習は、医学部四年間でも最も充実した印象に残るものである。何といっても本当の人間の死体を切りさいな

むのだから、さぞ氣味が悪いだろうと思われるだろうが、実際はそれ程でもない。興味深さが先に立って夜遅くまで死体と取り組むようになるから羨しみにしていたまえ。二回生から少し臨床科目が入り、三回生ともなれば患者を前にして講義する臨床講義が行われるものだから、そろそろ医者になったような感じがする。四回生になればポリクリといつて外来患者を実際に診察しながら教わる授業があり、無事にすべての試験に合格すれば卒業となりインターンとなる。こうして一通りのコースを終えた後、国家試験をうけ、ある人は基礎医学の研究者となるべく基礎医学の大学院へ、他のある人は臨床医学の大学院へと進学し、又ある人は大病院や地方の病院で医局員として働く。ところが誠に不合理なことに、大病院に就職した医局員として働く医師は、数年間無給でただ働きをさせられるのである。インターンには、今年から月三千万、金が出るそうであるが、資本主義社会でありながら働いて賃金がもらえないというのはここだけではなからうか。

さて以上が京大の医学教育システムであるが、実をいえばこれは数十年前と少しも変わっていないのである。医学が大巾な進歩をとげていながらカリキュラムは旧態依然としている。講義も、数年前と同じ草稿を口述して

学生を「字を書く機械」に変えてしまうようなのが中には行われている。こうした授業には学生が身位しか出席せぬ事で無言の抗議を行っているのである。医学部自治会ではこれらの不満を解消するように努力しているが、学校側にもこのままでは不合理だから根本的に今のシステムを改める必要があるという意見が高まっており、研究が集められているので、諸君が在学中に多少医学教育のあり方が僕達の時と異なったものになるかもしれない。

○学生生活について

地理的にも独立し、京大内の他学部とのつながりより他の医科大学とのつながりの方が強いので、医学部の学生は医学部だけで独立して活動する傾向がある。悪くいえば封鎖的なのである。サークルも、野球部、庭球部をはじめほとんどあらゆる運動部が京大全体の部とは別個に医学部だけのが存在し、劇団炎座、E・S・S、ソ医研、社医研などの文化サークルもある。こう書くとはひどくサークル活動が活発なように聞えるだろう。文化サークルの活動は決して活発ではない。教養の諸君の入部を歓迎するから大いに若いエネルギーを注ぎこんで頂きたいと思う。これらは自治会活動のサークルに於る活動であるが、今年には「西日本医科体育大会」を京大が主管する事になっている。諸君の御協力をお願いします。自治

会は、全学連、府学連及び医学部だけの連合体である医学連に加盟して活動しているが、特に病院スト以来、医療従事者の問題が社会問題化しているので、我々は将来医療労働者になるものとして、これに無関心でいる事はできない。そこで現在、第一日赤と交流をもって日赤の闘いを支援すると共に、看護学校自治会、病院の労組と共闘会議を作つて、京大病院労組の強化の為に色々活動し、この問題にとりくんでいる。医学部にはこの外、同窓会として芝蘭会があり、雑誌の発行、図書の貸出と販売、サークル助成などを行っている。

○進学課程の過し方について

進学課程というのどうも得体のしれないものでつかうかと過してしまいがちであるが、折角の二年間はやはり有意義に過すに越した事はない。医学を学ぶには他の理科系学部と別な何か特別な準備は全く必要としない。むしろ今の医学教育は暗記が主だから、何もしなくとも差支えないとさえいえる。だから逆に、自然科学だけでなく社会科学をも学んで、広く科学的視野を養つておく事が将来役立つともいえる。実際医者になれば、いまでも病院ストに見られるような医療制度の矛盾に悩まされるのだから。

進学課程ではまず語学をみっちりやっておき給え。専

門書には外書に良書が多く読まねばならないから。主に英語であるが独語も幅をきかしている。第三外国語は必要性はないがやればそれに越した事はない。ロシア語をやつてはどうだろうか。数学、物理、化学を中心とした理科は、前にも述べたように医者になるだけなら深く知らなくても良いが、科学的な態度で医学を学ぶ一般的な基礎を作るものとして重要であるから、しっかりやっておくように。数理統計学は直接に必要なである。

社会科学は友達と読書会をもってマルクス・エンゲルスの古典を読むのが良い。

うかうかと時を過ぎず、しっかり勉強してくれ給え。

薬 学 部

一九六〇年四月、我々の薬学部は医学部から独立し、京大はこれで九学部を備える文字通りの総合大学としての陣容をととのえることになった。医学部構内の一角と付属病院に陣どつて、学部昇格を機に発展をとげようとしてゐる。

薬学部の特徴は、何といつても▲家族主義▼にあるだろう。一学年約四十名前後で、女子学生が比較的多いことが、そういわれる雰囲気をつくり出しているのだろう。

クラスの特色といってもそれが主なところで、大体において思想穩健、よく勉強する学生が多い。教養部時代はやはり、社会や人生に対する自分の考え方の基礎をつくるのが最も重要で、とくに化学の勉強を中心にそればかりやる必要はないだろう。就職は完全だし、金はオヤジがというわけで、のんびりと教養時代をすごすのはよくない。というのは、とくに薬学部は工学部と同様、学部に進学してからというものは、大体午前中は講義、午後は実習、土曜の半日はなくなるというわけで、専門の研究にシボられるシステムになっており、教養のために費す時間がほとんどなくなり、うっかりすると片輪の知能になる可能性があるのだ。

学部では、各講座にわかれており、いずれも高い学問水準を誇っている。列举すれば、生薬学講座、有機薬化学講座、無機薬化学講座、薬剤学講座、薬品製造学講座、薬品分析化学講座、生物薬品化学講座となる。内容についてはやがて教授たちの話と、発行資料によって徐々に判ってくるだろう。とくに学部生活が変わったことといえるのは、薬学部の自治会が発足したことだ。薬学部に独立してから、自治会結成の努力が重ねられてきたが、ようやくそれが実現の運びとなった。この自治会を単なる家族主義の親睦組織に終らせることのないよう、

新しく入学される諸君とともに努力を続けてゆきたいと思っている。単に組織があるということに満足を感じてはいけぬ。大いに自治会を活用し、その中で正しい方向を目指してそれを育てていかねばそれは無用の長物となってしまふのだから。

理 学 部

新入生の諸君合格おめでとう。諸君は、「何故理学部を選んだ？」と聞かれて、「こうこうゆう理由で……」等と、まるで必然性があったみたいに答えることは出来ないだろう。しかし、全ては相対的だという原理を捉えれば、諸君が理学部を選んだという理由も必然的に理解出来るのである。

理学部は他の学部とくらべて、いわゆる「理学的」なもの数を多く持っている。その一つは意識のラディカルさである。安保闘争において、数ある学部の中で最も先進的に闘ったのは理学部であることは自他共に許すところである。前二回生のS三クラスでは、東京の国会デモに半数以上を送った等というのは、そのラディカルさを示す一つのエピソードであろう。現在諸君が持っている意識は各自バラバラであるに違いない。しかし半年、

一年と理学部の仲間と学生生活を送る内には、かならずや、理学部的な体臭をブンブンさせることだろう。一年も過ぎるころには、良心派をきどった保守主義者等は探したくても見当らなくなり、大多数が、先進的左翼としての意識を獲得するに違いない。理学部の先生方も大多数は「進歩的」だ。学生の要求することは、心よく相談ののつてくれ、同意してくれる。先生方の中には過去、「科学運動」にたずさわった経験者が数多くおり、また現在においても、素粒子論グループ、民主主義科学者協会などの組織を通じて、社会的発言と行動をしている。しかし安保闘争を通じて我々は、現在における科学運動の壁を感じ始めている。我々は、現代を見つめた直観から生れたラディカルな意識でもって、この科学運動の壁をつき破らねばならぬだろう。

現在理学部には数学、物理、原子核物理学、宇宙物理、地球物理、化学、動物、植物、地質学鉱物の各教室があり、各自研究が進められている。諸君は二年間の教養部生活を送った後各教室へ分属させられるわけであるが、この分属の問題は、理学部の大きなガンとなっている。毎年物理と化学科に集中する傾向が強いからだ、これが強引に分属試験という形で解決させられてしまうところに問題があるのである。しかし、諸君も科学全体の視

野に立って自分の専攻学科を決めるといふ態度も必要である。最近、数学科に 응용数学又は物理数学の講座が新設されたし、動、植物学教室には生物物理の講座が新設される気配があることなどは、我々にとってよろこばしいことである。

ところで教養部生活の中で、理学部の学生を中心として毎年行われているゼミとか読書会の紹介をしよう。ゼミ、読書会といっても先輩の指導があるわけではなく、我々自らがグループを作って行ってきたものである。先ず自然科学系では、「連続群論」(ポントリヤギン)、ディラックの「量子力学」又は朝永振一郎の「量子力学」等の読書会。これらは毎年先生がチューターになってくれる。入学した早々から、こんな難かしい本をなどと驚くことはない。ある先生によれば、このような本を教養部でやることは、「こんな難かしい本をやった」という道徳的価値があるのだそうである。

次に社会科学系では、エンゲルス「自然弁証法」、マルクス「資本論」、武谷三男「弁証法の諸問題」、レーニン「哲学ノート」等の読書会。これはチューターはいない。しかし先輩に頼めば、誰かになってくれるだろう。

今まで我々は、科学と、経済、又は科学と歴史等の問題を探るいわゆる「科学論」「技術論」というものに大

いに観心をしめしてきた。そしてこの問題は最近増々我々の身近かな問題となってきた。諸君も大いにこの分野での勉強をしてほしい。学部学生を中心として、「全国物理学科学生協議会」という物理学を学ぶ者なら誰でも参加できる。一回生からも大いに参加してほしい。多分に理科系学生の政治性、社会性を追求する組織である。

農 学 部

御入学おめでとう。自分の三年前を思いおこしてみ、ほんとうに心からお祝い申しあげます。重々しい生活から脱出した今、存分に新鮮な空気を吸って、豊かな学生々活の第一歩を踏み出して下さい。大学生活の前半、即ち教養部時代の特徴はなんといっても、立場にとらわれずに自由に考え、自由に行動出来る事です。次に、他学部学生となんの制限もなく自由に、そして共に生活する事が出来る時だと思えます。こうした時代の特徴を十分に生じて生活していただきたいと思えますが、私のささやかな反省を以下に述べて参考に供したいと思えます。

第一に教養主義に陥っていたのではないかということ、

第二に真剣に学問に取組まなかったのではないかということ、まず第一のことについて。

学生々活は、エンジョイする為にあるのだから、本を沢山、広く浅く読み、旅行し、スポーツをやり、楽しく過ごすべきだとし、生活したのですが、今から考えると少し変だと思えます。というのは、教養を身につける意味は、知識をふやすことではなくて思想の主体性を確立することだと思います。何でも教養ということ、学生たる身分を全くの無方針のままに濫用したのではないかと反省しています。

第二の点についてなのですが、これはどうも単位制に足をとられてしまったというところです。単位さえとれば、ということが安易な学生々活を送らせる原因になるのです。

さて、専門学部での生活ですが、学科は細かく分れているとはいえず、基本的には農学を学ぶこと、つまり、究極的には農業、農民の直面する農業問題を分析し、解明し、解決する手段を見出すということといえます。大きく農学をふたつに分けて、社会科学系学科として農林経済学科と、自然科学系学科として、農学科、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農業工学科、水産学科があります。このふたつの系列は決して切りはなすことがで

きない。農林経済学科の学生は、自然科学系課目を、農学、工業……学科の学生が社会科学系課目を、特に履習せねばならない所以です。つまり、これから農学を学ばれる諸君は、単に自然科学としての農学を学ぶのではなく、社会科学と密接につながった農学を学ぶのだという認識をもっていただきたいと思ひます。

現在、農業問題は非常に重要な時期にあるといえます。つまり農業基本法の改悪を中心とする一連の反動攻勢がそれで、かつての農地改革以来の大きな変動の時期を迎えることになりそうです。こうした社会の動きとからみ合せて私達は生々とした学問を続けていくことになるのですが、新しく入学する諸君と共にこういった問題についても語り合える日が早くくることを楽しみにしています。

● 京大唯一の総合誌 ●

季刊 学 園 評 論

第4号発売中

- 本号執筆陣（順不同）の一部
- | | |
|-------|-----------------|
| 北小路 敏 | （全学連書記長・京大経済学部） |
| 末川 博 | （立命館大学総長）一予定一 |
| 大野 新 | （詩人） |
| 末次 弘 | （九州大学文学部） |

固定購読者募集！

身体検査当日構内各所

にて受付けます。

（4号分・380円）

- 本誌顧問
- | | |
|-------|-----------|
| 吉本 隆明 | （詩人・評論家） |
| 山田 宗睦 | （哲学者） |
| 岡本 清一 | （同志社大学教授） |
| 芦田 譲治 | （京都大学教授） |
| 岸本英太郎 | （京都大学教授） |

サークル紹介

社会科学研究会

「批判の武器は武器の批判にかわることは出来ない。物質力をたおすのは物質力でなければならぬ。しかし思想といえども、それが人間をとらえるやいなや物質力となる。」（マルクス）

閉ざされた世界から、開かれた世界への飛躍は、入学試験を第一の、そして、合格者発表を第二の直接的要因としてなされた。開かれた世界こそが君たちの、そして僕らの生きるべき世界なのだ。

その世界においては、一九五九から一九六一年にかけて、激動の日々の連続であった。「日米安保軍事同盟」を軸として、まさしく日本は二つに回転した。日本の学生も、有無をいわされず、その選択をせまられた。

はたして人間とは何なのか、生きるとは何なのか、そして、人間が最も創造的な生き方とは何かを真剣に、自己の今までの生き方に引きもどり、考えざるを得なかつ

た。そして、新しい世界観の確立こそが、開かれた世界の最大の、そして最後の課題なのだ。

そしてこの△社会科学研究会▽においては、百年以来の世界観であるところの△マルクス主義世界観▽をその根底からほりおこしてさぐるうとしてしている。そして根底から上って、革命とは何か、いかになされるかを長期間にわたって定期的に学習していこうと思っている。

安保反対運動を閉ざされた世界において△傍観▽された新入生諸君は、その△リアルなニュースをテレビ、新聞で見聞されただろうが、何故にあのように△全学連▽が闘ったのに安保を阻止することが出来なかったのか、ということを最大の問題意識として、△社会科学▽の学習にとりこんでいきたいと思っています。なお長期的な学習プランを下に掲げます。漸次やっていきたいと思っています。

○マルクス「共産党宣言」（大月書店、以下同じ）

レーニン「国家と革命」

エンゲルス「空想より科学へ」

マルクス「賃労働と資本」

マルクス「経済学批判」

レーニン「なにをなすべきか」

レーニン「共産主義における左翼小児病」

レーニン「ロシアにおける革命戦術」

(レーニン全集二十五巻・二十六巻)

佐藤昇・石堂清倫「構造的改革とはどういうものか」

(青木新書)

棚橋泰助「戦後労働運動史」(大月書店)

マルクス「資本論」(青木書店・長谷部文雄)

〈連絡先〉

経済学部三回生

宮本良一

左京区岡崎東福ノ川町四の一 太田方

現代思想研究会

「哲学者たちは世界をいろいろなに解釈してきたにすぎない。たいせつなのはそれを変革することである」(マルクス)

会う人ごとにその人から、パンフレットの偶々の活字から、諸君におめでとう、よかうたね、ということば

が、語りかけられ、呼びかけられているにちがいない。新しく大学に入学される諸君をどういうことばで迎えていいのか、しかし私たちはとまどうのである。

単に試験で良い成績を収めたということに対しては私たちが皆と同じく祝い、判断はたゞそれだけのことからなされるものではないと私たちは考えるのだ。それでは、どこから判断すればいいのだろうか？。あらゆる試みがあり、その物質化としての運動がある。そうしたすべてのものを透視して、鳥瞰してみようと私たちは考えるのだ。

思想は、哲学者や半眼の瞑想する思想家たちのものではなく、象牙の塔に収めた書物に記されたものではない。しかしそれはまた銭湯の中で語られる人生論でもないのだ。人が考えるということ、人が行動するということの関係の中にとらえられる、ひとつの歴史をもった精神の運動であり、それが単に神から与えられた教義や、示されたドクマとしてではなく、人が生活の中から産出してゆくものとしてとらえられねばならないだろう。

たとえば、この研究会も安保斗争のあとで、その学生運動における思想的総括を中心として、つくられたの

だ。

観念論も唯物論もおそらくこうしたことばをとりあげて考えるだけでは明らかに別の観念論や唯物論におちこまざるを得ないだろう。思想はそうした性格を不可避的にもっている。この意味でサロン化した思想団体への傾針の危険を常に制御しつつ、常に現実の火の中で自分の思想を鍛えてゆかねばならない。マルクス主義も実存主義も、あるいはまたかつての古い時代における思想家たちの思想も、絶対に無関心であり得なかった問題にせまりつつ他方、常に生じてくる現実的諸問題を色々な角度から検討してゆこうとしている。私たちにとって重要なことは、現代における思想の主要な潮流を検討することからはじめることである。まず手はじめに、レーニンがまとめた『カール・マルクス』を読み、マルクス主義の全体系を一貫して流れる特徴の把握のうえにたつて、実存主義の方向へ進んでいこうと思う。マルクスが社会を把握したそのあとをふりかえることと、現代の我々が何をなすべきかの問題に解決を与えること、その間には決して軽視し得ない関連があるのだ。構成員は原則として、L・P学部の人々を対象とする研究会であるが、他学部の人も歓迎する。

読書文献の予定は以下に書いたものを漸次とり上げた

いと思います。

○レーニン「カール・マルクス」(青木文庫版・長谷部文雄訳資本論第一分冊の初めにある)

○マルクス「初期哲学論文集」(大日書店版マルクス

・エンゲルス選集補巻四)

○マルクス・古在由連訳「ドイツ・イデオロギー」

(岩波文庫)

○黒田寛一「社会観の探求」(現代思潮社)

○ル・フェーブル 森本和夫訳「マルクス主義の現実的諸問題」(現代思潮社新書)

○パツペンハイム粟田賢三訳「近代人の疎外」(岩波

新書)

○サルトル「実存主義はヒューマンイズムである」(人

文書院)

○サルトル「唯物論と革命」

参考文献

マルクスの年譜的な思想の発展を知るため

○ル・フェーブル・吉田静一訳「カール・マルクス」

(ミネルバ書店)

○ルカーチ 平井俊彦訳「若きマルクス」(ミネルバ

書店)

なお会合は毎週土曜日夜、楽友会館の一室でやりたい

と思います。第一回会合は四月十五日におこないたいと思います。

連絡先

文学部二回生

丸 一 忠 雄

京都市左京区北白川小倉町 関方

国家独占資本主義研究会

新入生諸君、昨年の安保闘争を、流血をみた三井三池の資本と労働の衝突を、君等は受験生活という灰色の部屋の片隅から、不安と疑惑のおもいで眺めたことであろう。あの嵐の月日の中で何を感じ、何を考えたであらうか。

大学とは科学をする場だ。自然科学は勿論のこと、人間そのものをあつかう人文・社会学系の学問も、科学をしないかぎり、いたずらに迷信と盲目による混乱におちいてしまう。現在の平和的幻想の中の混乱と不安・極度の自己疎外から脱出する道は、マルクス主義という一筋の糸、この至難の道を進むには一つにこの糸を手がかりにして行く以外にない。

マルクスが資本論によって、産業資本主義を分析して

から一世紀たった。レーニンが・マルクスの体験しなかった。したがって果すことの出来なかつた金融独占資本の寡頭政治の時代を、マルクスの遺業を、帝国主義論によってなしとげ、ロシア革命を成功せしめてから半世紀になろうとしている。

レーニン死後、資本主義は、その諸法則をつらぬきつても変化をとげてきた。

この研究会は知識の累積を目指すものではない。マルクス・レーニンをつらぬく一筋の赤い糸によって、われわれの生きている現代の日本国家独占資本主義を、われわれ自身の手で分析しようとの意図をもつものである。さしあたって三つの点から進むことにしないとおもっている。

一、日本資本主義における二重構造

文献・「日本の中小企業」中村秀一郎著（四月頃発行予定）「日本の二重構造」大橋周治著（四月発行）その他講座ものなど参照。

一、財政政策

「近代財政の理論」武田・遠藤・大内共著（時潮社）
「現代の国家と財政の理論」島恭彦（三一書房）
「近代財政講座」（春秋社）その他

一、国家機構

レーニンの「国家と革命」以外に良書がみあたらずぬので研究の過程の中で見つけて行く。

以上三つあげたが、不備な点は進行する中で補充するつもりである。この準備として「農業恐慌」大内力著（有斐閣）必読とし、各自基礎的なものは読んでおくこと。週一回会をひらいて論議する予定である。社会科学を、ことに経済学を研究しようとの熱意にもえている諸君の参加をおまちしている。（T）

連絡先 左京区吉田下阿達町京大吉田寮東京

寺 沢 清 二

|| E・S・Sの望む人達 ||

私達のサークル、京大E・S・Sがどんな性格のものか、その具体的な活動の内容はどんなものかについては後日別に機会を設けてその時に各々担当の人達から詳しい説明をしてもらおうと思う。たゞ最初に一つ断っておきたいことがある。それはE・S・Sは英会話講習所ではないということである。この事は二つの意味をもつ。

一つはE・S・Sへ入ってもそれ丈で英会話が上達する訳ではないということ。ここは、部員の一人一人が自身自身の努力を持ち寄ってお互いの努力の結果の交換や、苦勞の交換を通じて英会話の能力の獲得という共通の

目的をよりよく達しようという場なのである。今一つは、E・S・Sは単に人間が集まっている丈の場所ではないということ。英語丈が上手であってもそのことはよきE・S・S部員としての資格を充分に充つことは出来ないうことである。このことについては新入生の皆さんに特別の機会を持って説明するつもりである。

ここは学年の差ということ忘れて活動の出来る場所でもある。たとえ四回生でもファイトのある一回生の前には姿のかすむところなのであって、学年差は個人のファイトと努力の差に置き替えられる場所である。学年の意識をこえて皆が気楽にやれるということが私達の誇りなのである。E・S・Sには毎年百二十〜百四十人位の人達が一回生の部員として入る。夏休み頃には百〜八十人、夏休みの終わった九月に顔を出すのは五十〜四十人、かくて二回生の春に顔を揃える部員の数は多くて二十人。去年は例外的に多くて二十六人であった。どうしてこう気前よく人間が減っていくのであろうか。理由はいくつもある。例えば、去年迄は一回生の人達は一年間草深い宇治に島流しにあってたいた。上級生には授業の都合等もあって往復一時間半近い電車に乗って宇治へいくことが極めて困難であった為に、一回生は良く云えば独立した自治的な活動が出来たのだし悪く云えば放ったらか

し。だからすべて自分達でやらなければならなかった。

テキストを勉強するにしろ、討論会を持つにしろ、きびしい入試を突破して英語に対する少なからぬ自信を持ちながら自分の舌の意外な回転の悪さに驚き失望しながら、又宇治へは時々やって来るといふ約束を守らぬ上級生を時には恨みながらの話。勿論、サークル作りも又一回生文の手でという状態であった。吉田分校へ来るようになると、少しは舌の回り具合がマシになったと思うのに、便利な日本語があるのに舌のまわらん英語を嬉しうに話してやがるとかE・S・Sは女子大生との *English and Speaking Society* じゃないかとかいう声が、少なくなった人数を一層少くするらしい。今日E・S・Sにあって活動している人達は小なり小なりそんな声をきいてきた人達である。そして同時に、そのような声が浅薄な物の見方をし、物の皮層のみしか見えていない声にすぎないことを知っている人達でもある。女子大との集りを単なるお遊びの会だと思つて、それにしか出てこない人は、格好が悪くなつて姿を消すことになっている。英会話位、その気になればすぐやれるさ。今やらない丈のこつとだ。その通りなのである。私自身自分のまわりに、冷やかしと、幾らかの嘲笑の意味をもこめたそんな声をよく耳にした。そして面白いことにその声の殆んどすべて

が、いつ間にか消え去っている。その気になつてやれば出来るという丈では何も出来ない。そのことを実感として感じさせてくれるものゝ一つがこの英会話であると思う。ともかく自分で努力を始めてみる。そしてその努力を忍耐強くこつこつと続ける。根気のいる仕事ではあるけれども、その努力は必ず実を結ぶことは事実である。

英会話の上達の秘訣は、ともかくやることであり、サークルの一員として、考える。生活の出来るよき部員たることの秘訣と資格も又やることにつきると思われる。

今年は一回生が吉田に統合され、もう島流しの要目をみずにすむ。東京支部、大阪支部を持ち、更には現在アリメカにいる人達同志連絡を取り合つてのアメリカ支部迄も作るうという話すらあるO・B会との接触も今迄より多くなることだろう。

E・S・Sがどんな雰囲気にあるのか、それも中に入つて感得して頂くより仕方がない。限られた紙数のうちにかき表わす丈の力が私にはない。

大世帯になつて、この中でどのようにサークルを作つていくかということが今年一番大きい課題の一つである。私達の来て欲しい人達は、この課題を共に考えようという人。自分でやるファイトのある人、根気のある人である。女子大との集りが多いときいたからなどという

野次馬的な気持で来られる人は、初めからお断りということにする。入部されてもすぐに脱められることは心定だから。ファイトを持って本当に英会話を勉強しようと思われれる新入生の皆さん、ひとつ一緒にやってみようや。

——軽音楽部——

軽音楽部は数ある京大のサークルのなかにあつて、最もユニークな存在です。発足したのは一昨年の春ですが、それ以来、着々と発展を続け、今では三バンドを擁するにいたりました。軽音楽部にとって今年こそ飛躍の年です。三バンドというのはファンキービーターズ（モダンジャズ）、リズムメーカーズ（スウィングジャズ）、ダークブルーワゴンズ（ウェスタン）でファンキービーターズは現在流行のファンキースタイルのバンド、リズムメーカーズは、コンボ編成のスウィングジャズを得意とし、甘い演奏で人気を得ています。又、ダークブルーワゴンズは土の香のアメリカ民謡から近代的な、ウェスタンスウィング調までを幅広く演奏し、今年一月の京都会場でのコンサートで他大学と腕を競いました。

メインイベントは十一月祭でのジャズコンサートですが、その他にも他大学との交歓や他大学の文化祭出演、

ダンスパーティーでの演奏と引っぱりだこの有様です。さて、経験のない新入生の諸君には仮に入部しても、やっていけるだろうか、という心配があたりでしょうが。そういう心配は、いりません。現在、三十名近い部員がいますが、以前から楽器をいじつてた、という人は、ほんのおわずか、皆一年もすれば結構楽しくやっています。経験があれば、それにこしたことはありませんが、もともと京大へ入っている人にそれを求めるのが無理な話で、初心者の方大いに歓迎します。又部員の数が多くなれば、新バンドを結成することを考慮しています。入部希望者はいつでもボツクスに来て下さい。大学生活の四年間を軽音楽でもやりながら、楽しくすごそうではありませんか。

なおボツクスは西部構内。相撲部土俵の前

——劇団 風波——

君も他の人と同じ様に今まで一日の大部分を机上の勉強で過ごして来たことでしょう。でも君は大学生になったのだから、机上の勉強や、読書からのみ自分の実力をつけようとは思わないでしよう。友達と討論したり、他の人々と一緒に実践する中で、ひとりよがりでない、観念的でない本当の意味の実力がつくのですから。ではそ

の機会は京大の学園内で自然と与えられるものでしょうか？否です。麻雀友達は自然と集まっても、辛苦を共にする者はあらわれません。唯機会はクラブ活動をやる中で与えられると思います。現在の様に社会が安定し、規格製品として学校の中で大量生産される時にあたって、自分の殻の中に閉じこもり、独りよがりになっていては、益々、規格品であることを助長し、そんな社会にしてしまうのです。ダイナミックな、おおらかな人間になる必要があります。『演劇の目標は人に喜びや勇気を与える様な具体的生活を描くことにある。それと同時に、演劇を創造する組織の中の私達は力強い方法と正しい感覚を身につけた前向きに生きる人間になることである』と先輩が云われたが、正しいと信じます。しかし君は学校の勉強と劇団活動が両立出来るかの懸念があると思います。劇団活動で得た正しい感覚は学校の勉強に於ても取り入れられるべきものであります。又その逆も云えますから決して対立するものではなく相互に有機的に高めあうはづのものです。劇団活動は特に理論と実践が両方要求されます。その点で他のサークルと違って益々自己に厳しくするものです。多分辛苦でしょう。しかし此の辛苦に耐える者程、正しい感覚を身につけた、前向き人間になると思います。次の懸念は演劇が出来ないのでは

ないかということでしょう。僕等の仲間是一部を除いて始めて舞台に立つ人がほとんどです。皆それでも、そしてそれが故に一生懸命に練習をします。君も一度劇団『風波』に来て見れば、自分もやれば出来ると思うでしょう。『公演が近づくと俺はビクビクするんだ』だが公演が終った時のあの感覚にかなわねえからやってるんだ。』と風波の楽書帳に書いてありました。君も一度西部講堂北側六号ボックスに午後五時頃から来てみて下さい。必ず誰れか居るはずですから。皆楽しい奴ばかりです。

今年風波創立十周年です。何か記念行事をやるうと思っています。普通は年二回の公演を行います。今年夏休みに広島巡演を目ろんでいます。では君の入団することを期待して。……。(文責 麻生忠)

劇団「創造座」

「人間は胃の贍よか高尚だあ!!」

そうです。私達のサークルは、人間の真実を、「人はパンのみで生くるにあらず。」とあるバイブルの中からよりも、「どん底」でうごめく人々の生活を創造する中から、私達自身の体でつかもうとしています。

創造座の活動は、六月と十二月の定期公演を中心とし

ています。今年は、今までの中心メンバーがごっそり抜けて、若い者達が大いにやろうと張り切っています。地方公演の話も進んでいます。

シバイ造り、学校、バイト、デモ、etcを充分にやりおす事はしんどい。公演日などは、シバイだけに相対時間をとられる。舞台の上で、虚構の世界を、自身の自分達で創造する共同作業のきびしいしんどさ、これが創造座です。

でも、書いている御本人さえ良く分らない理屈はこの位にして、ともかく楽しい所です。何しろ他人の生活を体験できるんですから。悪いことは申しません。はいって、一緒にやりましょう。いろいろな技術が身につきます。裏方をすると、大工作业、電気作業、お裁縫に、お化粧、さらに人使いの方法や、会計事務が学べます。役者では、借金の仕方、断り方、デイトの誘い方、断り方、変った所では、レストランボーイの技術が身につきます。BOXは西部講堂の北側の建物、入口をはいって左側へ、つきあたりの前の七号室。一度、様子を見に来てください。

自分自身を、そして社会を、見つめ、その真実を見つけて出して、自分を、社会をそれに近づけようとするのが、君達の、そして、私達サークルの、また、他の多く

のサークル、大学、社会全体の目的です。創造座は、それを自身の体を作ってやろうとする人々の集りです。

|| 部落問題研究会 ||

新入生の皆さん、御入学おめでとう。

私達、「部落問題研究会」は、真面目でファイトある皆さんの入会を期待しています。

誕生してから四年になりますが、昨年三月から大阪市、矢田部落の実態調査に取り組み部落における貧しい生活の基盤を究明しようとはしました。未解放部落とは、半封建的な身分差別を受け、貧困におとしこめられた全国六千部落三百万といわれる人々のことですが、問題の本質をまさに、現代日本の社会構造そのものと考え、生産関係という点から問題にせまり、部落における労働人口の存在形態をさぐるとうのが、基本的な観点でした。昨年十二月に報告書草稿を一応まとめ、現在なお完成を目指して、教授、先輩諸氏を中心に努力がなされています。

一方、こうしたなかで、組織としても確立してきた私達は、微力ではあっても解放を目指し、長期にわたる地域活動の必要を感じ、また地元の要請などもあり、十一月から、京都市内高岸町の子供会活動に取り組み、現在

サークルの中心的な活動となつています。

また、全国学生部落研連絡協議会の事務局担当校となり、今年の十一月には第三回全国ゼミナールを京都で開催するための仕事も熱心に始められています。

簡単に主な活動を列挙しただけですが、私達はこうした活動をを通じて、現代日本の矛盾に具体的に触れ、対象を冷徹に分析し、変革の方向をさぐりながら、自身自身と社会、歴史とのかかわりを考え、さらにその考え方を自己の行動を支える思想にまで深めていくよう、会員相互に批判しあい、助け合つていこうと努めています。

二十五名(女性四名)の会員がそれぞれ仕事を分担して、奮闘しています。ファイトある皆さんの入会を心から期待しています。限られた紙数で、部落問題そのものについて全く触れる事が出来ませんでした。いつでもボックスへ話に来て下さい。(吉田)

映画部

映画は現代人の生活にとって必需品だ。現代人の行動や思想を問題にする時、映画を欠かすことは出来ない。

処で京大映画部では、単に「映画が好き」と云う人よりも、むしろ映画が嫌いで、映画と聞けばヘドが出ると

云った人たちこそ求めている。映画部の豊富な活動、即ち週二回の合評会・研究会(映画理論その他)、西部講堂で行われる映画鑑賞会の企画・映画会社他との交渉・フィルム運搬・映写・スクリーンの立てはずし・入場券販売・改札・パンフレット発行、機関誌エスキースの発行、対外的活動として京都学生映画研究会連合の合評会・研究会その他、更に自主映画製作準備、などに参加するためには「映画が好き」だと云う、ただそれだけではうにもならない。そう云う人は映画部に入らぬほうが幸福だろう。だがこれだけの活動に積極的に参加することは並大抵ではないので、本年度より映写技術のみを習得したいと云う人も特に募集することにした。その人々には、若干の映写料が支給される。

現在までの処、活動の主体は研究活動にある。昨春秋には、いわゆる松竹スーヴェルヴァグと呼ばれる大島渚・吉田喜重・田村孟等の徹底的な説明を試みた。彼等の映画を上映、大島渚をかこむシンポジウム、それと研究会を立体的に行つた。もはや、日本の映画評論家の中で我々が学ばねばならぬような存在はない。われわれは、日本映画評論界の前衛であつたし、前衛である。明日もまたそうであるために諸君を歓迎する。

◇京大映画部選出昨年度ベストテン◇

〔邦 画〕

- ① 太陽の墓場 (松竹・大島 渚)
- ② 愛と希望の街 (〃・〃)
- ③ 日本の夜と霧 (〃・〃)
- ④ 悪い奴ほどよく眠る (東宝・黒沢 明)
- ⑤ ろくでなし (松竹・吉田 喜重)
- ⑥ 青春残酷物語 (〃・大島 渚)
- ⑦ おとうと (大映・市川 崑)
- ⑧ 悪人志願 (松竹・田村 孟)
- ⑨ 黒い画集 (東宝・堀川 弘通)
- ⑩ 秘 密 (東映・家城巳代治)

〔洋 画〕

- ① 大人は判ってくれない (仏、F・トリュフォ)
- ② 拳銃の報酬 (米、R・ワイズ)
- ③ 勝手にしやがれ (仏、J・L・ゴダール)
- ④ 甘い生活 (伊、F・フェリーニ)
- ⑤ セーヌの詩 (仏、Y・イヴェンヌ)
- ⑥ 許されざる者 (米、J・ヒューストン)
- ⑦ 顔のない眼 (仏、J・フランジェ)
- ⑧ スリ (仏、R・ブレッソン)
- ⑨ 真夏の夜のジャズ (米、B・スターン)

⑩ 黒いオルフェ (仏、M・カミニ)

(部長・松本 二郎 M四) (西部構内二号BOX)

|| 京大合唱団 ||

先ず、合唱団ですから、なによりも、歌—音楽—の好きな者の集まりです、絶対に言葉では表わし得ない人間の感性の面の芸術・この音楽をする(合唱する)ということの喜びをほんとうに心から愛し、大切にする人。こういう人達が合唱団を構成しています。と云っても、なにも音楽の経験、合唱の経験のある人達だけが合唱団に入ってくる訳ではありません。いやむしろ、高校時代に合唱なんかやったことがないという人達が団員の大半を占めている位です。もともと人間は音楽に対して嫌いなどというようなことはなくて、ただその人が育って来た環境の違いによって、人によっては音楽と無関係になっ

ていることがあるというに過ぎないんじゃないでしょうか、だから京大合唱団は音楽の好きな人には誰でも経験の有無を問わず入団して下さいと門を開けているのです。又、活動の基本的考え方として、現在日本の社会の中で、誰でもが、音楽のよるこびを得ることへの妨げとなつてはいるすぐての事柄に対して憤りを持ちます。以上は、京大合唱団の音楽団体としての側面ですが、もう一

つの忘れることのできない側面として、どんな他のサークルにも共通している、私達成長過程にある者の人間を形成していく場としての意味があります。現代資本主義が、ますます高度化し、その矛盾を深めていく中では、私達大学生の生活もそれから到底免れ得ることなく影響を受けています。私達はますます一人一人バラバラに切り離され、個人主義と利己主義にのみこまれ、一流会社の就職が大学生生活の究極目的であるというような心境に立つことを余儀なくされています。そういう時、週三回、二時間づつの練習や、合宿、ピクニック、話し合いなどの集団生活で互いに平等な一人の人間として交流しながら、周りの社会に対処し得る自己の人間性を培養——

合唱団という温室の中ではあるが——していきけるということは、ほんとうに得がたいことだと私達団員は思っています。こういう京大合唱団は現在団員数名簿上三百五十名を数え学内最大のサークルを誇り、混声・男声・女声・合唱をやっていきます。メンバーは男声は京大生ですが、女声は京大生に限らず、京大職員・他大学生・一般勤労・市民と多彩をきわめています。歴史は古く昭和六年の創立で今年で丁度三十周年を迎えます。歌っているのは、モーツァルト：シューベルト・ブラームス等のロマン派から、バルトーク・コダイ・ショスタコーヴィ

ッチなどの現代作曲家更に日本民謡、現代邦人作曲家のもの、各国民謡という具合に広範測に亘っています。練習は月曜日—混声、水曜日—男声、金曜日—男声・女声、それぞれ六時から八時まで、近衛の学生集会所の合唱団ボックスでやっています。

サークル代表者 庶務 養輪 秀邦

連絡先 学生集会所・合唱団BOX

俳句研究会（通称京大俳句会）

皆さん 合格おめでと。

君達はこの言葉をきつともう見飽き、聞き飽きる程目にした耳にした事でしょう。しかしそれでも尚、その都度思わず顔がほころぶのを感じられるのではないのでしょうか。僕もそうでした。そしてそんな時、とかく我々はその喜びを何かに表現してみたい欲望にかられるものです。例えば俳句です。俳句は他のいかなる文学にもまして直截的です。いかなる臆舌をも拒むからです。俳句は又、「諸人旦暮の詩」でもありません。国語を知る者なら、長幼男女のいずれを問わず誰にでも出来るのです。しかもその深さは、一度びその奥義を極めんと欲するや、真験になればなる程深くなるというのですからその醍醐味は応えられませんか。そして又、俳句は日本

という風土の生んだ詩でもありません。その第一人者として芭蕉に指を屈する事は誰にだって容易でしょう。しかし、その日本個有の風土詩が、その後どのように伝統の尾を曳き現在に至っているか、或いは現在どのような作品が作られているのかを適確に云える人は案外少ないのではないのでしょうか。我々はその事を非常に残念に思うのです。

これらの意味で昨年五月、我々は伝統ある京大俳句会を再建致しました。当時二・三名にすぎなかった作句経験者は、今では何時でも句集を編み得るだけのメンバーとなつています。殆どが経験一年に満たない訳ですが、この秋には大会の計画も進めており、三月末の志摩海岸合宿吟旅に参加されてみるのも又入学前の良き思い出の一駒となる事でしょう。幸い、日野草城、平畑静塔、長谷川素遊等々幾多の俊秀を昭和の俳壇に送り出し、常に俳壇をリードし続けて来た輝かしい伝統ある京大俳句の新しい担い手たらんと欲する意欲に燃える諸兄姉の多数入会を待っています。(高木記)

連絡先 京都市左京区下鴨泉川町33 高木 智
月例句会 三月二十四日(金)午後一時 於楽友会館
他、読書会、吟行句会等随時発表

同人詩誌「楽隊」

順当に行けば、諸君が入学する頃には第二号がお目見えするはず。ゲルピンのため若干遅れたが、この三月に創刊となった。二色刷りの美しい雑誌だから、入試で乾いた頭には、きつと、アルコール以上の効目があるに違いない。詩のほか、サド研究家として著名な渋沢龍彦氏の原稿(ブルトンとトロツキーの出会い)もあって、他の雑誌には一寸みられない企画が売物である。

さて、自己宣伝はこの位にして話を移そう。すでに、先輩から予備知識を注入された方は、今更、ともうかも知れないが、大学なんて実にくだらぬいもので、ぼくたちの誇りの一つである——のもその反映にすぎない。

そんな所で詩を書いてどうなるか？ 少くとも自分が、ランボオやロートレアモンにはなれないことがわかってくる、が同時に、認識の方法を自分なりに身につけ始めることにもなる。難解だということも現代詩を片付けられない理由も、この辺にあるのではないかと思う。たしかに現代詩は今、混沌としている。戦争体験の内面化を通して数々のすぐれた詩を残した鮎川信夫ら「荒地」の

同人たちは、すでに、現実に乗れ越えられてしまった。谷川雁によれば、一九六〇年に現代詩は死んだ。

加えて、芸術の危機が叫ばれ、芸術運動が提唱されている。しかし、形式を変えれば片がつくというわけではない。ぼくたちは、やはり、芸術の、人間の衰弱した姿をみつめながら詩を書き続けたい。そして、「ユリイカ」の廃刊で淋しい思いをしておられる方々を慰めてあげたい。

勿論、いつも詩を書いているわけではない。デモにも参加する。全学連主流派支持である。

フルシチョフや毛沢東は世界革命の「ガン」だと考えている。

同人になりたい方は、必ず、詩を二編以上送って下さい。その他、酒の差入れ大歓迎ノ(K)

連絡先 京都市北区小山初音町三七南方 清水 哲男

〓 京大琴古流尺八研究会 〓

△或人問て曰く、尺八は何のために吹や、

○答曰何のためにもあらず好める故に吹なり

研究会結成以来はやくも一つ年が明け、今また多くの新会員を迎えるに当って言い知れぬ感慨を覚えるのも、つまりは尺八を好める故であろうか。ともあれ先ず尺八

の遍歴を述べよう。その起源は古代エジプトの葦笛セビであると考えられている。後にアラビアに入り、モハメット帝国の東方発展につれて、ペルシアを経てアフガニスタンに入り此処で葦が竹に代えられたのである。我國へは支那を経て奈良朝に伝わったのが最初である。今日の姿となって現われたのは江戸初期で、元禄の頃に名手黒沢琴古が出た。これが今日の琴古流尺八の始まりである。我々は、更に多くの同好の志を得て、尺八の真の姿を共に研究して行くことを目的としている。単に上達をめざすばかりでなく、自己の生活に益するところを吸収する努力もしている。人それぞれの声が違っているように、同じ尺八でも、吹く人によって音色も感じも違っている。尺八は人それぞれの個性がそっくり音となって現われると言っても良い程個性の色彩の強い楽器と言えるし、又それだけに実に楽しいものである。また現代尺八の直接の母体として、普化僧が果たした役割は大きく、この為にながりの禅味を帯びたのである。こうして、顕著な個性の表現と、禅味とが相俟って、尺八を味わい深いものにしていくのである。我々は幸いにも研究会顧問として、東大駒場時代からやっておられる西川義正教授をお迎えすることができ、更に足固めができた感があり、今後の発展の原動力としての新人生諸君を心から歓迎す

るものである。休み中でもハガキなりで事務所（京都市左京区田中上柳町五山岸方）へ申し込み次第、練習予定を連絡いたします。多数の入会を乞う。

責任者 文三回生 山岸 政行

— 京大歌舞伎研究会 —

カブキを見たことのない人。カブキを一度御覧になりたい人。カブキに興味をお持ちの人。カブキをやってみたい人。演劇の好きな人。役者と話をしたい人。学生生活をエンジョイしたい人。カブキ研究会はそういう人達のサークルです。カブキ研究会は今度結成されたばかりの新鮮なサークルです。新入生の諸君、一緒に日本の古典演劇を通じて実りの多い学生生活を送ろうではありませんか。

今やカブキは近代人の教養となりつつあります。カブキは日本伝統演劇の宝庫でもあり、又新しい演劇を生む泉でもあります。こうした古典演劇に対する鑑賞と正しい批判によって、混乱する現代日本の演劇に対して正しい態度をとることが、我々学学生にとって必要なことはい言までもありません。今度新しく結成された京大カブキ研究会は、こうした点にかんがみて、カブキの鑑賞、批評、実演を通じて我々の豊かな教養を築きあげること

を目的とするものであります。主な活動目標は、

○カブキ実演（11月祭を目標）

○カブキ俳優との座談会

○カブキの鑑賞及び批評

○カブキについての研究

○カブキ名所めぐり

○その他

新入生諸君、発足したばかりの新サークル「カブキ研究会」を我々と一緒に育てようではありませんか。是非当サークルに入会されて、悔のない青春を送られんことを！！

責任者 木下 肇

法学部三回生

— 「スペイン語会話クラブ」 —

最近相次いで日本を訪れたトリオ・ロス某等の連中のお蔭で、スペイン語ブーム到来の感がありますが、それはかなり底の浅いもので、この風潮に頼ってスペイン語研究の仲間をふやしていく事は甚だ危険であると私は思います。もう少しこの言語の本当の姿を見極めた上で、新入生諸君に入会してもらおう事を望みます。

御承知の様にこの言語はスペイン本国の外、メキシコ

その他中南米二〇カ国の公用語であり、それを話す人口は英語に次ぐ位置を占めています。又スペイン語はラテン語を祖先に持ち、フランス語、イタリヤ語とは兄弟関係にあり、しかもラテン文化の影響が強い英語とは語彙の点で共通する所多く、これら関係諸語を学ぶ補助手段としてもスペイン語学習は有益なものです。

学習面では、単母音が a, i, u, e, o の五個で、音色も日本語のアイウエオと殆ど全く同じもので、日本人の発音は欧米人よりきれいだとかよく云われます。複数 *s* 又は *es* を加えて作られる事は英語よりも規則的であり、綴字と発音の一致はカーヨッパ随一で、色々な点で学習に入り易い言語です。

この会は昨年の秋に発足し、未だ半年に満たない歴史を持つのみです。今年度の具体的方針は未定ですが、毎日昼休に集って、二十分程初級文法を分担して教え、残りの時間はレコード等によって会話の練習に当てる事になると思います。多数の諸君の入会をお待ちしております。

== エスペラント ==

まずエスペラントについて説明しよう。Esperanto は一八八七年、ポーランドの医師ザメニホフがヨーロッパ

諸語を土台にして作った半人工語で、現在世界で通用している唯一の人工語と云ってよい。Esperanto は（希望する者）を意味し、始めはこの言葉の創始者、ザメニホフのとく名であったが、今ではザメニホフの言葉を意味し、人工語の代名詞となっている。

人類の和解と世界の平和を念願して作られたこの言葉は発表以来、数百万の人々に学ばれ、人々に夢と希望を与えて来た。英語、フランス語などの如く、特定の人々にのみ容易で、不公平のある点を排除しようとするこの人工語は、ザメニホフの天才と幾多先人の努力によって、いまや自然語に匹敵するものになろうとしている。だが、まだこの言葉の前には数多くの問題が横たわっている。

我々の会は、言葉としてのエスペラントを学び、更に、世界の動きと国際社会の一員としての我国の立場を理解し、世界の平和に寄与し、我国の発展に尽したいと考えている。現在、十数人の会員を有する我が会は残念乍ら、活潑な活動をしているとは云えない。強烈な熱意と会員相互の意思統一が欠けているのが、最大の理由である。又、エスペラントが未だ充分実用的目的に用いられていないのが、大きな難であるが、自然科学関係ではかなり論文が発表され始めている。社会人及び科学関係

では見るべきものはない、従つてこの面での今後の發展は我々若い世代の活動如何にかかっている。我々は単に利益を受けようとするだけでなく、創造していく覚悟が必要である。

又、一般に思われているほど、この言葉はやさしくはないので、(文法的規則に例外が殆どないのは有難いが)これに熟達するには、やはり相当の努力が必要である。一九六五年には東京で、世界エスペラント大会が開かれることになっており、その年は諸君の大学での最後の年に当るので、今から着々と学習を続けていったら、各国の人々と楽しく交わることができである。語学は半ば、根気競べであるので、気短かな人には入会をすゝめにくい。ファイトのある諸君の入会を心から望む。

〓京大ローバースカウト部〓

新入生諸君、先ず諸君に対し「弥栄」を三唱したい。

さて、ローバー・スカウトが何者たるかを御存知の方は殆んどないだろうが、ボーイスカウトと言えば御承知の事と思う。「あゝ、あの小、中学生ぐらいの小さなのが、変った正服を着てキャンプしたり、奉仕したりしているやつだな。」とのみ早合点されては困るのである。このローバー・スカウトはその青年部というべきもので

ある。

一昨年の秋、胎動をはじめ、昨年四月に学内サークルとして認められ、同時にボーイスカウト日本連盟にも加入している。こうした大学ローバーは全国で十余校を数えるが、国立大学では、他に東京農大があるのみである。ローバー・スカウトというのは十八才―二十四才の年令の男子がスカウティングに基準して活動するのならば、構成員の種類は問わないのであって、大学ローバーの他に、養成工や若手社員を中心とした職域ローバー、加盟団に属する本来の形体であるローバー、各地方の青年団の転身ともみろべき地域ローバー等々がある。

我京大ローバーは、顧問として高木公三郎先生、職員は未だ十一名であるので新入生諸君の参加を大いに期待している。活動としては、野外活動と室内活動又は、奉仕活動と研究活動に分けられるが、キャンプやハイキング、未知の地方探勝、次には宗教研究、社会教育研究、その他特殊技術の研究等を通じて、身心の錬磨を目的とするのであって、活動の範囲は限定されず、各々工夫し、探究していく様にするのが本来である。昨年の例としては、那須、日光に於ける六泊七日の移動キャンプ形式による第一回ローバー・スカウト全国大会への参加、ローバーに関する英書の翻譯、ボーイ・スカウト隊への

指導奉仕等々である。今年は新しい活動分野を試みたいと思つてゐる。

申込連絡先 体育教官室高木先生又は、

北区小山元町三佐藤義彦（電40〇九五）

（文責 法三、杉村）

「法律相談部へ入部しようとする

法学徒の君へ！

「学んだ法律を役立てて人助けをする」これが、私達京大法律相談部のモットーです。君も二回生になると専門的に法律を学ぶことになります。が、もし、その学んだ知識を応用しないならば、何の意味もありません。

「役に立たない机上の空論」これほど世に無駄なものはありません。そして又、これほど学んでいて退屈なものはありません。実践に役立つ機会を見なかった理論、それは何と無価値なものでしょう。私達は学んだ理論をすぐに実践に移します。そしてその理論が現実社会でどんな意味をもつか知るわけです。法律相談部は終戦直後、於保健教授を中心に発足し、あらゆる困難と闘いながら成長してきました。今日西部構内の一部室を借りて毎土曜日午後一時より市民の法律相談の相談役を務めています。これが私達の最も重要な活動です。そして、年

二回市内の学校を借りていわゆる「出張相談」をやり、その日の夜は、予め案内状を出してお招きした先輩を交えコンパをやります。このコンパ的ムードも法律相談部の一特徴といえます。即ち、東京、大阪、京都で大体月一回、「法相サロン」を催し、先輩後輩集まって食べながらダベルという慣行になっています。研究活動としては現在、ささやかな公法研究会と和法研究会に於て、法学部の助教授を囲んで互に論争し、或は、関西学生法律討論会、全日本学生法律討論会に代表を派遣しています。別に、東大との交換会があり今年には私達が東大の方へ遊びに行くことになっています。

以上要約しますと、法律相談部は奉仕団体、親睦団体、研究団体であると定義できましようか。

春四―五月、法学部二回生を対象に入部を勧誘します。鋭敏な頭脳と暖い心を持った君のおいでをお待ちしております。

（BOX―法経第四教室北入口横）

音楽研究会

新入生の皆さん、御入学おめでとう。

過去の受験生活から解放された皆さん方は、受験という牢獄を脱けた、足の鎖をやったはずした囚人の満足

に似ているといつても過言ではない。音研がそんな皆さん方身心の囚人に不可欠の要素たるべき心の情緒、安定を提供できれば幸いなのだが、

さて音研とは一言でいえば音楽を研究する集いなのだ。といつて苦虫をかみつぶしたような顔で固苦しい理論を論ずることが最大の目的ではない。お互いに音楽に興味をもち、音楽に関してと同様、ロマン・ローランのジャンク・クリストフにみられる如く音楽ではない音楽——心の内部の生への追求を目指して、音楽というわくにとじこめられずに、しかも音楽の内にある自己を真実に見つめて語り合うことに意義を見出すのだ。

部員はもちろん、学問より音楽を試さず立派な先輩もあった。だが90%近くは無名の闘士ともいふべき、ピアノもさして上手くなく、コーラスも満足に出来ぬ連中だ。だがファイターであることには違いない。最初に
(一) 今年度の活動と反省について述べてみる。

① 部内発表会 春秋二回行われる部員の年中行事の一つ。今年度は安保で秋一回だけだった。

② 定期演奏会 恒例の秋の文化祭の参加として、ピアノばかりでしかも大曲が多かった。

③ 専門家のリサイタル、今年度の最も盛況だった行事で、文化祭に一般学生を対象として催すもの。今年度

は先輩による「ドイツ歌曲の夕」を催し、好評であった。

① 雑誌「音研」について、音楽に対する各人の意見を惜しみなく敘述する音研の同好誌ともいふべきものが発行

(二) 次に来年度の目標、部員によるコーラスを正式且つ本式にやること、ピアノ以外の他の楽器演奏も可能ならしめること。以上地味な存在ながら活躍する音研に新風を吹きこんで下さることを期待する。

— 京都大学交響楽団(略称京大オケ) —

音楽を求め、音楽を表現せんと欲する諸君ノ我々は諸君の入団を心から歓迎する。我部には、楽器演奏を経験して来た名手も居れば、入学後、初めてバイオリンなる木製品を知り、日夜の努力の結果、オケの演奏に加わる如き努力家も多数居る。部員の半数以上が未経験者であるが、殆んどこの者が在学中に一応マスターして、音楽演奏を大学生活の心の糧とし、そこに多大の喜びを発見している。我部は大正五年に創立されて以来、今年は四十五年目を迎える。その間、幾多の困難な問題にぶつかり部員の新鮮代謝を通じ様々に変化し、定期演奏会を中軸として、欠かすことなく演奏活動を続けて来た。閃響、

京響等の設立以前に於ては、関西の音楽の先進的活動団体として、又それ以後に於ては、プロのオケの来洛、演奏の普及により学生オケの立場にたたされ、本来の姿である学生サークルの一体として活動して来ている。

学生オケには、演奏曲目、演奏会のあり方、その他諸活動に於て、当然プロとは異ったものが要求される。学生オケは元来どうあるべきかについてよく考え、それを活動に反映するよう努力しなければならない。

音楽に対する誠実な態度。これは我部の伝統的共通点であり、守り持つべきものです。音楽演奏に於ては、誠実さ、厳格さが常に要求されます。他面、演奏に反映されるチームワークも無視出来ません。種々の親睦会、合宿、演奏旅行などによって、部員間の密接なヒューマンリレーションが図られている。次に我部の活動概況を紹介しよう。先ず春秋二回の定期演奏会。これは我々の中心活動であり、日頃の練習の結果出来上った音楽を発表し、聴衆と共に音楽の世界に没入し、喜びを分かち合うのである。その他、部員間で平常演奏している室内楽或いは独奏の発表会として室内楽発表会。夏期休暇を利用して、地方での演奏活動として演奏旅行。北九州、北陸、東北地方に今まで足をのびしている。今年は中共行きが計画されているが交渉結果はまだ不明。又団体生活による部

員の和、演奏技術の向上を意図する合宿。以上が主な活動である。部員数は現在百余名。楽器は不十分ながら木管金管、弦楽器がある。我部は諸君の若さに満ちた活動エネルギーを待っている。共に音楽を語り、演奏し、諸学を語り合い、時にはスポーツもやろう。入部希望者は市電近衛通の楽団BOX迄何時でも来て下さい。尚合宿（四月三十日）にも遠慮なく参加して下さい。

総務 北井啓隆

文学同人誌「弩」（いしゆみ）

今年から教養部の一回生も吉田に通うことになるのだそうであるが、私達はその一年を宇治で過したのであった。草深い田舎で、自衛隊さんのお隣りで、とにかく大学生生活とはこんなものかとなんとなし分りはじめたころ、私達は自分たちの孤独を感じはじめたのであった。何か乱痴気騒ぎのあとのような、宿酔のあとのような、入学当時の有頂天といってもいいような感情のあとの空虚感、淋しさ……

そんなものはみんなの共通の気持であったとみえ、誰かが

ト雑誌をやるう。

と云い出したとき、意外に多くの人々が集まった。そ

してその年の十一月、私達の参修（いしゆみ）が出發したのだ。

もちろん、正直に云って、私達の眼からもそれは満足すべき出来とは云い難い。私達はまだまだ幼稚で力が足りなかった。軽い失望すら私達は感じた。

また私達は幾度か集まり、話し合った。けれどそこでも私達は一つの懷疑主義に突き当たり、建設的な結論に仲々達し得ないのを感じた。ここに到って、私達はまた前とは別の空虚感を経験しはじめた。

（われわれは力弱くて何事もなし得ないのではないだろうか？）

会員達も少しづつ欠けはじめた。

けれど三号を出し、ある意味では多すぎたとも云える。会員のうち、残ったものたちには何か新しい視野が開けて来そうな気がした。それは、云ってみれば、いままでの何か「生きる準備をしている。」といった甘えた気持が、三回生になり、これから「本当に生きる。」という気持になりはじめたということだと思われる。

× × ×

私達は今四号の準備をしています。書いてやろうと思われる方や、二号、三号の残部が少しありますのでそれを求められる方は左記に御連絡下さい。

芦屋市打出浜町一〇一 中村龍平

京都大学新聞社

（京大西部構内TEL学内一四二甲）

とにかく忙がしいところです。ですから、新聞を編集しているぼくらにとって、まずだいいちのことは、しごとです。しごとの内容はいろいろありますが、そのほとんどは雑用といってもいいぐらいです。そのさまざまなしごとを、どれもこれも協力してかたづけたいかなければ、毎週一回の発行、それによって、ニュースや論文を読者によんでもらうという目標も達成できないわけです。しごとをしないとすれば、やっぱりものになりさがるだけのことです。そして、たんに情性的に毎週だすことだけでなく、よりよい新聞をつくっていかなければ、お金をはらって読んでもらっている読者にたいして責任をはたしていることにならないのです。つまり、つねに向上心をもって、新聞をつくっていかなければならぬのです。こういうことを自覚した人にかけてもらえれば、もっともっと、京大新聞はよくなると思えます。

京大新聞は、昭和史とともに生きてきた新聞です。大正十四年の創刊らしい、戦前、戦後（昭和二十一年から「学園新聞」の名で復刊）をつうじて、「大学の自治」

の侵害に抗し、京大反戦自由の伝統を守る一翼として、発行をつづけ、一昨年には一千号をむかえました。それを機会に、「京大新聞」の名を復活したのです。

ぼくたちは、京大新聞の伝統をほこりに思うことももちろんですが、しかし、今、ぼくたちのつくっている新聞に満足しているわけではありません。マンネリズムの打破はいまの目標の一つです。新らしくやってくる人たちは、その意味で、大きな期待をかけています。ぼくたちは、編集会議という全員の話し合いの場所を持っていきます。毎週ひらくこの会議では、しんけんにおたがいがなっとくするまで討論して、論説や、特集や依頼原稿のテーマをきめるのです。それはぼくたちの新聞編集生活の中心ですが、編集生活全体をつうじて、緊密な人間関係をつくりあげています。ぼくたちは、こうして、しごとをつうじて、お互いをたかめていこうと思うのです。

京都大学地理同好会

代表者松田常志、教養部人文地理学研究室内

長い闘争にお疲れになったことでしょう。御入学おめでとうございます。今年も意欲に満ちた諸君を迎える希望の春が来ました。例年のことながら、大学に入って、

皆さん自身が個性や趣味によって、各々自己の伸長と大學生生活のエンジョイを期しておられるでしょう。地理同好会は今春をもって十一年目をむかえます。十年間に涉って先輩や我々は、「同好会が常に、会員の相互の友情や趣味の上にゆるぎない親睦を築く」ことを最大の目的としてきました。しかし単に親睦だけのための会ではないのは勿論です。会員は学部別なく一同に集まり、地理という人間にとっては看過できない要素を媒介として互に語り合い、親しさを増す。例えば旅行やエクスカージョンに共に出かければ、新しい自分と異った友と愉快な時間を過す。或時は一地方の調査を思い立っては、手分けして聞取に出たり、合宿や共同作業でそれをまとめ、てみたり。こうした中に先輩や我々は大きな大学での、暖いうるおいを感じたものです。現在まで同好会は四回にわたって会誌年刊「カクテル・ド・ジオグラフィ」を発刊していますが、この他毎週木曜日昼休み、全会員が部室に集まって、四回生から一回生まで、全ての学部生が混合して読図会を催し、これを例会としています。この場合時には会友の旅行の成果がスライドなどで披露され、あるいはダベッターリするのです。全学生は同好会員であって、同好会員も真剣に学生生活を考え、社会に無関心でいるわけにはゆきません。だからといって、地理

同好会は「政治的、芸術的イデオロギー」云々といった外面的なものを諸君に与えないかも知れません。しかし（今まで述べてきたことでもわかるように）、同好会員は、会の意図する親睦を、趣味や友情によって築くのであり、必ず諸君の内に豊かな人間性、暖い友を得ることになると思います。一種の圧迫感から開放され、春の木芽の如く大いに希望と意欲にあふれた諸君が多勢で押しかけられるのを期待しています。

— 京大中国研究会 —

僕は中国になんらかの興味のある者が集り、主に現代中国を研究することから、社会に対する見方と認識を深め、よりよい学生生活とよりよい日本の建設の為に活動している。

そしてこのサークル活動を通して、自己疎外を回復し、新しい人間関係—連帯感と愛情のある人間関係をうちたてて行きたい。

一昨年宇治分校に中研を結成して以来、最も活発なサークルの一つとして、現在三十名余（女性五名）の会員が活動している。昨年の主な活動は、「偉大なる道」の学習会、人民公社、文芸講話の研究、中国を敵視する安保条約に反対する斗争、横の組織化として中国研究会関

西学生連盟（七校加盟）と中国研究会京都協議会（五校加盟）の結成、夏休みの比エイ山の合宿、秋の十一月祭には「中国の青年学生」というテーマで①中国学生運動史の研究、②竹内実、西山卯三氏の講演③中国映画「青春の歌」の上映、④「中国の青年学生」の写真展、⑤他団体との協力によるシネプレヒコール「安保闘いの記録」等多様な活動をした。又中国との交流を深め、中国対外文化協会、中華全国学生連合会からメモ、セージと資料をいただき、又京大中研の日君が青年、学生訪中代表に候補として日中京都府連から推選された等日中青年の友宜を深めている。

今後の活動として、①本年五月に京大が主催して中関連第二回総会を開き、「中国革命とインテリ」をテーマに中国革命史におけるインテリの役割と彼等の自己変革の過程を追求する、②中国文学や東洋史の先輩や教授との協力を密にする。③昨年の中国映画、アヘン戦争、五人の娘、青春の歌、「ニエアル」の上映にひきつづいて、四月末の「風暴」上映活動、その他日中友好協会と協力して日中文化交流と友好運動を進める、④会員の創意と積極性を生かして、中国革命史、中国文学、中国の教育等の研究、中国語学習会、中国の歌をうたう会、機関誌活動等多様な活動をしていくつもり。

歴史的にも深い関係にあり、現在飛躍的に發展する中國を理解せずして、日本の、世界の将来も語れないし、又必ず近い将来に日中國交回復も實現するであろう。この時点に立つて中國研究の意義は大きいし、又研究するだけの巨大な問題がある。そしてこのサークル活動を通して、生き／＼とした學園生活を送ろうではないか。多くの人が中研に参加されることを期待すると共に、中國語を學習されることをおすすすめする。

連絡先 橋本寛祐 茨木市沢良宜浜四一七の二

ボックス 吉田グランド西側三号室

|| 京都大学ローマ字会 ||

日本には、もともと字がありませんでしたので、中國の文化の影響がよくなると、その文字である漢字が輸入されました。漢字によって、日本人の思想の内容が、しっかりしたものになったことはたしかなことで、その功績は、けっして小さなものではありません。

しかし、もうそろそろ、漢字は骨董品としてあつかっていいころではないでしょうか。

一部の知識階級だけが文字を知っていた時代は、とっくにおわってしまいました。一億人もの国民のうち、学校にはいる前の子どものほかは、みんな文字を知ってお

り、漢字をつかいます。しかし、漢字をおぼえるという単純なしことに、日本の子どもたちはどれほどむだな学力を消費していることでしょう。

ほくらはもうおぼえちゃったんだから、そんなことどうでもいい、などと言わないでください。日本語の問題は、これからの日本人全体の關係する問題なのです。

日本では、かなという音標文字が、はやくからできましたが、漢字だけしかない中國では、一九五八年の秋に、將來中國語をローマ字化する方針を示しました。中國が漢字にどれだけけるしんでいるか、ということは、

このことからあきらめかです。日本語も、漢字をつかわなければ、書きあらわせない、などということはないはずです。かなだけでも、十分わかりやすく文章がかけます。また、ずっとさきになれば、日本人だけが知っているかなよりも、ローマ字で、かきあらわす方が、よいかもしれません。じっさい、ローマ字は、音標文字としてすぐれています。たとえば、テープレコーダーを逆にまわして再生すると、ふきこんだことばをローマ字でかいた文章の文字を逆にならべて発音したときと同じ音がきこえてきます。

わたしたちは、必らずしも、ローマ字論者ばかりではありません。日本語について考えていこうというあつま

りです。このことに賛成の人は、どうぞ来てください。

(連絡先・京大文学部)

国語・国文学教室遠藤研究室・京大ローマ字会)

〓 京大ユネスコ学生クラブ 〓

シンドイ受験生活からサッパリと脱皮してはいよいよ大学生活の第一歩、有意義に送ろうと考えていられることと思う。大学のカリキュラムは上から決めて私達に選択させる仕方を取っている。だから与えられた講義には応々にして退屈なのが多い。私達の知りたいと考えることが指導してもらえぬのである。ここに私達のクラブの存在理由の一つがある。

ではもう少しハッキリ私達ユネスコクラブが何の目的で何を行っているか紹介しよう。ユネスコは第二次大戦後再び狂暴なファシズムを生んではならない。その為「国際連合の中で教育文化・科学を通じて世界に平和を」と一九四五年いわゆるユネスコ憲章を草案したことに始まる。私達クラブの目的は「ユネスコ憲章、国際連合憲章及び人権に関する世界宣言の理念に賛同し、それに基いて、学生の立場から教育・科学・文化およびその他の分野を通して世界の恒久平和、人類の福祉の増進および国際民主主義とに貢献すること、ならびに学生々活を有意

義に送るため人格の向上をはかり、合わせて連盟員相互間の親睦をはかることを目的とする」(京ユ学連規約第二条)とあり、現在、同一目的で日本ユネスコ学生連盟の下に統一され京大はその下の京都ユネスコ学生連盟(京大大学連)に属し、活動基本方針も統一されている。

しかし抽象的な段階では一致していてもユネスコの理念等の解釈にもとずく具体的活動になると考え方が異なり固く団結していないが、学習活動、インターゼミを通し克服され、将来の展望を開くことが期待されている。昨年は安保という軍時同盟条約がいかに今後のE・S・Cを拘束してくるかを知ると共に当時の政府の暴政に対して、立ち上った多くの人々の心の中に平和の砦の築かれていたことを確認した。当時私達はファシズムをテーマとして研究していたがタイムリーであったと思う。これから発展して現在さらに多くの人々の心の中に平和の砦をと農村問題に取りこんでいる。その他留學生の精神面での援助運動も考えている。

研究の充実と生活を有意義に過すため、京大大学連には音楽、文学等のサークルが作られ色々な問題を論じ、人間形成に役だっている。紙面の制限でこれ以上書けぬがとにかく活動範囲の広いクラブという印象を受けられたことと思う。今年はこのまでの欠点が除かれ一回生から

四回生まで一緒に活動出来、さらに活発になるものと予想されるし、それに京都で近畿ゼミが開かれることが決っている。皆様の活躍をまっている。「共に語り、やろうじゃないか。」

△ボックス19号▽

〓 京都大学観世会 〓

〓観世会〓 私達の会は観世流をはじめとする能楽全般を対象とした一種のサークルです。京大観世会の歴史は相当古いのですが、記録は何も残っていません。現在の会の創設は終戦後間もなくの頃です。その後、大きく変化発展し、十一月祭の学生能を中心とする諸行事を持つ大きなサークルとなって来ました。

さて、サークルという名称を用いましたがこの規定も実はごく最近のことなのです。封建的色彩がなお濃いこの能楽界の一集団として、ともすればそれに染まり易いのですが、ようやく、円環的な人間関係が重視されて来、人間的な連りの上に、日本古来の、最高芸術ともいふべき能楽を鑑賞し、理解すべく活動する様になって来たのです。

〓活動内容〓 現在約四十人の会員が上・中・初の三級に分れ、毎週火曜日の夜、観世流の片山・武田両師を迎

え、謡曲、仕舞を習っております。土曜日には、會員のみによる練習や討論を行います。日頃の活動の発表の機会として、十一月祭参加の学生能で自演能を演ずる他、三回の定期的発表会を行います。その他、団体鑑賞能及び夏春の休みには合宿を行います。夏の合宿は琵琶湖北岸で、謡い舞い泳ぐ、そして最後の夜には湖涼の宴をやしむ。春は花の嵐山で謡い、名所を訪ね、花見の宴で合宿を終るのです。

〓観世会の課題〓 箇条書してみます。

- 一、最近サークルへの脱皮が行なわれて来たが、それに伴い実力の減退が問題とされて来たこと。
- 二、研究という面において、なお努力の余地が多いという点。
- 三、従って、研究と練習とサークルの人間関係の問題を如何に統合するかということ。

これらの課題は今年の活動方針を決定します。

以上、会のあらましを述べましたが、サークルは流動的です。諸氏の入会を歓迎します。

京大観世会 総務

〓 書 道 部 〓

「書」は現在では、実用性の点に於て以前ほど重要で

なくなりましたが、「芸術性」は日本画と共に他の世界の芸術に比べ、独特なものとして、外国の芸術家も関心を持つようになって来ました。私たちは単に伝統としての「美」だけでなく、広い立場から「書」をみつめるように、又単に練習のための「書」であるより、創造を加味した「書」を念頭において活動しています。もちろん「理論」が「実際」を遠く離れては意味がありません。毎週火曜と土曜には皆が集まって筆を持って練習します。こゝ一、二年火曜と土曜だけでなく毎日昼休みにはボックスに集まって雑談その他を楽しんでいます。スポーツのクラブと異り部員数はさほど多くありませんが、それだけに部員の気持がよく合って小さいながらも楽しい我が家です。練習の成果の発表という意味で数回の展覧会があります。春には部の講師として、常に私たちに助言し、新風を入れて下さいます徳永先生の主催される展覧会秋には、我々たちの加入している京都学生書道連盟の展覧会、最大の行事としてしかも近年次第に大規模となつてきている文化祭行事としての部の展覧会、新年会の展覧会といったもので一年間かなり忙がしいものです。ハイキング、スポーツ大会などは京都書道連盟の行事として各大学の親睦を図っています。又昨年は部だけで桂離宮、修学院等京都の建築物、庭園を訪れました。

私たちとしては部の活動が決して寺小屋式のものとならないよう、部員各自の考え、特性を十分生かしたものでありたいと思っています。学生部員の他に京大に務めておられる人も数人おられ部員数は三十名余。「書」だからと言って決してむずかしい顔をせず、入部されることを歓迎します。字の上手、下手はどんな基準で決まるのでしょうか。私たちはそんなことには無頓着に、「伝統芸術としての」、というより独自の芸術としての「書」に親しみ又これを広めたいと思っています。ボックスは百万遍硬式テニスコート横にあります。入部希望の方は左記の住所にお知らせ下さるか直接ボックスへお越し下さい。

左京区下鴨北園町九三の三田口方 太田 義人

写真部紹介

先ず我が部の講成員は四回生八人、三回生五人、二回生八人であり、他の部と比較すると小家族の傾向である。が、工・理・医・法・経・文・農と色々な人が集まっている。これらの事は、部として大変興味深いゆえんである。人数が少いため全部員がすぐに友達になること、これは他の五十名、百名を部員とする部とは大きな相違点である。又色々な学部が集まるから、雑談にはす

ぐ花が咲くのもこの部ならではのであらう。活動としては昨年度までは、六月に関西学生写真展の出品、同六大学展の組写真作成、七月に入ると、東大との連合展、それから秋の十一祭、全日本学生写真コンテスト、関西学連コンテストと並び、十二月に入ると全京大写真展が行なわれる。今年に創立二十五周年を迎えるので大々的に大阪で行う予定である。又、東北大学・東大・京大の三大学展も行っている。これらの展覧会の作品製作に当って、特に組写真等の製作は部員の一致協力の下に活動は行なわれて来た。従ってこの部は一見各人の関係はあまりないように見えるが実は、仲々まとまった、真にクラブらしいクラブなのである。また我が部を他校と技術的に比べてみると、よくあの暗室でこれだけの作品が生れるものだと驚ろかせる程上位に位置する。現に関西では、関学、同志社と並んでいることは明確な事実である。

紹介はこのくらいにして次に勧誘に入るがカメラを持って入る人は入部をおすすめする。この部の四年間の生活できっと、今までの単なる記念のみの写真から、更に進んで、例え記念のための写真でも、よりセンスのある芸術的な写真を撮ることが出来るようになるだろう。又暗室技術の習得によって、一層写真に興味を抱く結果に

なるだろう。皆さんの中には金がかかると思っている人がいるかも知れない。確かに展覧会ともなればある程度の出費はあるが、そう大したものではない。フィルムも部員は百十円で（三十六枚どり）買うことが出来るのである。以上でだいたい写真部の紹介は終るが詳しい事は西部構内のBOXまで来てたずねていただきたい。

美 術 部

レアリズム・シュールレアリズム・アブストラクトと、種々の絵を書く我々は、皆これでも芸術家のつもりです。芸術至上主義というロマンティックな考えでは無いにしても、芸術は真なり、ぐらいには思っています。

さて、三五年度の我々の活動は、四月の写生会、六月のマロニエ画廊での展覧会、八月の写生旅行、九月の美術館に於ける京美連展への出品と除々に意欲を高め、十一月祭で最高となりました。そして月に一度合評会を持つと決めた我々は、新制作の桑田道夫氏を講師に先生の皮肉たっぷりな批評を聞きながら、次の製作への情熱を燃やしたものでした。理屈を言わないでまず描くこと、製作すること。だが、京大生であるが故に社会が、家族が、又自分自身が学業に大きな期待をかけて、絵を単なる趣味程度に終らせてしまう。又そうせざるを得な

いところに我が部の悩みがあり、悲しきがあります。そういうところが我々のタブローにも消極的な態度、意欲の無さとして現われるのでしょうか。とはいえ、これは理想であって、理想を言えば何処にでも不満はあるものですから、もうよしませう。

とに角、我々の方向は明るい。発展の気配が十分に感じられます。我々はまず／＼楽しくなり、喜びに溢れるでしょう。描くことは厳しく辛い時もあるでしょうけど、その完成した時の充足感はやってみなければ解らぬものです。兎に角、一度BOX十五号を覗いてみませんか。何時でも結構ですが、水曜日の昼休みなら必ず人に会えます。BOXの扉を開けるとすぐに、混沌とした、しかし力強いものが、貴方を獲えるでしょう

(H・I)

連絡先——西部構内BOX十五号

責任者——玉腰 芳夫

——新人グループ——

この一年をふり返ってみると、安保条約をめぐるの我々個人の生き方が印象的である。安保斗争が成功だったか失敗だったかについては意見の対立もあるが、安保斗争によって、我々一般学生が大なり小なり自覚し、学

生としての新しい道を求めたことも事実である。二学期になると学園も静かになり、その中から、安保によって目覚めた人々が、民主主義を共通の基盤として集い、次第にサークルとして発展していった。それが新人グループである。

もとより、新人グループは、はっきりした思想体系を持つていないわけではない。学生運動の活動家もいれば、そうでない者もいる。大学にはいった時から、はっきりした思想を持つていのはごく稀な例であって、学生ほど思想の変わりやすいものはないとも言われているのである。だからこそ、我々は、国粋主義思想などは別として、現在の思想などにはあまりとらわれず、自分の頭で自由に討論し経験も積み、人格を築きあげていくのがむしろ正しいのではないかと考える。

新人グループができてからまだ日も浅いのでたいした事もしていないが、二月末に、合宿と、毛沢東の「新民主主義論」及び「矛盾論・実践論」(いずれも国民文庫)の学習会を開く予定である。

新人グループが新入生の皆さんに誇れるものがあるとすれば、それは、自由さと清新さである。新人グループは、暖かい雰囲気を作ろうとしている。なお、グループの行事として、合宿や学習会のほか、雑誌の編集も

計画されている。

グループの会合があるときは、いつでも、遠慮なく来て下さい。

連絡先 左京区吉田上大路町二三波田方

大西 靖生

社会主義学生同盟

夜は、まだあけていなかった。水分をふくんだつめた空気、京浜国道を吹きまくり、風につれて氷雨が、はらはらとわれわれのスクラムのうえにふりそそいでくる。あたりが白みはじめる。国道の両側に黒々と並ぶのは機動隊のトラックだ。指揮官が何か叫んで命令している。風が吹きつける。水雨が夜明けとともに激しくなる。刺すような冷たさの雨をついて、スクラムはゆれ出した。かけ声。そして前進。かたく行方をばむ機動隊の黒い人垣の方へ。黒々とたれ下る雨雲をつきあげんばかりにして。そう、丁度そのすこし前、このアスファルトの連続のうえ、羽田空港では我々の学友の一隊がひとりひとり、警官隊に引き抜かれ、蹴り出され、そのすこしあと、首相岸信介は氷雨にぬるむ悪道路の裏道ひたすらに車をとばし、そこに到着しあたふたと雨雲重い東の空に消えていった。雨はそのとき、ますます激しくな

り、温度はどんどん下っていた。岸が通るべくして通り得なかった京浜国道、その一隅におしこめられた我々の眼は、ふとある家のガラス越しにみえるテレビ、そのブラウン管にうつる調印団一行の飛行機の黒い影のうえに、憎しみの焦点を集中させていた。

一九六〇年一月十六日、岸首相一行は新安保調印のため、羽田から空路アメリカに向った。彼らが逃げるようにしてあとにした日本には、こうこうたる非難うずが、あいまいな暗い影の中でうずまき、その響音の中から、ひとつの高い不調和音が流れ出、それが時には大きく小さく、やがで響き全体を貫く音となって、歴史の一ページを切り開いたのだ。

安保斗争、ことにこの一・一六羽田斗争の中で学生運動は大きく成長し、その中で真にたたかう部分が明確になった。学生運動の歴史は、それだけでひとつのテーマとなり、ここで詳しくのべる余裕がないが、要するに今までの代々木 共産党 民青の指導する学生運動とは別個の、新しい学生運動が、一・一六を契機に現象化したのである。私たちの社会主義学生同盟は、社会学同、こころした運動の潮流のなかで中心的な役割を果たしてきたし、これからも果していくであらう。全学連主流派といわれる。こうした潮流に対し、反主流（全自連）やそれ

につながらる既成左翼からは、トロッキスト・分裂主義者・反共・非民主的などとあらゆる悪言難言があびせかけられるのにもものともせず、五九年十一月二十七日の国会デモ、六〇年一月十六日の羽田デモ、六月十五日の流血の国会デモの中で常に先頭に立って斗ってきたのである。

ふりかえって考えるならば、学生運動というものは、決して新聞や、週刊誌や、風説に伝えられているような一面的なものではないということだけはたしかに断言できる。参加するものの主体の变革と社会の变革の連関のなから、人生と社会の展望をどのようにつかみ出してゆくか、そのことに真剣となつた先輩たちが、学生運動の中に、京大においてはわれわれの組織に結集し、学習会その他を通じてまさに現代のわれわれにとつて真理となるべきものを追求している。そして資本主義生産下における人間の疎外の問題は、単にそれだけの追究ではなく、如何にそれを克服するかの問題として考えるとき、そこには実践の問題が不可避的になってくる。たゞの学習サークルとして社会学があるのではなく、明確に実践する主体としての社会学が、ゆるがせない意味をもってくるのだ。

京大に入学し、新たに学生運動の戦列に加わる諸君を

我々は心からまっている。我々の目ざすのはマルクスも云うように、なんら教条でもなく、ドグマでもない。過去の硬化した左翼思想から脱却し、不毛の重い雲をつきあげて新しい世界へのぼろろとする勇氣をもつ諸君、まさに我々は君たちを待っていたのだ。

☆学習プラン

- ・ 毎週月曜日 六・三〇―九・三七
- ・ 四月十日 第一回例会
- ・ 場所 楽友会館（近衛通り東入ル）
- ・ テキスト

① レーニン「カール・マルクス」 (青木文庫版資本論第一分団にある)

② マルクス「共産党宣言」

③ エンゲルス「空想より科学へ」

④ マルクス「賃労働と資本」

⑤ 黒田寛一「社会観の探求」 (現代思想社)

⑥ レーニン「なにをなすべきか」

⑦ ルカーケ「階級意識論」 (未来社)

⑧ レーニン「第二インターの崩壊」

⑨ レーニン「社会主義と戦争」

⑩ レーニン「国家と革命」

⑪ レーニン「プロレタリア革命と背教者カウッキ

1

① マルクス「ゴータ綱領批判」

スターリン「ソ同盟における社会主義の経済的

諸問題」

② 毛沢東「実践論・矛盾論」

毛沢東、劉少奇「整風文献」

③ 「八一カ国宣言」「ローマ宣言」「日共七大会

決議」

④ 棚橋泰助「戦後労働運動史」(大月書店)

△連絡先▽

左京区浄土寺真如町 小林方

浅田 隆治 TEL⑦三五一一

山岳部

世に山岳部は数多くありますが、わが京大山岳部ほどスケールの大きい山岳部は少ないと思います。人間には夫々個人の性格があり、思想がありますが、一つの共同体の中でそれらを如何に表現するかという問題は非常に難しいものです。

登山と一口に云っても、その在り方、意義づけ等の考え方は個人によってまちまちです。そうした多種多様な個性がどれ一つとして、軽視されることなく、終日議論

ばかりしているのが、我々の山岳部の特長で、山が好きでならないという人であれば、誰でも気楽に腰を落着けることが出来ます。

「山の精神はその山嶺にあり、神はそこに降り、人はそこに登る」といわれますが、山の精神は分らぬまでも、スケールの大きな人間が出来てくることは確かだと思えます。

何事によらず、極度に細分化され、或は組織化された、せちがらいこの社会で、スケールの大きな人間というものは、なんといっても貴重な存在です。

我々の夢は勿論ヒマラヤですが、山を通じての赤裸々な人間関係は大学生活を四年間で終えるのには未練を残すほど素晴らしく、それが証拠に京大山岳部には卒業を見合わせる人がたくさんいます。

スキー競技部

部長 吉井良三 教養部助教

主将 塩出真一 工 四

マネジャー

連絡先 京大西部構内東棟十六号室

白銀に輝く雄大な山々、雪煙をあげて滑降するスピード、処女雪に残るシュプールの美しさ、白樺林にふと立

ちどまるひとときの静寂、すべて何事にもかえ難いスキ
ーの魅力である。が我々はこれだけを求めるのではな
い。我々はこの雄大な自然の中で、精神を、技術を磨き
あげて競技をするのである。目標はあくまで競技であ
る。そしてスキーを愛する、自然を愛する人々の共通の
場で、人の和を、友情を求めらるのである。競技大会で最
も多くの者が参加するのも、多くの先輩が僅かな余暇に
はる／＼志賀高原ヒュッテの合宿に参加されるのも、全
て我が部の団結の堅さをよく物語っていると見えよう。
春、陸上のトレーニングから活動を始め、夏には雪を求
めて穂高を背に瀧沢で合宿、ヒュッテ管理で高原の静涼
を楽しみ、秋は二回のトレーニング合宿を経て十分体
力を養い、冬の訪れを待つのである。十二月下旬志賀に
入り、クリスマス、お正月を銀世界で迎え、雪やけの顔
もたくましく、全月本学生、関西学生選手権、その他の
競技会に臨み、錬磨の成果を問うのである。春再びめく
りて三月には、試験の終わるのを指折り数え志賀へ発
つ。朝早く起こされ寒風の中で体操すると合宿のつらさ
が身にしみる。しかし、一日中雪の斜面を這い、練習を
終えて赤々と燃えるストーブを囲む夕べの語らい、歌声
、楽しさ、苦しきのうちに明け暮れするヒュッテ生活、
この生活こそ我々部員の真の生活なのである。やがて溶

けゆく雪になごりを惜しみつつ、数々の想い出を胸にヒ
ュッテを去るとき、我々は来るべき次のシーズンへのス
タートをきるのである。

入部については経験を問わない方針である。我が部は
スキーを愛し、自然を愛し、己れの情熱を雪の競技に燃
やさんとする人々の集りである。

戦 績

関西学生選手権 一・三ノ五 二部優勝(一部昇格)

全日本学生選手権 一・二ノ三 三部六位

定期戦

対 阪 大 京大ノ阪大

対 東工大 京大ノ東工大

学 園 評 論

だが見よ、どの街にもどの角にも白ペンキの立札がニ
ヨキニヨキ立っているのを「命令ニヨリ立小便ヲ禁ズ」
と

これは内田穰吉氏が一九四九年、「学生評論」新編集
第一号に寄せられた詩「おれは立小便がしたい」の一節
です。この年、外には朝鮮動乱を前にした動き、内には
レッドパージの嵐の兆がみえはじめた不気味な年でした。
諸君の先輩作家野間宏は昭和十二年頃、中日戦争勃発

前後の京大の様子を、「暗い絵」に伝説的なすぐれた指導者であり、若くすぐれた哲学者永島孝雄と彼をめぐる深見進介らによる学生運動の「暗い花ざかり」をえがいている。当時京大には、小野義彦氏（大阪市大教授）らによる「学生評論」があった。そしてそのうち多くの人は弾圧により獄死したり、戦死したりというように暗い花ざかりは散ってしまふ。

それから十年して戦後一九四九年さきにあげた詩をのせた「学生評論」が出された。その後すぐに牛岡哲郎氏による「学園評論」が出された。京大には「京大ケルン」、「学生評論」、「学園評論」と続く学生による真剣に取り組まれた雑誌の伝統がうけつがれて来た。

「学園評論」は五年間、四十六号を発行して休刊された。



京大では、年々新陳代謝があるが、五十いくつかのサークルがひしめいている。以下、サークルから原稿を公募したが、紹介の原稿の出していないサークルもある。以下、その名前だけを列挙する。とくに、運動部の内容については、「濃青」を参照して下さい。

▲文化系サークル▼

紫明混声合唱団。コールポコチ。音楽部。宝生会。都山流尺八研究会。キリスト教青年会。キリスト者学生

会。カトリック研究会。聖書研究会。学生親学会。ダンス部。民族舞踊研究会。弁論部。ブリッチクラブ。鉄道研究会。記録映画研究会。唯物論研究会。フランス語会。話クラブ。囲碁部。将棋部。探検部。ワンダーフォーゲル部。自然弁証法研究会。南米研究会。虫と植物の会。フスマはりぐるう水曜会

▲体育系サークル▼

○陸上競技部

○ラクビー部 ○アメリカンフットボール ○ハンドボール ○蹴球部 ○ホッケー部 ○柔道部 ○弓道部 ○相撲部 ○空手道部 ○水泳部 ○端艇部 ○ヨット部 ○スキー競技部 ○アイススケート部 ○硬式野球部 ○準硬式野球部 ○硬式庭球部 ○軟式庭球部 ○卓球部 ○バトミントン部 ○バスケットボール部 ○バレーボール部 ○馬術部 ○山岳部 ○グライダ部 ○自動車部 ○応援団 ○スポーツ振興会 ○フェンシング部 ○ゴルフ部 ○ボクシング部 ○学士山岳会 ○ライフル射撃部 ○ローバークル

とくに運動サークルについては、ほとんど原稿が集まらず、ここで詳しく述べられないのは残念であるが、はじめにいったように詳しい内容については、「濃青」を参照して下さい。

京都大学同学会規約

第一章 総 則

第一条 (名称) 本会は京都大学同学会と称する。

第二条 (目的) 本会は、会員の自治により、学問の自由、学園の自由、民主主義をまもりつつ、会員の文化体育活動の育成と社会的経済的諸条件の改善などを通じて、学生生活全般の発展向上をはかり、あわせて恒久平和と人類の福利に寄与することを目的とする。

第三条 (会員) 会員は京都大学全学生とする。

第四条 (会員の権利) 本会の会員は左の権利を有する。

1 本会のあらゆる機関に対して自由に意見を述べ
る権利

2 所定の役員を選挙し、又は所定の役員に選挙さ
れる権利

3 本会の行う全ての事業に参加し、その利益を公
平に享受する権利

4 その他本規約及び各細則に規定された権利
第五条 (会員の義務) 本会の会員は左の義務を負う。

1 本規約及び各細則を遵守する義務

2 本会が本規約及び各細則により正当に運営され
ることを監視する義務

3 本会の各機関(書記局をのぞく)の決定を遵守
し、その遂行に努力する義務

4 本会の会費を納入する義務

5 その他本規約及び各細則に規定された義務
第六条 (事業) 本会は第二条の目的を達成するために
種々の事業を行う。

第七条 (常設機関) 本会には左の常設機関を置く。

一、1代議員会 2 執行委員会 3 中央執行委員会
4 会計監査委員会

二、執行委員会のもとに書記局を置く

第八条 (常任役員) 本会に左の常任役員を置く。

1 代議員会議長、同副議長、代議員

2 執行委員

3 中央執行委員長、同副委員長、同委員、書記長

4 会計監査員

第二章 全学学生大会及び全学学生

投票

第九条 (最高意志の決定) 全学学生大会及び全学学生投票は全学学生の最高意思を決定する。

第十条 (全学学生大会) 一、全学学生大会は全会員の四分の一以上の出席を得て成立する。

二、全学学生大会の意思は出席会員の過半数の賛成を以って決定する。

第十一条 (全学学生大会の開催) 全学学生大会は左の場合に中央執行委員長が召集する。

1 代議員会の決定と過半数の学部、分校自治会の意志とが相違したとき。

2 全会員の十分の一以上の連名による要求があったとき。

3 その他代議員会が必要と認めるとき。

第十二条 (全志学生投票) 一、全志学生投票は全委員の二分の一以上の有効投票を得て成立する。

二、全志学生投票の意思は有効票の過半数を以て決定する。

第十三条 (全志学生投票の実施) 全志学生投票は左の場合に中央執行委員長が実施する。

1 第十一条にもとづく全志学生大会が成立しなかつたとき。

2 第十一条にもとづく全志学生大会の開催が困難であると代議員会が判断したとき。

但し第十一条第2号の場合はこの限りではない。

第十四条 (公聴会) 全志学生投票を行うときは前もって公聴会を開かねばならない。

第十五条 (全志学生大会および全志投票の決議事項) 全志学生大会及び全志学生投票は左の事項につき決する

1 第十一条及び第十三条各号の場合に提出された事項

2 代議員会の信任又は不信任

3 代議員会の決議を否認し又は無効にすること

4 本規約の改正

第十六条 (細則) 全志学生大会及び全志学生投票に関する細則は別に定める。

第三章 代議員会及び代議員

第一節 代議員会

第十七条 (職務) 代議員会は本会常設の最高決議機関で

ある。

第十七条 (職務) 代議員会は本会常設の最高決議機関である。

第十八条 (構成) 代議員会は第三十三条にもとづいて選出された全委員を代表する代議員により構成される。

第十九条 (招集) 一、代議員会は毎期二回以上議長が招集する。

二、左の場合には議長は臨時に代議員を招集しななければならない。

1 中央執行委員会の要求があつたとき。

2 執行委員会の要求があつたとき。

3 総代議員の四分の一以上の連名による要求があつたとき。

4 全委員の三十分の一以上の連名による要求があつたとき。

5 その他議長が必要と認めるとき。

三、前項1、2、3、4号の場合には要求があつた日から七日以内に招集しなければならない。

第二十条 (議長) 一、代議員会議長は代議員会において代議員の互選により選出される。その任期は代議員の任期に準ずる。

二、議長は代議員会を代表し中央執行委員会及び執行委員会との緊密な連絡のもとに代議員会を運営する

第二十一条 (副議長) 一、代議員会副議長は代議員会において代議員の互選により一名選出される。その任期は代議員の任期に準ずる。

二、副議長は議長を補佐し議長に事故ある時は議長の

職務を代行する。

第二十二條 (議長、副議長の更迭) 代議員会は議長又は副議長が疾病その他の理由により、その任に適しないと認めるときはこれを更迭することができる。

第二十三條 (招集権の代行) 仮議長、議長及び副議長共に事故があるときは中央執行委員長が代つて代議員会を招集して、仮議長を互選させた上議長の職務を代行させる。

第二十四條 (告示) 議長は、代議員会招集の少なくとも三日前に議題その他必要な事項を学内各所に掲示するとともに各代議員に通知しなければならない。但し、緊急やむを得ない場合はこの限りではない。

第二十五條 (定足数、表決) 一、代議員会は総代議員の過半数の出席がなければ議事を開き議決することができない。
二、代議員会の議事は出席代議員の過半数で決し、可

否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十六條 (会議の公開) 代議員会の議事はこれを公開する。

第二十七條 (議決事項) 左の各号は代議員会の議決を経ることを要する。

- 1 本会運営に関する基本方針
- 2 予算及び決算
- 3 細則の制定は改廃
- 4 第十九条第二項の各号の場合に提出された事項
- 5 執行委員会又は中央執行委員会の不信任
- 6 その他、中央執行委員会又は執行委員会が、代

議員会の議決を必要と認めた事項

第二十八條 (解散) 代議員会は左の場合には解散しなければならない。

- 1 任期が満了したとき。
- 2 代議員会が自ら解散を決議したとき。
但し、この決議には総代議員の三分の二以上の賛成がなければならない。
- 3 全学学生大会又は全学学生投票によって不信任されたとき。

第二十九條 (解散後の代議員会) 代議員会は解散後新代議員会が成立するまで引きつづきその職務を行う。

第三十條 (選挙代議員会) が解散したときは解散の日から原則として三十日以内に代議員の選挙を行い、確定後十日以内に新代議員会が招集されなければならない。

第三十一條 (代議員会細則) 代議員会の運営についての細則は別に定める。

第三十二條 (特別委員会) 代議員会は必要と認められた時、特別委員会を設置することができる。特別委員会についての細則は別に定める。

第二節 代議員

第三十三條 (選出基準・任期) 一、代議員は左の基準で選出される。

- 1 全学から会員三百名につき一名の割合で、
- 2 各分校および各学部自治会自治委員会から会員百名につき一名の割合で。但し会員が二百名までの自治会は一律に二名とする。

但し、端数については細則に定める。

二、代議員の任期は六カ月とし毎年六月及び十二月に改選する。但し第二十八条2、3号による代議員会の解散後に選出された代議員、及び補欠選挙により選出された代議員の任期は前任代議員の残りの期間とする。

第三十四条（罷免）一、全学区選出の代議員が全会員の六分の一以上から解任を要求された場合全会員の信任投票に問い、全会員の三分の一以上の賛成があれば罷免される。

2 学部、分校自治委員会選出の代議員は次の場合罷免される。

a 当該自治会会員の六分の一以上から解任を要求された場合は当該自治会会員の信任投票に問い、当該自治会会員の三分の一以上の賛成があった場合

b 当該自治会自治委員の過半数の解任要求があった場合

二、中央執行委員長、副中央執行委員長、中央執行委員について、前項に基き解任を行う場合は代議員会の同意を得なければならぬ。但し、右の代議員会は解任を要求された当該代議員を含まない。

第三十五条（補欠選挙）代議員会に左の欠員を生じた場合は二十日以内に補欠選挙を行う。但し、休暇前後はこの限りではない。

一、代議員会の三分の一以上

二、各選挙区の定員の二分の一以上

第三十六条（選挙細則）代議員の選挙に関する細則は別に定める。

第四章 執行委員会、中央執行委員会及び書記局

第二節 執行委員会及び執行委員

第三十七条（任務）執行委員会は代議員会で議決された基本方針にもとづいて本会の会務を執行する。

第三十八条（専門部）一、執行委員会は、会務運営のために左の専門部をもうける。

1 調査報道部 2 会計部 3 文化部
4 運動部 5 厚生部 6 組織部

二、各専門部の運営は各執行委員が分担してこれにあたる。

第三十九条（執行委員の選出・職務）一、執行委員の定員は二十名とし、代議員会において代議員の中から互選により一括選出される。各専門部の定員は執行委員会が定め各執行委員は互選により分担してこの職務を行う。

二、各専門部は、執行委員会で議決した基本方針にもとづいて合議により当該専門部の部務を司どる。

第四十条（招集）執行委員会は左の場合に中央執行委員長が招集する。

1 中央執行委員長が必要と認めたととき。

2 中央執行委員会が必要と認めたととき。

3 執行委員の四分の一以上の連名による要求があったとき。

4 二つ以上の専門部の要求があったとき。

第四十一条 (定足数・表決) 執行委員会はその総委員の三分の二以上の出席を得て開かれ、出席委員の過半数の賛成を以て議事を決する。

第二節 中委執行委員会及び中央執行委員

第四十二条 (職務) 中委執行委員会は執行委員会を統轄し、会務執行の円滑化を図る。

第四十三条 (構成) 中央執行委員会は中央執行委員長一名、副中央執行委員長一名、書記長一名、中央執行委員四名、計七名で構成する。

第四十四条 (中央執行委員の選出・職務) 一、中央執行委員は各専門部に所属する執行委員の中から各一名互選により選出される。但し、調査報道部、組織部においてはこの限りでない。

二、中央執行委員は所属専門部を統轄し、中央執行委員長、副中央執行委員長、書記長と共に中央執行委員会を構成して中央執行委員会が第四十二条に定められた職務を遂行できるよう努力する。

第四十五条 (招集) 中央執行委員会は中央執行委員長が必要に応じて招集する。

第四十六条 (定足数・表決) 中央執行委員会は、その総委員の三分の二以上の出席を得て開かれ、出席委員の過半数の賛成を以て議事する。

第四十七条 (中央執行委員の代行) 中央執行委員に事故あるときは当該所属専門部執行委員が中央執行委員会の委任を得てその職務を代行することができる。

第四十八条 (更迭) 中央執行委員長は中央執行委員が疾

病その他の理由によりその任に適しない認められた時には所属専門部の承認を得てこれを更迭することができる。

第三節 中央執行委員長及び副中央執行委員長

第四十九条 (中央執行委員長の選出・職務) 一、中央執行委員長は代議員会において代議員の互選により選出される。その任期は代議員の任期に準ずる。

二、中央執行委員長は本会を代表する。

三、中央執行委員長は執行委員会、中央執行委員会を統轄する。

第五十条 (副中央執行委員長の選出・職務) 一、副中央執行委員長は、執行委員の互選により選出される。

二、副中央執行委員長は組織部中央執行委員をかねるとともに中央執行委員長を補佐し中央執行委員長に事故あるときはその職務を代行する。

第五十一条 (更迭) 代議員会は中央執行委員長、中央執行委員または執行委員が疾病その他の理由で不適任と認めた場合これを更迭することができる。

第四節 書記局

第五十二条 (職務) 書記局は執行委員及び中央執行委員会の指示にもとづき、調査報道活動その他会務執行上の事務を助ける。

第五十三条 (書記局員の任命・任期) 一、書記局員は執行委員会の指名にもとづき、代議員会が任命する。

二、書記局員の任期と定員は代議員会の定めるところによる。

第五十四条 (書記長の選出・職務) 書記長は執行委員の

互選により選出され、書記局を統轄すると共に、併せて調査報道部中央執行委員をかねる。

第五章 同学会と各自治会との関係

第五十五条 一、同学会は各学部、分校自治会の独自性を遵守しつつ、全学的な問題については全学的視野にたち、各自治会が一致協力してその解決にあたる。
二、代議員会の決議と各自治会の最高決議機関の決議と異なる場合、代議員会の決議はその自治会を拘束しない。

第六章 同学会と大学補導機関との関係

第五十六条 中央執行委員会は、常時、大学補導機関と、その双方もしくは一方が必要と認められた事項につき連絡協議する。

第七章 部（サークル）

第五十七条（部）本会が所属をまとめた学内団体はすべて本会の部として取り扱われる。部は原則として文化、運動、厚生部のいずれかに属さねばならない。そのいずれにも属することのできない部は組織部が直轄する。

第五十八条（部の自明）加入団体の組織運営は、各団体の自治に委せる。

第五十九条（部の認定）部を設立する時は、設立者はその目的、規約、役員、部員氏名を組織部に申し出て代

議員会の承認を得なければならぬ、その部の所属すべき専門部は中央執行委員会が決定する。

第六十条（経費）部のうちその経費の補助を本会に仰ぐものは予定経費要求書を前年度十一月十五日までに所属専門部に提出しなければならぬ。

第六十一条（部の連合）同一目的を有するいくつかの部はその目的達成のため連合体を作ることができる。

第八章 会計

第六十二条（経費）本会の経費は、会費、寄付金、補助金、その他をもってこれにあてる。

第六十三条（会費）会員は第五条で定めるところにより会費を納入しなければならない。その額は会計細則において定める。但し、特別の事情があるものには、会計部で詮議の上、代議員会の承認を得て会費の分割納入又は免除を認めることがある。

第六十四条（納入期日）会費四年分は、原則として入学と同時に納入されるものとする。医学部医学科学生、各学部編入学生、ならびに留年者の会費に關しては、会計細則において、別に定める。

第六十五条（会計年度）会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

第六十六条（予算）毎年度の本会経費に關しては、会計部が予算案を作成し、前年度一月の代議員会に提出しなければならない。

第六十七条（剰余金）剰余金は次年度の会計に繰り入れなければならない。

第六十八条 (経理事務) 本会会計の経理に関する一切の事務は会計部が行う。

第六十九条 (支出の裁決) 支出に関する決裁は、中央執行委員会が責任を負う。

第七十条 (監査) 一、本会の会計を監査するために監査委員会をおく。監査委員会の定数は七名とし、代議員会がこれを任命し、うち二名は代議員とする。但し中央執行委員、執行委員、書記局員は監査委員になることができない。

二、本会の諸機関はその経理について監査委員会の監査に應じなければならない。

第七十一条 (決算) 一、毎年度の決算は、会計部が決算書を作成し、監査委員会の監査を経て、次年度五月末日までに代議員会の承認をうけなければならない。

二、決算は前項の手續を経て公示されなければならない。

第七十二条 (会計細則) 本会会計に関する細則は別に定める。

第九章 改正

第七十三条 本会規約の改正は、第十五条4の定めるところにより全学学生大会または全学学生投票によって行う。

附 則

第七十四条 自治会が未だ結成されていない学部では、代議員は、自治会が発足するまでの暫定的な措置として、第三十三条第一項第2号に準じて、直接選挙によ

り選出されるものとする。

第七十五条 大学院学生が加盟を求めた場合には、代議員会において討議決定する。

第七十六条 昭和三十三年以前に入学した学生は、第六十四条の規定にかかわらず、各学年始めに一年分ずつ会費を納入するものとする。

第七十七条 本規約は昭和三十四年六月一日より施行する。

京都大学教養部学生自治会規約

第一章 総 則

第一条 本会は、京都大学教養部学生自治会と称する。

第二条 本会は、学生の自治と総意により、学問の自由、学園の自治と民主主義を守りつつ、学生の文化活動の育成と社会的経済的諸条件の改善を通じて学生生活全般の発展向上を図り、あわせて恒久平和と人類の幸福に寄与することを目的とする。

第三条 本会は、京都大学教養部全学生をもって会員とする。

第四条 本会は次の機関を置く。代議員大会、自治委員会、常任委員会。

第五条 各機関会議は各々その構成員の過半数の出席がなければ議事を開き議決を行うことはできない。

第六条 各会議の議事はその規約に特別の定めがある場

合を除いては出席議員の過半数で決し、可否同数のときは議長が決するところによる。

第七条 各会議において会員は出席し参考意見を述べることが出来る。

第八条 各会議の議員の任期はすべて半年とし、前任の議員は後任の議員が選出されるまでは、その任を代行する。改選期は原則として六月、十二月である。

第九条 一回生に限り四月から六月までは仮議員が任務を行う。

第十条 各クラスはそれぞれ二名の自治委員と、会員五名に一名の割合（端数切上げ）で代議員を選出しなければならぬ。但し自治委員は代議員を兼任しなればならぬ。

第十一条 クラスはそれが選出した自治委員、議員を不信任することができる。この場合七日以内に改選を行わなければならない。

第2章 代議員大会、全学投票に

よる審査

第十二条 代議員大会は本会の最高議決機関である。

第十三条 代議員大会は第十条によって選出された代議員をもって組織する。但し代議員の委任状をもった同じクラスの代理人をもって代行することができる。

第十四条 代議員大会の議長はその都度選出する。

第十五条 代議員大会は次の場合に自治会委員長が召集する。

一、定期一期一回

二、自治委員会が大会開催を決議した場合

三、全会員の十分の一以上の要求があった場合

第十六条 常任委員会は大会の日時会場並びに議題を、原則として大会開催の三日前までに公示し、かつ大会終了後その決定を直ちに公示しなければならない。

第十七条 次の場合は直ちに全学投票を行なって代議員大会の決議又は議題を審査する。

一、代議員大会が全学投票を決議した場合

二、代議員大会後翌日より三日以内に全会員の六分の

一以上の要求があった場合

この場合、代議員大会の決議は投票結果の判明するまで一時その効力を停止する。

第十八条 全学投票は代議員大会の決議に優先する。

第十九条 全学投票は常任委員会が管理する。

第二十条 投票は有効投票が全学会員数の過半数である場合に成立し、有効投票数の過半数により決する。

第3章 自治委員会

第二十一条 自治委員会には第十条によって選出された自治委員をもって組織する。自治委員会は本会の議決機関である。

第二十二条 自治委員会は議長及び常任委員を互選する。但しその数は自治委員会で決定する。

第二十三条 自治委員会は次の場合に自治委員長が召集する。

一、定期月一回

二、常任委員会が自治委員会開催を決した場合

三、自治委員の五分の一以上の要求があった場合
四、自治委員が必要と認めた場合

第二十四条 自治委員会は出席議員の三分の二以上の賛成で常任委員個人を改選することができる。

第二十五条 次の場合自治委員会は解散しなければならない。
一、自治委員会自ずから決議した場合

二、代議員大会が決議した場合

この場合改選を十日以内に行い、解散より十五日以内に新しい自治委員会を招集しなければならぬ、選挙管理は旧常任委員会が行う。

第二十六条 自治委員会の開催と経過決定の公示については第十六条を準用する。

第4章 常任委員会

第二十七条 常任委員会は本会の執行機関である。

第二十八条 常任委員会は第二十二条によって選出された常任委員に正副自治委員長を加えて構成する。

第二十九条 常任委員会の議長は自治委員長が行う。

第三十条 常任委員会は次の場合自治委員長が召集する。
一、定期十日に一回

二、常任委員の五分の二以上の要求があった場合
三、自治委員の五分の一以上の要求があった場合

四、自治委員長が必要と認めた場合
第三十一条 常任委員会はその下に次の専門部を設ける。

一、書記局（情報・宣伝・調査活動全般）

二、会計部（会計全般）
三、文化部（文化活動全般）

四、厚生部（学生の福利厚生生活全般）
五、その他

各専門部については、原則としてその長は常任委員会の互選により構成員は常任委員会が会員より指名し自治委員会の承認をもって決定する。

第三十二条 常任委員会の開催と経過決定に関する公示については第十六条を準用する。

第5章 正副自治委員長

第三十三条 正副自治委員長は本会の代表者であり、本会の諸決定執行の最高責任者である。代議員大会、自治委員会、常任委員会の議員である。

第三十四条 正副自治委員長は全学投票により全会員の中から選出する。（正副自治委員長選挙細則を参照）

第6章 会費

第三十五条 会員は、会費は納める義務を負う。会費は一年分百円とし、原則として入学時に二年分一括二百円納めなければならない。

第三十六条 会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第三十七条 本会の経費に関しては、常任委員会が予算案を作成し前年度一月の自治委員会に提出しその承認を受けなければならない。

決算は、常任委員会が決算書を作成し会計審査委員会の審査を経て次年度五月末日までに代議員大会の承認を受けなければならない。会計審査委員会の要求があった場合常任委員会は決算書を再作成しなければならない。会計審査委員に關しては、常任委員を兼ねない自治委員三名があたるものとし、自治委員会で互選する。

第三十八条 剰余金は次年度の会計に繰り入れなければならない。

補 則

第三十九条 本規則の改正は代議員大会で過半数の賛成をもって行う。

第四十条 本規約は全学生総数の賛成を経たときより効力を発する。

正副自治委員長選挙細則

第一条 正副自治委員長各一名は全学投票によって全会員の中から選出する。

第二条 正副自治委員長の選挙は単記無記名別個に行う。

第三条 この細則による選挙は常任委員会が管理する。

第四条 選挙の期日は原則としてその七日前までに告示しなければならない。

第五条 正副自治委員長に立候補するものは選挙の前日までに選挙管理人に届出なければならない。選挙管理人は立候補者を全会員に公示し、立候補者の所信をで

きるだけ全会員に発表しなければならない。

第六条 立候補者は立会人を一人選んで開票に立会わせることができる。

第七条 選挙は全会員の過半数の有効投票によって成立する。

第八条 立候補者が一名の場合には有効投票数の過半数の信任によって信任されるものとする。

第九条 自治委員長あるいは副委員長について全会員の六分の一以上の要求があった場合ただちに信任を全会員の投票によって問わなければならない。投票は有効投票数が全会員の過半数である場合に成立し、有効投票の過半数によって決定する。不信任とするものが有効投票の過半数に達した場合には再選挙を行う。

第十条 正副自治委員長両人がその任期中にその任に耐えられない場合には補欠選挙を行う。この場合、新任者の任期は前任者の残りの期間とする。

補 則

第十一条 本規則の改正は代議員大会で過半の賛成をもつて行う。

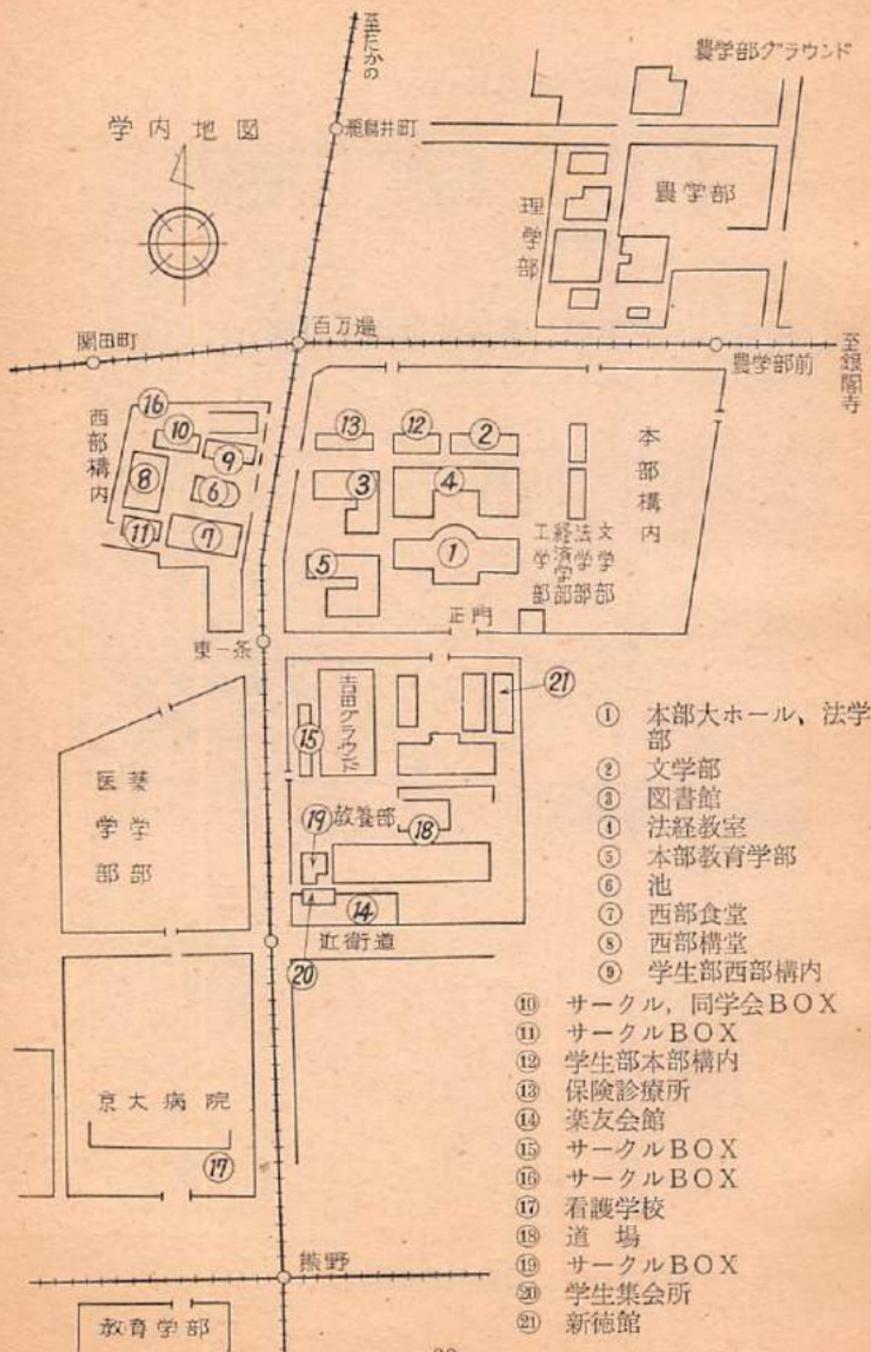
第十二条 本細則は全学生総数の過半数の賛成を経たときより効力を発する。

第四期同学会中央執行委員 及び執行委員

中央執行委員長	渥美文夫(經三)
副中央執行委員長	岡山茂(法三)
(兼組織部長)	
書記長(兼情宣部長)	新開純也(文三)
中央執行委員(文化部長)	保住敏彦(教三)
"(厚生部長)	岩橋秀高(農二)
"(運動部長)	桑山肇(法二)
"(會計部長)	浦野正彦(文三)
執行委員(情宣部)	坂根千代忠(法三)
"(")	谷村博文(工三)
"(")	山室成一(農二)
"(")	後藤延子(文三)
執行委員(組織部)	鈴木賢二(理四)
"(")	高瀬泰司(理二)
"(")	小林圭二(工三)
"(")	山田伸彦(医本四)

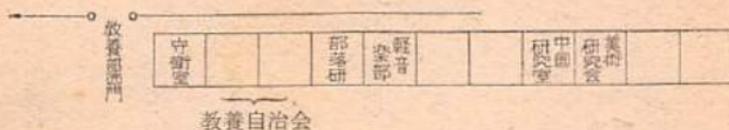
執行委員(文化部)	綿井孝子(文四)
"(")	新井清(医本一)
執行委員(厚生部)	下野英世(医本四)
執行委員(")	小川茂也(文二)
執行委員(運動部)	藤田敬一(文四)
執行委員(會計部)	井上三奈子(文三)
代議員會議長	清田祐一郎(法二)
代議員會副議長	阪上孝(經四)

学内地図

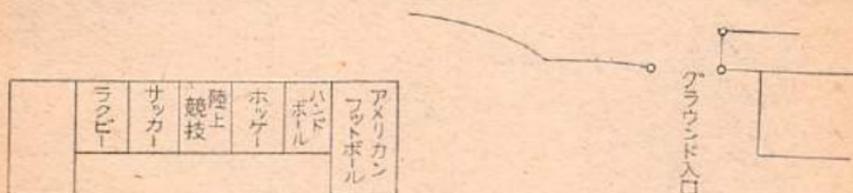


- ① 本部大ホール、法学部
- ② 文学部
- ③ 図書館
- ④ 法経教室
- ⑤ 本部教育学部
- ⑥ 池
- ⑦ 西部食堂
- ⑧ 西部構堂
- ⑨ 学生部西部構内
- ⑩ サークル、同学会BOX
- ⑪ サークルBOX
- ⑫ 学生部本部構内
- ⑬ 保険診療所
- ⑭ 楽友会館
- ⑮ サークルBOX
- ⑯ サークルBOX
- ⑰ 看護学校
- ⑱ 道場
- ⑲ サークルBOX
- ⑳ 学生集会所
- ㉑ 新徳館

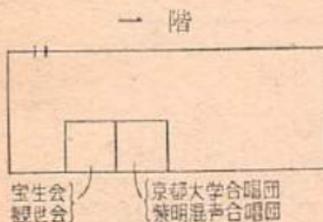
⑮ 吉田グラウンド西側BOX



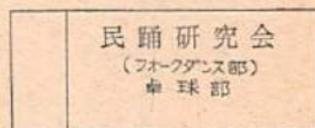
⑯ 剣道部、空手部、柔道部道場に付属している。



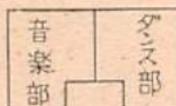
⑰



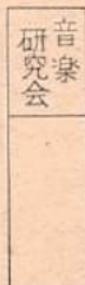
二階



⑱



⑲



○社研, その他のBOXは現在、交渉中で未定。

☒ サークル BOX 地図 ☒

⑩ 西部構内北棟

生協本部										W.C
	組織部 生協組	創造座	風波	親学会	入口	京大新聞	山岳部	映画部	同学会	

⑪ 西部構内南棟

応援団	スキー部	ワンター フォーゲル部	自動車部	入口	学園評論社 弁論部. E.S.P. など
ユネスコ 研究会		美術部	探険部	写真部	W.C

唯研・カトリック研究会
鉄道研究会. 自然弁証法研究会

⑫ 西部テニスコート裏

書道部	相撲部	軟式 野球部	軽音 楽部
-----	-----	-----------	----------

(空室)	囲碁部	将棋部	カッパ 部
------	-----	-----	----------



編集後記

新入生のみなさん。

大学における学生生活を一日でも早く理解していただこうと思って、同学会及び教養自治会からこのパンフレットを新入生全員のみなさんに贈ります。これを読まれていかがでしたか。皆さんが今まで経験されてきた高校の生徒会活動と、大学の自治会活動は、その形式、内容においてかなりの差があります。きっとはじめのうちはどうしてこんなことをするのか、とかなぜこんな問題に学生が、と思っておどろかれることがあると思います。かって私たちがこうした疑問の中で共に苦しみ、そして悩むということよりは考え、行動するということのなかで今までの時間の一刻一刻を克服して参りました。現在の社会体制と思想状況を考えてみる時、私たちがたとねばならなかった必然的な到達点として私

たちの現在を、私たちは自信をもって示すことが出来ると思います。そうした過程は、やがて諸君が入学されてから親しくひびきを交えて、理論的にも思想的にも詳しくお話ししたいと考えています。そして一方、これからの道は、われわれのすすむ道、われわれの具体化されたものとしての同学会のすすむ道はどうなるであろうかということを考えてみる時、そこで私たちは、春の陽の中をこちらの方に向かって進んでくる力にあふれた諸君たちの姿を心の中に描かずにはおかれなかつたのです。新たに同学会の列の中に加わるみなさんと共に、これからの未来を切り開いてゆかねばならぬ、私たちのその決意がこの一冊のパンフレットに結晶したのだと思われます。

なお、いくつかの点について書かねばならない点がありました。下宿のこと、食事のこと、娯楽のこと、生活費のこと、古本屋のこと、……しかし紙数が許さず、こうしたことには生協のパンフレットに譲ることにしました。餅は餅屋といえます。生

活協同組合のパンフレットを参照して下さい。きっと具体的な学生生活のイメージが入学式までに諸君に生れてくることと思います。

最低四年、人と学問によれば十年もの京都での学生生活、その原点に諸君は立っているのです。この座標はしかし、平面二次元ではありませぬ。そうかといって、四次元と五次元もの世界でもない。おそらく情勢の変転とわれわれの行動によっていくつにも変りうるものとして私たちは生活をとらえねばならない。それは一片の祝辞とか、あいさつではじまるものでなくて、まさに変動する社会と歴史をつくりあげてゆく人々の決意の力をもってはじまるものにならねばならない。諸君とわれわれの前途について包括的なことは云えないし、それだけでは無意味ですが、すくなくともこうした現在の状況を一刻も早く、正しくくみとって京都に來て下さい。そこからすべては開始されるのです。

京都大学学歌

水梨弥久作詞
下総皖一作曲

♩ = 138 拍

軽快に

mf やや荘重に

(一) コノエニハ
(二) みどりふくく

f

ナゾニホヘルセンネンノミヤコニアリ
すのはかぜにとさのかねつきてひびけ

mf *mf*

シノウチヲアシタフーミシメソノソラヲユ
はひとのよにまことた一つべくうつせみにま

mp 快活に

ウベアフゲバアヲグモハキハーミハ
ことたつべくたまきはるいのちを

mf

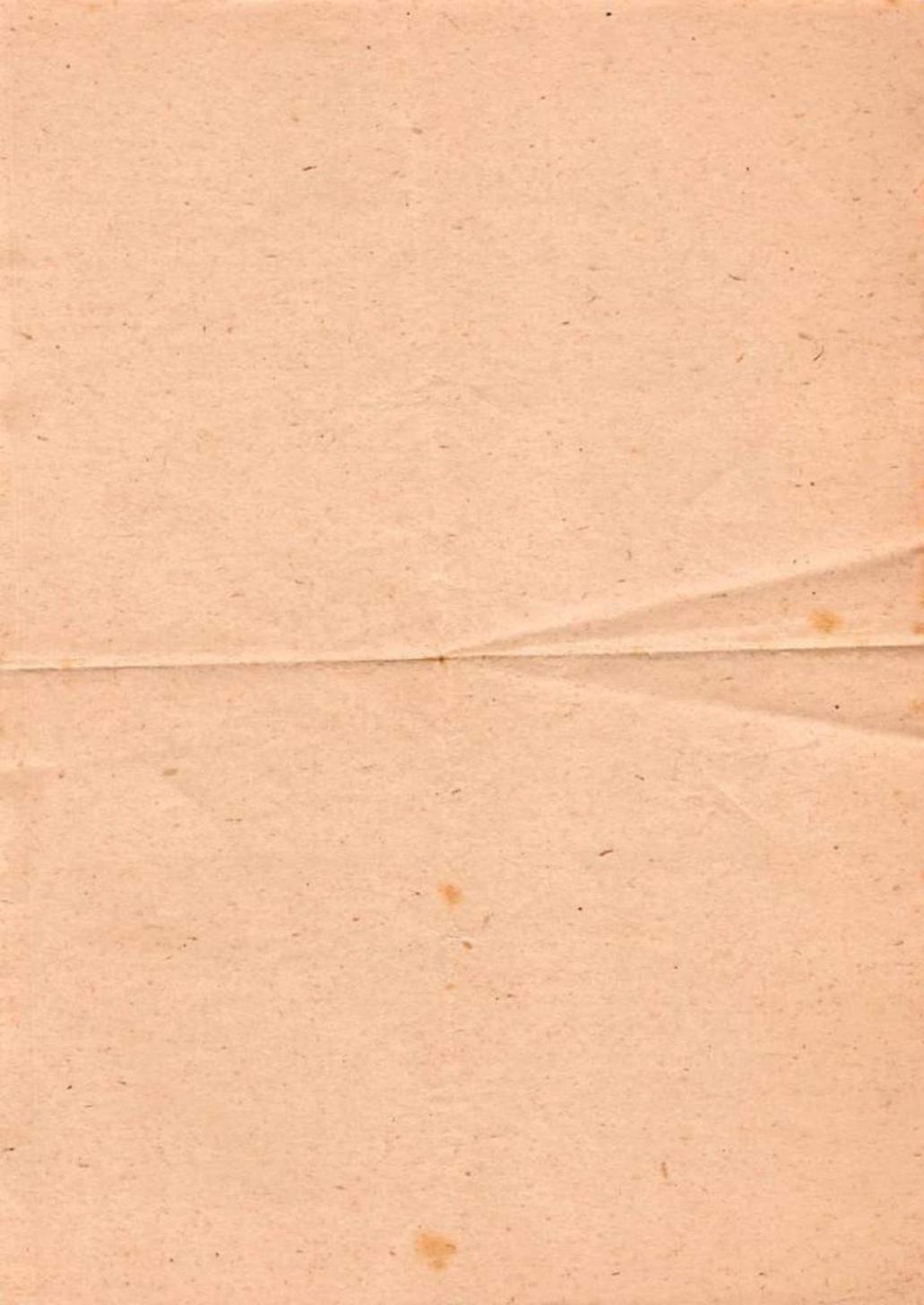
ルカニフレラノマナコラムカヘテールヒハヒカリタダサ
こめていしずえかたくきづかんのーびゆくつよさちから

f *mf*

シワレラノコトバニウツルー
のひいづるくにのこわれら

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| (一) 九重に | 花ぞ匂へる | (二) 緑吹く | 樟の葉風に |
| 千年の | 京に在りて | 時の鐘 | 結ぎて響けは |
| その土を | 朝踏みしめ | 人の世に | まこと立つべく |
| その空を | 夕仰げば | 現身に | まこと立つべく |
| 青雲は | 極みはるかに | たまきはる | 命をこめて |
| われらの | まなこをむかへ | いしずえ | 堅く築かん |
| 照る日は | ひかり直さし | 伸びゆく | 強き力の |
| われらの | ことばにうつる | 日出づる | 園の子我等 |

(昭和15年1月18日)





京都・四条

大丸

電(22)23) 2121



お買物は大丸へ!

ラッキースタンプ呈上



心に通ふ
糸めどげ

創作陶器

たちき

京・四条宮小路
河原町四条上
京都駅前
丸物名店街
京都ホテル
シヨツピングアーケド

お買物は

一番お便利な

タカシマヤ

京都・四条



高島屋

電(22)7611・7621

よい指導
よいピアノ



出来るだけ早くよい先生の指導を受け
品質のよい名の売れたピアノを使用す
ること…これがピアノ上達の秘訣です

ヤマハピアノ
三茶
十字屋

お買物は
美しく・
買いよく・
安い・
フジイダイマルへ

フジイ



京都・四条

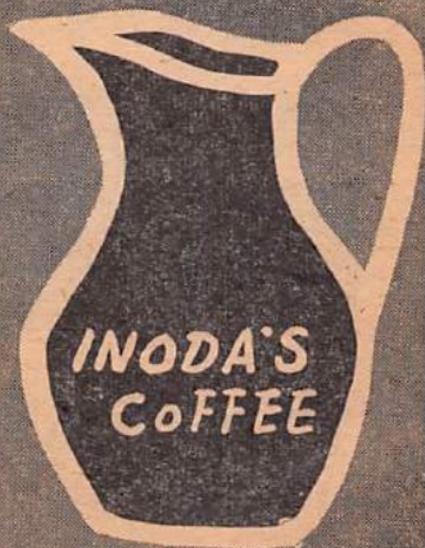
藤井大丸

電話 2101・3101

イノダコーヒ

京都・堺町三条下ル

TEL. 2505・507



世界の時計と宝石を揃えています

時計
宝飾



メガネ
記念品

寺町

京・四条河原町 北店電②1234・南店電②0025・東京店 日本橋通3の5

御入学おめでとうございます



学生生活の
記録に……

カメラのサクラヤ

四条店 京都市中京区河原町通四条上ル
電話 京都② 3831・4601・6189(夜間兼用)
寺町店 京都市中京区寺町通蛸薬師上ル
電話 京都② 2706番



株 式 会 社

オーム社

河原町四・条上ル
TEL.1階(22)0280・2階(22)0887

グリル・ビワコ

GRILL BIWAKO

ビワコに浮ぶ夢の城

琵琶湖文化館に美しいグリルが
誕生しました……一度お立寄り
ください

御宴会・御集会にも

スエヒロ の ビフテキ
ジャワ の カレー
東洋亭 の トンカツ
クール の 喫 茶
自慢の味を競います

県立琵琶湖水上展望閣内
大津市打出浜 TEL.大津8369



京都大学で最も多数の御愛用を頂いている

スミス・コロナ タイプライター

- ・スターリング型 ¥47,000 ・英・仏・独・露あり
- ・スカイライター型 ¥29,800 ・カタログ送呈

スミス・コロナ タイプライター

京都代理店

京都市中京区寺町三条北 電(代)21151

文通堂

カメラ

の

10ヵ月払

美しいD・P



フォト

カメラ

京都市中京区三条通寺町西 電26266

僕らの青春を
うたおう…
幸せのために
タカラで乾杯

■ 寶酒造株式会社

うまいビールは

**タカラ
ビール**



恒例桜まつり開催中

100円OK

トリハイ(トリッフルハイボール)
でいこう

洋酒の殿堂

コンパ

四条河原町西

コーヒーコーナー

40円の ホットドッグ
紅茶

グリルと喫茶

333 スリ-スリ-

四条河原町西

たのしい蒐集
嬉こばれる贈物に……

こけしの100円会もあります

風流人形

こけしや

四条河原町西

さ、やかなお小遣いで
存分に踊っていたゞける
お飲物付き

若人の社交場

ダンス喫茶

ラテンコォター

、四条寺町南バレス一階

思い切り唄って
飲んで
たった 100円

グランドバチンコ丸玉・階上
歌謡喫茶

むぼり

四条河原町西

老いも若きも美声も
音痴もみんな元気で
唄いましょう

炎

うた声 喫茶

四条寺町南バレス一階

日本の工業水準を押しあげる……

島津の製品



Shimadzu

科 学 機 器
産 業 機 器
放 射 線 機 器
計 測 機 器
航 空 機 器

島津製作所

本 社 京都市中京区河原町二条南 電23-6161
支 店 東京・大阪・福岡・名古屋・広島・札幌・仙台

印刷発行 一九六二年四月

「樹々のみどり」

—一九六二年度版—

京都市左京区吉田本町

編集発行 京都大学 同学会

電話①四二二 学内二四三乙

上京区下立売通小川東入

印刷所 中西印刷株式会社